

愚心得隨筆

三二  
四二

10

庫文閣内			
五	二	和	
四	二	書	
函	五	類	
二	二		
架	冊	號	

和書門			
	二		
	七		
	二		
	九		
四	二		
冊	架	函	號

内閣文庫	
番號	和 27252
冊數	4 ( 1 )
函號	154 10

154-10



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



火

愚得隨筆序說

愚得隨筆序說

景衡ハ武藝ノ達人且武器ノ故實ヲ知ルヲ以テ其名高シ又景衡ハ新井筑後守源君美カ妻ノ弟也故

愚得隨筆ハ朝倉孫右衛門日下部景衡カ集ル所也

景衡ハ武藝ノ達人且武器ノ故實ヲ知ルヲ以テ其名高シ又景衡ハ新井筑後守源君美カ妻ノ弟也故

君美ニ從テ文學アリ君美カ著ス所ノ本朝軍器

考板行スルニ至テ景衡モ亦軍器考圖式ヲ作テ板

行ス愚得隨筆ハイマタ世ニ行ハレス惜矣此書イ

マタ刪正セスシテ景衡卒シメ故ニ自考ノ過シイ

マタ改サル者アリ又佗說ノ誤シイマタ正サル者

アリ又論辨イマタ精カラサル者アリ又記事イマ

國史館  
明治十二年購求

父定サル者アリ愚此書ヲ讀ハ毎ニ別ニ考ヘ得ル  
享アレハ則記シ集テ一書トナシ附考ト名ツケテ  
此書ノ末ニ附ク此書ノ本文ノ傍ニ朱ヲ以テ見附  
考ノ三字ヲ記シタルハ附考ノ書ヲ合セ見セシメ  
シカ爲ノ符也愚浅オナルカ故ニ其過ヲ改メ其誤  
ヲ正シ其精カラサルヲ詳ニシ其足サルヲ補フノ  
カ<sup>チカラ</sup>ナシ總ニ小見ヲ記シテ識者ノ俟ツ而已  
明和七年庚寅夏五月十三日

東都扈從隊士伊勢平藏貞丈識

愚得隨筆卷一

刀劔類一

目錄

玉纏横刀

須我流横刀

新作横刀

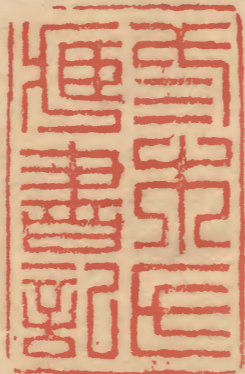
狛劔

劔刀

劔

劔太刀

劔代



瑠璃柄太刀  
 木地螺鈿劔  
 蔣繪螺鈿劔  
 蔣繪太刀  
 海浦太刀  
 汰懸地劔  
 葦手太刀  
 薄塵地劔  
 黒漆太刀  
 無文太刀  
 飾太刀代ノ代  
 平塵劔  
 蔣繪細劔



諒闇劔尻鞘  
 鳥頸太刀  
 鷲作太刀  
 野太刀  
 陰太刀  
 陽太刀  
 中卷  
 毛抜形劔  
 黒漆太刀  
 蔣繪野太刀  
 螺鈿野太刀  
 長伏輪太刀  
 韋緒劔  
 平鞘劔  
 衛府劔  
 大太刀  
 鞘卷太刀  
 武太刀  
 卷太刀  
 股寄

兵庫鎖太刀

甲牟太刀

怒物作太刀

白太刀

黒太刀

後鞘

細後鞘

丸鞘太刀

足白太刀

愚得隨筆

凡例

- 一 凡本邦兵器ノ制舊記ニ見エシトコロ一率ヲ得ル毎ニ筆ニ隨フ其證ノ考フヘキタメ也因リテ時世ノ前後ヲ序ツルニ及ハス異國ノ制ノ如キハ論スルニ及ハス
- 一 凡引用ノ書本真字ニ係レルヲモ國字 从フ見ルニ使リセンカ為ナリ若シ詳ナルヲ考ルコトハ其本書ヲ見ルヘシ故ニ引用ノ書目ノ分註ス
- 一 凡兵器上世呼フ所ノ名ノ如キハ文字ニ拘ルヘ



愚得隨筆卷一

玉纏横刀

刀劔類一

日下部景衡集

愚按玉纏横刀須我流横刀新作横刀ト云モノ太  
 神宮神寶ノ内ニアリ神ノ代ノ遺レル制ニヤ其  
 中玉纏横刀ハ柄ニ伴環アリテ五色ノ玉ノ纏ヒ  
 勾金ニ鈴八口ト玉ニツソツケテ鮒形須惠担了  
 リ後世ノ飭太刀ハ此制ニヨレル餘凡ナル歟  
 ○玉纏横刀一柄 柄長七寸鞘長三尺六寸 柄頭横著銅塗金長  
 三寸八分 片端廣一寸五分 頭項著伴環一勾 徑一寸五分

カラス古言ヲ以テ解スヘシ漢字ノ傳フル中古  
 ニ在ルカ故也  
 一 凡或書ト云ヒ或云フト云フハ俗諺ニ出テ口授  
 ニ傳フル類ノ如キ是ナリ  
 一 凡愚按ト云フ景衡カ私言ナリ庶幾久ハ博物君  
 子質サレコトヲ俟ツノミ

纏十三町四<sup>玉</sup>著五色組長一丈須惠組四尺柄著勾  
面有五色<sup>玉</sup>金長二尺<sup>著鈴八口</sup>琉<sup>表大暈緞錦裏</sup>紺紫組長六尺袋一口<sup>綾帛各長七尺</sup>延喜式

須我流横刀

愚按大様後ノ代ノ太刀ノ制ニ似タリ柄ニ鶴ノ  
羽ヲマトフト云イカナル物ニヤ未詳今ノ細太  
刀制是ニヨレルヤ須我流ト云ハ細トイフニ同  
○須我流横刀一柄<sup>柄長六寸鞘長三尺共鞘以之</sup>柄  
勾皮長一尺四寸裏ト暈緞錦<sup>廣一寸</sup>押鏡形金六枚  
柄枚押小暈銅錦<sup>長二寸一分廣一寸五分</sup>四角立乳形著五色

組長一丈阿志須惠組四尺金鮎形一隻<sup>長六寸廣二寸五分</sup>  
著紫組長六尺袋一口<sup>表大暈緞錦裏</sup>紺紫組長七尺<sup>延喜式</sup>  
新作横刀<sup>ニイツクリノタテ</sup>

愚按此太刀大様細太刀ノ作リニテ鐔ブリノナシ  
○新作横刀<sup>櫻板長六寸五分鞘長二尺七寸漆</sup>  
別纏小暈緞阿志須惠<sup>長各三尺二分</sup>著紺緞帛緒<sup>廣各一寸二分</sup>

拍劔

愚按ツバニハアウテワサクシタル輪アル劔ナラ  
ハ玉纏横刀欵

拍劔  
太刀劔

拍劔

○拍劔ハ柄長クテ輪ノアルハ太刀劔ハ両方ニ  
又ノアルハ劔ニ似タリツバニハアラテワサ  
トシタル輪ノアルナリ  
藻鹽草

○狗劔高麗ノツルキハホロサキニ枝有也万葉集仙  
抄采葉ニハ高麗ノ劔ハ輪アル故也

劔刀

○ツルギタチトニハアラザルカ常ノタチカタ  
十トイヘルハ片齒ニハラツケタル也ツルキタ  
チハ劔十トノコトクウラウヘニハラツケタル  
トキコヘタリ此集ノ第一卷ノ歌ニツルキタチ

モロハノトキニアシラフニシニモシナレキ  
ミニヨリナハトヨメル也  
万葉集抄

三銘柄劔サシコ エノケン

三銘柄の劔の人のありて也  
二天を子ある  
わよそをある太字記自伊勢造室劔事

○十束の劔と名付ハ十束ある劔と申つゝ人  
のたふあくの知るあつと云ふ其の劔は世に  
南庭の山に居るまきの社より海の袋山に居る劔と  
名付してたふあつと申すは十束の劔



三ノハ  
本年記自何勢進位御子

劔ツルギ

金装束

銀装束

帶劔

金造

利鑄太刀

刀子

大臣ノ時金装束大納言マテハ銀ツクリニテアルヘケレト近比ハアルニマカセテ用ルニヨリ  
テ金銀ノ沙汰ニ及ハス  
桃花葉葉

○武官ノ人ハ職ニ付テ帶劔勿論ナリ文官ハ勅授帶劔ノ宣下アリテ帶セラル、也但武家方ニ

ハ更ニ不拘テ法令皆帶セラル、例トナレリ装束抄

○金造太刀ハ尋常不用之宿老ノ人用之世俗淺深秘抄

○凡刻鑄太刀非ル新作ニ聽五位已上着用スル是喜式

○凡刀子及長寺以上不得輒帶但衛府者聽之

延喜式

鎧太刀

○凡畫鎧太刀聽立位已上着用 延喜彈正式

金作細劔

○モカチツクリ金作細劔 大臣之外不用之 物具裝束抄

大太刀

武烈帝紀曰 飢褒柁致鳴多利播枳多檄氏農哥儒  
登纂釋曰大太刀ヲ誰須衛波陀志凶謨阿波夢登茹

刀モ於謀賊釋曰未日本記

○御博士漢王劔天下欲亂時者倒卧吉吉凶之間

見附考故云御博士傳来ル假名字例

鎧太刀 鎧劔代

○凡公卿ハ鎧劔如法玉十ト居タルヲ云裝束要

○又曰古物鎧劔大畧亦也嘉禎九十二十九飾抄

○如法鎧劔ハ用赤滑強非異様只常劔之内如法

鎧之玉居十トシタル也 園大曆

○節會内宴御禊行幸十トニ公卿是ヲ帶入如法

鎧劔ハ近代不見之劔ノ裝束多ハ赤滑又ハ藍草

青草等モ例有リ朝ハ大畧木地ノ由記セリ然レ

鎧劔代

委曲ニ記シカケレ近代ハ鎧劔代ヲ用ユ鎧劔代  
ハ其勢螺鈿劔ノコトニ金ヲ以テ伏輪ヲカリル

瑠璃柄

紫檀地ノ上ニ唐草ヲ貝ニテ押スナリ柄ニ瑠璃  
ヲ用ユ露同ク瑠璃ナリ殊勝ノ物ト云、装束圖式

瑠璃柄太刀

○保安四三廿九臨時祭提政金作樋劔蔣唐草瑠  
璃柄也 劔抄

劔劔

○劔劔トテ只今人々用ルハ尤足芝引逆輪等ノ  
金物彫スカシタルハ各別ニ見ヘ候ヘ凡金身ハ  
蔣繪也劔劔ナラレニ十ドカ蔣繪螺鈿ニテ候ベ

劔劔代

キ劔劔代ト申サヘ木地ホラ候 野宮定基卿之説  
○劔劔近代其實希當時所用劔劔代也 物具装束抄

木地螺鈿劔

劔太刀代ノ代

○鞘ヲ紫檀ニテモ沉ニテモアレ木地ニシテ金  
具ナドニテ劔リタルヲイフ 装束要領抄

○行幸ニ公卿以下是ヲ用ユ節會ノ日諸衛將佐  
劔劔代是ヲ帶ス人節會ノ日執政ノ人代ノ代ト号シ此

劔ヲ用ユ此外讓位仕大臣立后列見定考御襖賀  
茂詣ニ帶ス并賀ニハ公卿ノ後帶スル歟 装束圖  
式

蔣繪螺鈿劔

○鞘ヲ蔣繪ニシテ金貝ナト入カホリタルヲ云  
但シ公事ニヨリテカハルヘシ 装束要領抄

樋螺鈿劔

○鞘ノ地ヲマキエニシテ表裏ニ樋ヲ入ル紫檀或ハ沉香等

○公卿殿上人通用 装束要領抄 飾抄

○蒔繪ト螺鈿ト通用之劔之故ニ樋ニ螺鈿ヲ摺

鞘ハ蒔繪ナリ

○黒樋劔銀樋劔金樋劔蒔繪螺鈿劔水精樋

ニテモ水精ニテモ蒔繪地ニ木地ヲノコシテ中

央ニ筋ヲトリタルニ候 野宮定基卿説

黒樋劔 銀樋劔 金樋劔 金樋劔 金樋劔 金樋劔 金樋劔 水精樋劔 金銀樋劔

蒔繪劔

平塵劔 蒔繪細劔

○御相雲客ニ帯劔ノ人被用之

装束要領抄

○符賀行幸弓場始御讀經等ニ用之御相雲客帯

劔ノ人多ハ用之尋常劔ノ号平塵劔蒔繪細劔

同事ナリ

装束圖式

平塵蒔劔

○平塵蒔太刀 東鑑

細太刀

○細太刀 東鑑 細身作ノ太刀 盛衰記 祇園女御

蒔繪細劔

○小松大臣蒔繪細太刀 鷗尻ニ佩キ 源平盛衰記

海浦太刀 見附考

海浦トハ海松貝ニ波文ヲカキタル也 野宮定基卿説

見附考  
沃懸地劔

愚按イカケ地ト云ハ鞘ノ地ヲフレニテ塗りテ  
ソレニ蔣繪ヲシタルナリ

○大理用之蔣繪太刀巡<sup>巡</sup>歛

各目抄

○一書ニ沃懸地太刀ハ蔣繪太刀之サレバイカ  
ケハ總シテ物ヲマキカケルヲ云

蔣<sup>イシ</sup>手<sup>テ</sup>太刀  
見附考

愚按歌ノ心ヲ蔣繪シタルニ夕トヘハ和歌ノ浦  
シホミチクレハノ歌ヲ浦葦鶴浪ニ假名字ヲ入  
テ蔣繪スルナリ

薄塵地劔

○心裘服用此劔云々

餽抄

○兼保元十廿六土御日着心裘服

<sup>上東門院</sup>御服ナリ

帶薄

塵地無文紫草裝束緝地無文平緒

餽抄

黒漆劔

○諒闇帯之金具等扱替吉服劔具也裝束無文紫  
或藍草云々劔柄白佐女常

餽抄

○重服同黒鞘金物黒漆曰草黒佐女云々保元二  
十一廿八中山曰劔柄黒佐女鞘黒漆金物黒漆白  
草裝束柄金物等塗墨用之督殿如此

餽抄

無文太刀

○大臣サウノ時モキユルムモンノ太刀也

平家物語

諒闇劔尻鞘車

保元元或秘記曰水豹尻鞘無文青草裝束左右衛門權佐惟方尻鞘虎皮

飾抄

薄塵地

○薄塵地トハ無文沃懸地ノウス<トフンヲ蕚タル劔ナリ

野宮定基卿說

物異裝束抄

黒塗細劔

○黒塗細劔 諒闇時用之

無文沃懸地

○無文沃懸地 類聚雜要抄

葦手銀作

○執柄家被用吉事寛徳二二二土御日從殿賜葦手劔子緒ニ筋明後日侍從并賀料也 飾抄

○保延二十二宇治丞相叅佐政蕚繪劔葦手銀作御堂御物

射懸地蕚繪葦手細劔

○保安四三十一新関白賜隨身後之申慶射懸地蕚繪細劔葦手也

○鴛鴦鷗葦手ヲ書ケル心地シテ 源乎盛衰記

○螺鈿劔蕚繪劔皆細太刀ニテ儀刀木刀ノ類ニ

テ真劔ニアラズサマカ子ニテ作りタルモノナリ 野宮定基卿說

平塵劔

○平塵劔 一条家抄曰蔣繪劔号平塵劔今按古  
人蔣繪劔ハ沃懸地ニ候ラシヌリニテ候ヘハア  
ラフシト申テ金ヲ粉ニシテ蔣候故平塵ノ名  
出来候 野宮定基御記 或云平尻太刀

沃懸地劔

○蔣繪劔鞘ヲフシヌリニイタシ候ヲ沃懸地ト  
申候其上ノ様々ノ文ヲ繪カリニ候尋常出仕用  
之候 同説

葦手劔

○花鳥餘情曰アシテノ色葉ハ蘆ノ葉ノ中ニ文  
字ヲ書シ水石鳥ナトノカタニモ書テスノ中峯  
和尚廿、葉書ト云文字躰ヲ篠ノ葉ニ似タル如ニヤ

○螺鈿細劔

木地公卿行幸日若列見定考日用  
之殿上人節會用之 物具裝束抄

○樋環鈿劔

樋計摺貝也前官大臣常用之 同記  
○蔣繪螺鈿劔 或有銀樋若人用之蔣樋者雖老

年人用之公卿殿上人常用之 同記

○蔣繪螺鈿細劔

宿老公卿行幸之時用之但近  
代公卿殿上人常用之 物具裝束抄

○蠻繪螺鈿沃懸地

類聚雜要抄  
○紫檀地 寬平五十御賀被用之 同抄

○沉地但凡有時好 同抄

○飾劔事仰云節會時帶之或用代但大節會白馬  
并御襖行幸之時不用代云々豐明  
永治槐記云如法  
飾劔必用赤滑草葦緒鷹司家傳抄

飾劔代

○飾劔代事子細見右 安元元年正月一日午禪

記云飾劔代紫檀地螺細劔鞘黃楯亦滑草裝束同記

カワ螺鈿劔

○カワ螺鈿劔事 衣笠命云文貝ナルニスナラ

金ニテモヤルハテモ入タル之仰云摺貝ハ夕ニ

金ヲホソクフセタル之刷日着之同記

瑠璃水精柄

○瑠璃水精柄等劔事 岡屋禪院御命云瑠璃水

精等柄劔者晴時用之但騎馬日不用云々同記

鳥頸太刀 未詳

愚按上古ハ鳥ノ頭ヲモ作ナシ欵相列鎌倉荏柄  
社菅神像佩給フ太刀ノ柄頭ノ飾リ鳥ニ似テ鳥  
ニモアラヌモノ之イカナル物ト云更ヲ知ラス



○太刀ハ兵庫鎖鳥頭皆彫物染鐔

庭訓性未

鷲造劔 未詳

愚按南部家藏ニ尊氏將軍ヨリ給リシ雞尾ト云  
太刀ニ振アリシニ火災ノ為ニ失タリ昔シヨリ  
家ニアリシモノ故ニ其制ニ習ヒテ造リ今モ有  
一振ノ制雄雉ノ頭ヲ作り雄鳥ノ尾ノ生ヲ鞘ニ  
蔣繪シ一振ハ嶋雉ノ頭ヲ柄頭ニシ鞘ニ嶋鳥ノ  
尾ノ生ヲ蔣繪シソノ外ハ常ノ太刀ニカハル莫  
クシ是鷲作ナトイフ類ナルヘシ

鳩作

蔣鳩

○廷尉被奉秘藏御劔鳩作

東鑑

○法皇御護御劔吹丸蔣鳩

東鑑

○鷲造太刀 屋島合戦

源平盛衰記

鳥頭劔

○鳥頭劔 鷹飼所帶之劔一候螺鈿劔ノ柄首ニ

鴛鴦ノ頭ヲ造リテ付タルニ候班猪ノ尻鞘ヲ入

候由天永四年師時御記ニ見候今ノ世ニモ小兒

ノ所翫俗ニ云装束ニ十ト申候人形ノ劔皆柄首

鳥頭ノカ様ノ類哉 野宮定基御説

○蔣繪太刀螺鈿太刀筋太刀鳥頭太刀野太刀

次第 江家

足白太刀


与一其比ハイマタセ計ノ男ナリカキニアカキ  
ノ錦ヲ以テオホクヒハタツテイロヘタルヒタ  
タレニモヨギヨドシノ鎧キテアシシロノ太刀  
ヲハキセ四寸イタルキリフノ矢肩ウスギリフ  
ニタカノハワリ合テハイタリケルヌタメノカ  
フラゾサシソヘタリ 平家物語

螺鈿

○螺ハ貝候鈿ハ金華餠ト字註候貝青貝候鈿ハ金貝候

野宮良  
基御説

野劔 陰太刀 陽太刀 中巻

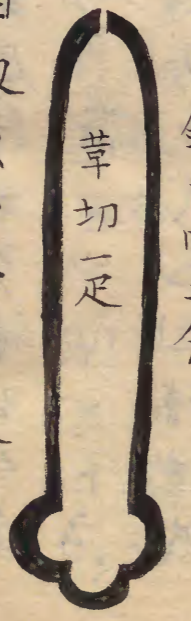
愚按此太刀ハ護身ノ太刀ニ對シテ野  
早ナルト云コ、口ナルヘシ一ツニシテ多クノ名  
アリ武官ニアラサル人ハ用ヘカラス細太刀ヲ  
衛府ノ太刀ト語レリ關東ニテ衛府ノ太刀ト云  
ハ細太刀也衛府ノ太刀ハ野太刀ノ事也野太刀  
ニハ毛抜形アルユヘニ毛抜形ノ太刀ト云毛抜  
形ハ目貫ノ下ニ  如此モノアリ其上ニ目貫  
相對セリ江列竹生島明神ノ神寶ノ太刀ノ身ア  
リ中子ニ三寸許ノスカシアリ是ハ毛抜形ヲシ

ト、メノ如ク入テ目貫ヲ子午テトメシ之堂上  
 ニハ野太刀ノ柄ニスカシアル太刀所持ノ家有  
 サレ氏今ハ形ハカリニテ真ノ身アル太刀ニ午  
 ハナキ事之衛府太刀ヲエトフトニ字ニキラス  
 シテエフト言葉ヲ引ツ、ケ讀ムヲ習ナリシカ  
 レ氏近衛府ト云時ハ切テ讀也塩囊抄ニ足モ十  
 ク大キナル太刀ヲ野太刀ト云ハ鷹野ナトニ持  
 太刀欽野太刀ト云テ不及見ト云々是ハ各別ノ物  
 ニテ昔ノ太太刀ノ更ニ腰ニ帯ハセテ從者ニ持

或記云小田原御  
 陣ノ時八王寺十  
 人担初テ御供  
 被仰付御長刀  
 ノ服ニ契訥  
 言殿ヨリ音信  
 トシテ遣サレシ  
 中卷ノ野太刀  
 カツカセラレ  
 タリ

毛抜形劔  
 草緒劔  
 平諸劔  
 衛府劔

セ或ハワツソクニ掛シ太刀之又中卷ト云モノ  
 アリ昔祖父越前ニ住セリ彼家ニ黑脛中者トヲ  
 黨アリテ領地出行ノ時ハ馬ノ前後ニ供奉セリ  
 此者黒キ脛中ニテ中卷ヲ持共制身三尺許ノ刀  
 ニ柄モ三尺許ニシテ笛卷アリ鞘モ十ク拔身ニ  
 テ持シメ給フ  
 銀一兩二分  
 ○上古ノ鐺子 類聚雜要抄  
 ○毛抜形劔尺号ス或ハ草緒劔或ハ平鞘劔或ハ  
 衛府劔尺号ス一物ニシテ多クノ名ヲ得タリ衛  
 府ノ公卿雲客尺ニ束帶直衣冠ニモ以草緒今世  
 或組



緒被用之其中大將ハ蔣繪野太刀公卿ノ將ハ蔣繪螺鈿野太刀次將并四府佐ハ未地螺鈿野太刀之近代次將ノ人蔣繪螺鈿野劔ヲモタサレハ各到卒尔隨役之時者多リ此劔ヲ帶セラルト云々但武官ニアラサル人ハ用ヘカラス以上飾抄然ニ今文官ノ人モ或ハ是ヲ持サレメ給フト見ヘタリ但可依時事欲於武家ハ衣冠ノ時野劔或ハ鞘卷太刀ヲモ帶セラル雖然若シ参内上殿ノ節ハ殿上ノ口ニ才井テ解劔ノヨシナリ装束要領抄

○野太刀差平緒例應安四年北面記ニ見ユ但不

鞘卷劔

為可之カト

○宿老次將騎馬之時宿衣之催着束帶用草緒野劔不具隨身或又具隨身常事ニ修身御幸多如此遠所使節之時入尻鞘也飾抄

○内裏燒亡帶此劔夏保延四二廿四日内裏燒亡

自在三條行幸白河院予帶野劔草緒蔣繪 鈿柄 餉抄

○鈎殿中将入道口傳ニ曰近衛司細々出仕ニモ

皆雜色令持蔣繪野太刀候雜色持右手服ノ下ニ

持候出テ雜色候ハ又時ハ童中間十トニ持セ候薩戎

黑漆劔

草緒蔣繪劔  
柄  
太刀持様

○六位用之有毛抜形 名目抄

○六位以下ハ黒漆ヲ用ユ

装束要領抄

○ソロカワ威ノ鎧着テ五枚曹ノ緒ヲシメノコソ

シツノ太刀ハキ

平家物語

○黒ヌリノ太刀三尺五寸

源平盛衰記

時繪野劔

○或ハ平鞘ノ太刀或毛抜形ノ太刀又草緒ノ太

刀ナト云ク武官令持之又殿上人束帯ノ時依事

著之或直衣始ノ時帯之歟

装束圖式

○野劔紫草装束

螺鈿野劔

○近衛次將依常令持之或公卿高位ノ人常ニ令

持之ナリ

装束圖式

衛府劔

○狩衣ノ小袂ヨリ手ヲ出シ衛府ノ太刀ノ身ヲ

平家物語  
盛衰記

長覆輪劔

愚按野太刀ハ鎧ノ芝引ノカナモノ各別ニ長シ

依テ長覆輪ノ太刀ト云歟毛抜形ノ太刀ト云ニ

同シ

○野劔一腰銀長覆輪在錦袋

東鑑

○太刀ハ長伏輪ナリケルヲ錦ノ袋ニ入ラレタリ  
源平盛衰記

○長フクリンノ太刀 平家物語

○蒔繪獅子或ハ獅子蠻繪海浦等所見候柄ハ銀ノ厨柄モ候モトヨリ 較柄モ候 野宮定基卿説

長卷

○長卷五十人長卷ハ三尺余アリシ刀ヲサヤナシニ柄四尺余ニシテ步行立ノ士ニ持セシ之信長スキ給テ五人御先ニ立候シ今世ハマレ也 太閤記

○螺鈿野劔 殿上人行幸日帶之但華族栄花壯年公卿將春日行幸ナトニ常用之事也 物異装束抄

○蒔繪野劔 大將直衣時式帶之殿上人布衣日帶之或雖束帶如御幸帶之 物異装束抄

○遠所行幸之時蒔繪螺鈿劔 衣笠命云本地ハ令損之故也藝行幸ナトニハ蒔繪劔ニ帑ニテ貝ノ様ニ文ヲ押也 鷹司家傳抄

○螺鈿野劔 行幸時四位將用之五位入尻鞘遠所行幸時大將并公卿將或用之 同上

葦子  
○アシテカキタル下繪ト書ルハ何ナル繪ソ或人ノ云アシテトハ文字ニテ繪ヲカリヲ云又或鈔物云和泉式部無双ノ好色之ケルニ亥子ノ夜

御歌アリケルニ熊心ヲ合セラレケレハ瘡<sup>カサツビ</sup>用ト云名ヲ式部取當テ

トヨメリ 愚筆トハ字ニテ繪ヲナスト注セル物アリ又葺子トモ書也或ハ木節或ハ雲ノハツレナトヲユガメルマニ字ノ似合メルヲ以テ書シ芦ナトノ枯卧タルニソヘテ云也 塏囊抄

見附考

鞘卷太刀 武太刀 股寄 卷太刀

愚按鞘卷ノ太刀ハ武太刀是也或卷太刀ト云鞘ヲ卷カ故ニ鞘卷ト云欣我具ニテ装束ノ太刀ニハアラス武家ニテハ衣冠ノ時此太刀ヲ用ユ堂上ハ必野太刀之護身ノ太刀ナレハ將軍家ニテ昔ヨリ武太カヲ用ヒシ歟雖然參内上殿ノ節ハ殿上ノ口ニオ井テ解劔ノ由ナリ太刀ニモ、ヨセノナキハ公家門跡ノ太刀ニモ、ヨセアルハ武家ノ太刀也ト云クモ、ヨセトハ武太刀ノ渡卷ノ下ヨリ出ル兩ヲホヒノ金具ナリト或人傳フ

是ヲ卷ハ鎧ノ太刀懸ニ當リテ鞘ヲ損シ鎧モ損  
スルユヘ武太刀ニカキリテモ、ヨセアリ戎衣  
ノ時ハ帯取布ヲ用ユル故實也

武太刀

東鑑

股寄

参考保  
元平治

同

○糟谷藤太有季持御劔武太刀  
○練鐔ノ太刀ノモ、ヨセニ射留メタル  
○太刀ニモ、ヨセノナキハ公家門跡ノ太刀也  
モ、ヨセノアルハ武家ノ太刀ナリ

大諸礼

平鞆

○御帯取アサキノ布アシアヒカントウイクリフ  
リモ此ツクリノ又平鞆ト申テ御シヤウソクノ  
トキモタセラレ候

宗五記

○公方様走レユ御成ノ時ハカレ候太刀イニシ  
ヘハフクリンナリ候フル今ハフクリレノ夏ハ  
申ニ及ハス大セツハ小セツハナトマデ金ニテ  
ツクリタル太刀ヲハカレ候シカルヘカラス候  
ヨシ金仙寺ノ給ヒシノ又ワタリシ様ノハキゾ  
ヘモサヤヲニシキニテツ、ミ大セツハ小セツ  
ハシバ引モ、ヨセイシツキカブトカ子カワリ  
キカワノモンマテ金ニテ作タル太刀ヲハカレ  
候大名ナドサモアルヘク候大カタノ人ハヨロ  
シカラス候ヨシニ候

宗五記



巻柄

○刀ノツカライトニテモカワニテモマクフ陣  
中ニテノ度ニアホシノ時ハシカルヘカラス大諸礼

股寄

○良文宛ガ胸板ヲコ、ロサシテ矢ヲ放ツニ宛  
馬ヨリ落ルヤウニシテ箭ニチガヘハ太刀ノ股

寄ニアタリタリ 今昔物語

巻太刀

○巻太刀 源平盛衰記

蒔劔

○塗込ノ矢負蒔劔ハケリ折鳥帽子ニ黒皮ノ劔ヨロヒ  
笠印ヲ左右ノ袖ニヅ付タリケル 同記法皇自天  
台山還御

見附考  
兵庫鎖劔

愚按鞘巻ノ太刀ノ帯執ヲ鎖ニテスルニ是ハ猶  
以甲冑ノ具ニ相列鎌倉鶴岡八幡神寶ニ兵庫鍔  
太刀ニ振アリ共ニ二尺餘兵庫鍔トハイヘ氏古  
法トハ異ニト鎌倉志ニ見ヘタリ 水戸黄門公  
御家藏制模アリ

○御所作兵庫鎖太刀引出ぬる源をまゝ 太平記  
○兵庫鎖丸鞘ノ太刀ニ虎皮尻鞘カケタル太刀 陸奥自癒寺

太平記

甲平太刀

愚按刀劔目利書ニ片鎬ト云ハ一方ハ鎬作一方  
ハ平作シイフトアレハカウヒラハ鎬平ト書ヘ  
キ歎今云片シノキニ但平四寸トアレハ手甲ノ  
心ニテ手ノヒラヲ見ルコトクト云フナルヘシ  
今モ諺ニハツノヒロキ刀ヲハ手ノ平程アル十

トハ云ナリ

高綱渡宇治川

○秩父カカウ平ト云ハ平四寸長サ三又九寸盛衰記

○備前作ノカウ平ノ太刀帯タルハ武藏國住人秩  
父末流畠山庄司重能一男次郎重忠  
盛衰記

見附考  
怒物作劔

○イカ物作トイフ莫今ノ人シラス虎ノ皮ノ尻  
サヤヲカケテ是ハ兵庫鎖ニ七足也柄ノ曹金ヲ  
余ノ太刀ヨリモコウタカナルニ武士ノハク太  
刀ニ萬鯨之聞書

○豹虎ノ皮ニテ鞘ヲ又ヒツ、ミタルヲ怒物作  
ノ太刀ト云フ駿河御所御物語ト羅山イハレシ  
ト云

梅村裁碩  
春藏

○緝糸威ノ腹巻ヲ著立鳥帽子ニ嗅物作り太刀  
服ニハサレテ  
源平盛衰記

信頼大悦テ  
イカ物作リノ  
太刀一腰ミジ  
カラ取出シ  
ハ悦ノ初トテ  
ヒカレタリ  
朝ツレンテ  
請取出ラレ  
平治物語  
信頼御信  
西滅

○唐綾威ノ鎧着テイカ物作ノ太刀ヲ帶二十四  
差タルタカウスヘウノ矢原ニ蒸藤ノ弓持平家物語

○重代ノキセ十カ緋威鎧キテ星由日ノ錯ラシメ  
イカ物作ノ太刀ハキ平家物語

○愚按イカモノ作ト云ハ拵ノサウタイ大キ成  
コトノ柄ノ曹金ヲ余ノ太刀ヨリモコウダカニ

テ武士ノハク太刀之云々大ノ字ヲ古言ニイカ  
ト訓スレハ大物作ト書ヘキ多キヲイカイコト

大キナルモノヲイカイモノト今モ云コト也  
徒然草句解云フツ、カハ大ノ字ヲ書キ  
テイヤシキ義トアレハ俗云拵ノ田天十  
ルト云事也

白太刀

○銀ツクリ銀ノ打較ニシテ目貫ナト或ハ家ノ  
文ヲ付帶執菖蒲草コシ表向礼儀ニ用ヘキナリ  
伊勢下総入  
道宗五記

○較懸タル白太刀太平記公家武家榮枯

○白太刀トテツカサヤトモニシロシ宗五記

黒太刀

○サヤヌリヲトシツカサメカケテクログヌリ  
カナク赤銅ニテウケホリナノコタルヘシ目貫  
ハワカイエノモンヲヤキ付ニスヘシ帶執シヤ

ウブカワアシアイモツカモマカスコレヲク口  
太刀トイフウテヌキ入ヘカラス  
伊勢下総入道  
宗五記

○白太刀一振聖ニ与ヘテ討死シケル太平記 神南合戦

○四尺五尺ノ白太刀ニ虎ノ皮付尻鞘引糸太平記  
畠山道誓

○白太刀三振 太平記 高麗人來朝

○白太刀 太平記 中近頃

後シヤ鞆

見附考

愚按太刀尻鞆ヲ劔後鞆ト万葉集書タリ是ハ軍

旅ノ具ニ豹虎熊羆ノ皮ヲ用ユ近世鞆皮トイフ

モ鞆皮ノ尻サヤヲ畧シヒキハダトイフ鞆皮ハ

草ノ名ニ鞆皮ノ切付ヒキメ皮ト云此皮ノ一

ニ北條五代記ニ虎ノ皮ノシレガヤ巻トシルセ

リ名目ニハシレサヤト云ヘキ歟後驅ヲシレカ

リ後取ヲシントリト訓スレハ後鞆シレガヤト

訓スヘシ又平尻太刀ヲ名目ニハヒヤウシント云

○尻鞆車仁安二年九月十五日殿記曰叅花山院

仰曰尻鞘車舞人之時竹豹皮不鏤之由故法性寺  
殿被仰云可用虎皮之又何レノ太刀ニモ遠方使  
節之時入尻鞘也 飾抄

○劔後鞘納野邇葛引吾妹真袖以著點等鴨夏草  
荊母 万葉集

○練鐔ノ黒漆ノ太刀三尺八寸熊皮ノ尻鞘入テ  
帶タリ 参考保元 平治

○兵庫鎮丸鞘ノ太刀ニ虎皮尻鞘カケタル太刀  
懸ノ半結テカケ 太立記 大塔宮

○熊皮尻鞘 盛衰記 小坪合戦

○虎皮ノ尻鞘 盛衰記

○虎ノ皮ノシニサヤマキノ太刀 北条五代記

弘尻鞘  
細尻鞘

細尻鞘 臨時祭使春日祭使路頭用弘尻鞘ヨレハ用  
平鞘劔ノ故ニ對之細太刀ノ尻鞘ナレハ

○或書曰布衣騎馬殊刷時御幸已下執柄宇治供  
奉者雜姓々如公卿勅使相伴時帶野劔或虎皮細  
尻鞘 飾抄

○江判官能範布衣冠草緒細尻鞘太刀郎等三人  
雜色四人調度懸一人放免四人 東鑑

○猪ノ皮ノ尻鞘ノ太刀佩 太平記

○竹豹 臨時祭舞人專用尻鞘候竹豹卜八梅竹

之豹也此對水豹稱竹豹候歟左筆トハ豹虎皮也  
洞院家色葉字類抄 竹皮サヒツ十訓ヲ付候竹  
皮トハ虎豹ノ皮ニ豹ニ竹豹アリ圖畫之類虎豹  
ハ必畫竹林候仍竹皮ノ名有之歟 野宮定基卿說  
○鹿皮 春日祭近衛使路頭之間蔭繪野劔加虎  
皮弘尻鞘由見定家卿抄

○班猪 仁平元年十一月十五日春日祭陪從裝束  
束台記曰猪皮尻鞘久李申云頃用班猪難得或用  
猪班猪トハマシ猪子ノ毛ハ筋ノコトクニラマタ  
委不知モシ此皮ヲ用ル歟

○鹿皮尻鞘魚形尻鞘班猪尻鞘無繪尻鞘臨時鏡  
馬條左右兼尻各十人騎馬相向共裝束繪尻鞘魚右 江次第  
○阿保肥前守三尺五寸ノ豹皮ノ尻鞘カケタル  
金作ノ太刀佩フ上 太平記將軍上浴

丸鞘太刀

○愚按丸鞘太刀ト云ハ武太刀也装束ノ太刀ハ  
身モ細ク鞘モ細カユヘニ細太刀トイフ丸鞘  
ハ戎器ナレハ身モ太キカ故ニ鞘モ厚シ今ノ刀  
ノ鞘ノコトシサレハ丸鞘ト云ク保元平治物語  
ニ鬚切ハ柄鞘圓作ク太平記ニ金作丸鞘太刀兵  
庫鎖丸鞘太刀所ニ見ヘタリ装束ノ太刀ハ多  
分ハ飾リマテニテ身ハ真ノモノニハアラス  
○鬚切ハ柄鞘圓作ナリ 保元平治物語  
○兵庫鎖ヲ丸鞘ノ太刀ニ虎皮尻鞘カケタル太

刀佩キ 太平記公家一統改道事

○鬼丸とて今作の圓鞘の右刀 太平記山崎改事

○あはれとて今作の建をてりて引出おせん

今作の右鞘の右刀一振ゆはれとて某所より

とて引出され 太平記 治法判友治免

○日平身一の右刀とて安くつゝみ次とて大寺の

右鞘の右刀 太平記 紀州新門山軍

○愚共平造太刀とて八世とて出雲東とて太平記

外傳太刀

○御劔銀作蒔相作 東鑑

○御劔金作文亀甲 東鑑

○銀作劔 東鑑

○金作劔 同記

○足白劔 平家物語

○細身造太刀 源平盛衰記

○金作丸鞘太刀 太平記

○鬚切八柄鞘圓作十リ 保元平治

○赤銅作太刀 源平盛衰記

○劔ノ金作ノ太刀 太平記中殿御會



○打<sup>ウチ</sup>鍼<sup>サメ</sup>ニ金作ノ太刀 太平記 中殿御會 白霞<sup>新</sup>輪太刀 記

○篠<sup>カサ</sup>作太刀 明德記 小竹作太刀 太平記

○打<sup>ウチ</sup>鯨太刀 鎌倉年中行事

○打海梅花太刀 鎌倉年中行事

○シ<sup>シ</sup>ンセイ作太刀 多経記

○コ<sup>コ</sup>フクリン太刀 多経記

○ムク鞘太刀 家ニ傳タル小狐ト云ムク鞘ノ

太刀帶 保元平治参考 信西カ太刀之

○貝<sup>クイ</sup>鑄<sup>シ</sup>ノ太刀 太平記 將軍落 虫<sup>シ</sup>盡<sup>シ</sup>太刀 太平記

○豹ノ皮ノ尻鞘カテタル蟲<sup>シ</sup>盡<sup>シ</sup>ノ小太刀 異本太 午記

○四尺六寸ノ貝鑄ノ太刀ノ抜テ鞘ヲハ河中へ  
投入 太平記 將軍上洛

○和田新兵衛打<sup>ウチ</sup>筈<sup>ハ</sup>テ返スニ難キ<sup>シ</sup>度<sup>シ</sup>カトテ四尺  
六寸ノ太刀ノ貝<sup>シ</sup>ノキニ血ノ着タルヲ打振テ

太平記 楠正行最後

愚得隨筆卷二

刀劍類

目錄

鞘卷

白鞘卷

黑鞘卷 守刀

鞘卷之圖

腰刀

打刀

赤木柄

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 刀, 劍, and 鞘.

聖柄刀

馬尾柄

脇指 合口

脇指 籠刀 馬手指

少刀 喰出 小刀

鐔 分銅鐔 葵鐔 棠鐔 練鐔

シトキノ圖

目貫 峯 脛巾金

算 算名所

火打袋 銀釵

愚得隨筆卷二 下部景衡集

刀劔類

鞘卷

愚按鞘卷或左右卷ニ作ルキサミ鞘ノ間々ヲ卷  
テ又ル故ニ鞘卷ト云フ是ハ腰刀也土佐光信カ  
畫シ職人盡ノ繪ニサヤ卷切アリソノ躰今ノ刻  
シ鞘作ル様子ナリ佐奈田与一刀指アケ雲透ニ  
見レハ鞘卷ノクリ形カケテ鞘ナカラ抜タリト  
アレハ太刀ニクリ形下緒アルヘキニ有サレハ腰刀  
タルヲ知ヌヘシ古キ鞘卷ヲ見シニキサミサヤ

下緒

ヲ巻テコシリニ穴ヲアケ三寸許ノ監草ヲ通シ  
鞭結ニス是ヲ犬マ子キト云下緒ヲ通シテ留ル  
タメナリ

○御刀鞘卷下緒見附考

○其後太刀ノ鋒三寸許オケラヌラニケリ腹  
ヲ切ラント腰ヲサクレ尺サヤマキヲ子テナカ  
リケリ平家物語

○左右卷庭訓往来

○騎馬ノ御供ノトキウラ打トイフ夏大口口ヒク  
タレサヤ卷ノ刀サスヘシ三儀一統

○刀ハサヤ卷サケヲハヒキメサゲヲ三儀一統非也

○忠盛見トガメテ物ヲイハス一尺三寸ノ鞘卷

ヲ抜キ手ノ内ニ耀ク様ナルヲ鬘髮ニスハリ  
スハリトカキナテ盛衰記

白鞘卷

愚按白太刀ノ例ニテ柄ニ白絞カケタル鞘卷ナ  
リ近世白絞カケハナシ目貫打ヌル小服指ト云

モノ白鞘卷ナリ ○笈ノ中ヨリ白鞘卷取出義經

○始ハ水干ニ立エホウシ白サヤ卷ヲサイテ舞  
ケレハ男舞トソ申ケル中比ヨリエホウシ刀ヲ

ノケラレテスイカニハカリ用ヒタリサテコソ  
白拍子トハ名付ケレ 平家物語

黒鞘卷

愚按黒太刀ノ例ニテ柄サヤクロクスリタル鞘  
卷欲盛衰記ニ黒漆ノ鞘卷

○忠盛朝臣黒鞘卷ヲ装束ノ上ニ横タヘ指シテ  
支度ハカリナキ躰ニテ腰ノ程ヲ差排タル様ニ  
シテ柄ヲ人ニソ見セケル 源平盛衰記

○御劔鞘卷付何物哉事 又談日御劔鞘有五六  
寸計物卷付人不知何物更資仲卿自撰進元四卷

出八書字

故大納言命云昔三條院御宇時為殿上人參内自  
無名門主上御干殿上御倚子子謹跪候地上仰云  
可昇候小板敷者仰云御劔鞘有被纏付之物是何物  
哉汝有所聞乎予奏云至愚之身難知如此更又仰  
云猶可申者奏云不兼遣説但或人申云若是御辛  
櫃鑑飲者天氣有感後日景理朝臣相語曰主上仰  
云我问秘事衆人不知而資平之所申已相叶尤所  
感也者仰件鑑事右相府仰也又在清慎公御口傳  
又江左大丞説云神璽管鑑纏宝劔之組纏篋之由  
見延喜御日記是秘文也非普通御説云 江談抄

見附考  
守刀

○行成イトサハカスシテトノモツカサメシテ  
カウフリトリテコヨトテカウワリシテマモリ  
刀ヨリカウカイヌキイテビシツクロヒ子サメノ記  
○白キ大口コクニカラオリ物ノヒタレ召レシキタ  
ヘト云腹巻キコメ紵地ノ錦ニテツカサヤツハ  
ミタルマホリ刀金作ノ太刀ハイテウスケシヤ  
ウニマユホソク作り髪タカクユヒアテ義経記  
○若君誕生ノ間代々佳例ヲ追テ御家人等御護マホリ  
刀ヲ被召又献ス御馬ヲ東鑑

○ヒ首ヒモカタ后母兄狭穂彦王謀反欲危セト社綬因伺皇  
后之燕居而語之曰云願為我殺天皇仍取七首授  
皇后曰是ヒ首佩于裯中マモ當天皇之寢迺刺頸而弑  
馬日本記愚按近世ノ懐劔ナト云モノ、権與  
ナルヘシ仁帝記

○アカゲノニシキニテツカサヤマキタルマモ  
リ刀ヲワキニサシカクシ大シユノ中ヲヌケ出  
テスケツ子カウシロ千カク子ラヒヨル曾我物語  
○楠木兵庫向ふと兒帯刀形イイ作菊水の刀イイ作の  
多山持渡の腰と押さけて自害せんとす太平記正成首送故卿

菊作刀



○出雲振根擊<sup>テ</sup>弟<sup>イ</sup>入根<sup>ニ</sup>而殺<sup>ス</sup>之<sup>ラ</sup>故時人歌<sup>テ</sup>之曰<sup>ク</sup>柳  
 句<sup>ク</sup>多<sup>ク</sup>菟<sup>ツ</sup>伊頭<sup>イ</sup>毛<sup>モ</sup>多<sup>ク</sup>難<sup>ケ</sup>流<sup>ル</sup>鉞<sup>カ</sup>波<sup>ハ</sup>雞<sup>ケ</sup>流<sup>ル</sup>多<sup>ク</sup>知<sup>チ</sup>菟<sup>ツ</sup>頭<sup>ツ</sup>羅<sup>ラ</sup>佐<sup>サ</sup>  
 波<sup>ハ</sup>摩<sup>マ</sup>枳<sup>キ</sup>佐<sup>サ</sup>微<sup>シ</sup>那<sup>ナ</sup>辭<sup>シ</sup>珥<sup>リ</sup>阿<sup>ア</sup>波<sup>ハ</sup>礼<sup>レ</sup>  
日本記 崇神記 釋日本紀曰  
 柳句毛多菟八雲立也伊頭毛多雞流鉞出雲梟師  
 也波雞流多知佩太刀也菟頭羅佐波麻枳葛鞘纏  
 也言<sup>イ</sup>上<sup>ラ</sup>古<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>葛<sup>ヲ</sup>纏<sup>ル</sup>太<sup>タ</sup>刀<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>柄<sup>ノ</sup>鞘<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>漆<sup>ヲ</sup>塗<sup>ル</sup>上<sup>ラ</sup>今<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>鞘  
 纏<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>體<sup>也</sup>佐<sup>サ</sup>微<sup>シ</sup>那<sup>ナ</sup>辭<sup>シ</sup>珥<sup>リ</sup>差<sup>サ</sup>成<sup>ル</sup>也 按<sup>ニ</sup>今<sup>ノ</sup>藤<sup>ノ</sup>柄<sup>ノ</sup>欵  
 ○浦人<sup>ヲ</sup>一<sup>人</sup>語<sup>ヒ</sup>寄<sup>テ</sup>白<sup>ノ</sup>鞘<sup>ヲ</sup>卷<sup>テ</sup>取<sup>セ</sup>テ<sup>ヤ</sup>殿<sup>ノ</sup>向  
 ノ島<sup>ヘ</sup>渡<sup>ス</sup>瀨<sup>ハ</sup>無<sup>カ</sup>教<sup>ヘ</sup>給<sup>ヘ</sup>悦<sup>ハ</sup>猶<sup>モ</sup>申<sup>サ</sup>ン  
 ト云<sup>ハ</sup>浦<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>答<sup>テ</sup>云<sup>ク</sup> 盛衰記盛綱渡藤戸

白鞘卷

見附考  
腰刀

愚按服指ト近世云<sup>フ</sup>也服指ト云言葉ハ明德ノ  
 比ヨリ見<sup>ヘ</sup>タリ腰ニ差<sup>ス</sup>ユ<sup>ヘ</sup>腰ノ刀トハ云<sup>フ</sup>  
 今モ腰ノ物トハ云<sup>ナリ</sup>  
 ○武田自<sup>ラ</sup>腰刀ヲ取<sup>リ</sup>行<sup>平</sup>ニ與<sup>フ</sup>人<sup>ノ</sup>東鑑  
 ○春日刑部三郎自行水底ニ沉<sup>ミ</sup>訖<sup>命</sup>オ<sup>ハ</sup>ラ<sup>シ</sup>  
 トス諏訪明神ニ祈念<sup>シ</sup>テ腰刀ヲ取<sup>テ</sup>甲ノ上<sup>ノ</sup>帶  
 小具足切良父<sup>シ</sup>テ僅<sup>ニ</sup>淺瀨ニ浮<sup>出</sup> 東鑑  
 ○太刀モコ<sup>ラ</sup>ヘス目貫<sup>穴</sup>ヨリ折<sup>ニ</sup>ケ<sup>リ</sup>タノム  
 所ハ腰刀ハカリナリ 源平盛衰記



○引組テ落重リ腰刀ニテ指違耻アル侍二人失

源平盛衰記

○熊谷ハ腰ノ刀ヲ拔出シ既ニ頭ヲカレトテ内由ヲ見ケレハ十五六許ノ若上臈薄氣狀ニ金ト

黒夕 源平盛衰記

○鞍ノ前輪ニ攻付ツ、内由ニ手ヲ入テ七寸五分ノ腰刀ヲ拔出 盛衰記

○出羽守源齊頼白髪ニ帽子カツキテタフノ直垂小袴ニ九寸許ナル腰刀ノツカニクス子糸巻タル服ツホニサシテ鷹ヲ居移之 古史談

見附考  
打刀

愚按凡刀ヲ鑄ヲ打ト云コレニヨリテ太刀刀打物トイフナリ

○佐貫四郎太夫御旨ヲ伺ニ面縛之處懐中ニ一尺余ノ打刀ヲ帶殆如寒水 東鑑

○黒草威ノ腹巻ニ打刀前垂ニ持シ 源平盛衰記

○金武ハカヤウノ剛ノ者打刀ニテハ叶ハスシテ鞘ニサシ小長刀ヲ莖短ニ取寄合サシトシケル 源平盛衰記  
兼成力下部ニ金武ト云放免アリ究竟ノ方大揚巻ニ在リ  
小手カシカカラ抜テ向會ヤリ 同記高倉宮信連合戰条

○萌黄匂ノハラマキ着打刀前垂ニサシ 平家物語

半下緒

○打刀トハ具足、上ニ指チイサキ刀ナリ 大諸礼

○公方様御打刀ハイツレモサヤヲクロニ入候

亦銅装束カナ鐔柄頭鐙タリ形ヤキツケ御目貫

マヘノコトシ丸ニ桐ヤキ付御下緒モ半下緒打

様モマヘノコトク巻系チヤ緋浅黄定ラス 大諸礼

○打刀装束ノシツケ 唐木鞘 カイラキ

フシサメ アイサメ ヒノサヤ カウヤク 鞘

黄シナルヤニテマ 利米子地 汰懸地 ウラノシ付

金具等ナリ

○見附考コカ子刀ハ御キンセイニテ候去ナカライカ

ヤウナルヲコカ子刀ト申ヘキソト候ヒニ折金柄

口栗形トトイロヘタルニテ候鐙柄頭目貫并小

刀柄コカ子候ハズルガコカ子刀タルヘキ欲

柄ウチサメ鞘ノシツケ又カナグ目貫并マテコ

カ子ナルハ中くサタニ及バス候イニシヘハサ

ヤウナル刀ヲバサモトアル人ハサ、レ候ハズ

或ハ小者ハ席ウナドサレケルカラキノ鞘カイラ

キサメサヤトドツカキレユハサ、レ候ヒシソレ

モ殿中へハ見及申候ハスラシサメ又鉾鉾ナド

カケタルヲバトシヨリタル人ハサ、レ候ヒシ

又公方様ノ御コシ物ハサヤヌリヲトシ柄草コ  
シモトコカ子 鎧柄頭同前ソレヲクロクヌラレ  
候ノミイレツカク子コカ子ハツキ同前御目貫  
丸ノ内ニツブ桐焼付御筭赤銅ミ、焼付又ヒノ  
サヤニ目貫ノコトクナル少キリ焼付<sup>候</sup>ホウミ  
ハアリ 御筭サキヲ二三寸ヲキテコカ子ニテソ  
キツギニツグナリ御小刀柄カ子クハシアリ又  
柄鞘梨子地カナコ赤銅御筭目貫前ノコトシ又  
カウヤク鞘ノモ御坐候也又普廣院殿富士御覽  
ニ御下向ノ取サ、レ候御腰物折金獅子栗形同

前ニ足アリ 鎧柄頭ニモ獅子スハリ候柄鞘金具  
石タ、ミヲ金具ニテ入ラレ候寸モ少シナカク  
御座候タイカイ御腰物九寸八寸許ニテ候カイ  
クツモ御坐候又マヘニシルシ候ツクリニテ候  
御下緒ヲハチヤノ糸又ハ紅トチヤノイトニテ  
一寸マタラニカメノカウナド打交モ御座候ツ  
ルカラクレナ井ノ下緒ハ見申候ハス又若キ人  
ナトハ梨子地沃懸<sup>イカダ</sup>地ノ刀モサ、レ候ノシツケ  
ウラノシツケナドハ近年人ノ御指候モトハマ  
へ申候ゴトクコモノ房ナラテハサシ候ハス候

伊勢下總入道  
宗五記

赤木柄  
見附考

愚按是モ打刀也工藤祐経カ曾我五郎時宗ニ送  
リシトイフ刀相列箱根別當坊ニ今モアリ

○汝ヲ鷲尾三郎ト云ヘシ名乗ハ我片名ニ父カ  
片名ヲ取テ経春ト付ヘシ片岡ト同名ナレモ多  
キ人ナレハ夏カケレ只今鳥帽子親ノ引出物ト  
テ花憐木ノ管ニ白々金銅金入タル刀ニ鹿毛  
馬ニ鞍置テ赤皮威ノ甲曹小具足付テ給フ  
鷲尾ノ谷案内  
盛衰記  
○腹巻ノ高紐切テ推ノケ直垂ノ紐トキクツ口

ケ赤木ノ柄ノ刀指タルヲ拔テ取直シキリノト  
シケル兼久記

聖柄刀  
ミリツカノ  
見附考

生ノ衣裳短キ  
ニ白キ大ロヲ  
著給タリ聖  
柄ノ腰ノカヲ  
サレ大ニ瞑ッ  
タル鉢ナリ  
盛衰記大納  
言音立

愚按七寸許ノ刀ニ今イフ合口ノコトク鐔モナ  
ク柄ヲ或ハ櫻ノ栞或ハ藤ニテ巻ウスキ溜ヌル  
ニシタル古ルキ刀ヲ北國ノ商人指來シ聖柄ト  
云ヘキナリ禪門ナドノ帶刀歟

○相國ハ素結ノ衣ヲ着尻切ハキ長念珠後手  
取テ聖柄ノ刀サレ源平盛衰記

馬尾柄刀  
見附考

愚按近世拔柵毛ヲ組テ柄ヲ卷テ類ナルヘシ

○文覚ツガ管ニハ馬ノ尾組テ卷一尺餘リナル刀盛衰記

○文覚フトコロヨリ馬ノ尾テツカ卷タリケル

刀ノ氷ノヤウナルヌキ持平家物語

○赤銅作ノ太刀ヲハキ一尺三寸アリケル刀ニコ

メシヤウ見附考ニテオモテサヤヲツ、ミテム

ズトサシ美經記

○袴ノク、リタカクユヒシラウチテノ笠ヲキ

セ奉ル赤木ノ柄ノ刀ニタミタルアフギサシ同記

○ヒジリ刀藻塩州

聖刀

赤木柄

皮包鞘

見附考 服指

見附考 合口

見附考 喰出

コカク 小刀

中服差

大服差

エヒラカク 籠刀

メテサシ 馬手指

愚按上古ハ打刀腰刀ト云ヒシヲ明德ノ頃ヨリ

服指トイフヲ見ヘシ始也今ニ至リテハ其中ニ

モ鐔ノナキ小キ刀ヲハ合口一尺二三寸計ノ刀

ニ鐔ヲ打シテ喰出シトイヒ一尺八寸計マテ

ハ中脇指二尺ヨリ上ハ大服指ナト云ムカシハ

摠テ刀ト云シ也小刀許ハムカシノ名残りテ今

モ小刀トイフ近代甲曹ノ上ニ右ノ服ニ柄ヲ後

ニナシテ差シ馬手指トイフ是ハムカシ籠刀ト

云シテ今ハ馬手指ト云歟  
○篠作ト云御帶刀ニニ銘ト云御太刀ニ振添テ  
ゾハカセ給ケル藥研徹ト云御服指ヲサセ給  
フ明德記

○山門ノ衆徒列立シタリケルカ南都ノ衆徒ハ  
面々ニ見附考服指ノ太刀ナレト用意ノ一ナレハ拔連  
テ切テカ、ル太平記最勝講之時及鬪諍

○佐々木三郎盛綱小刀ヲ鯨ノ楚割ニ相副折敷  
ニスヘ子息小重ヲ以テ御宿所ニ送進ス 東鑑  
○良久有テ手箱ヨリ小刀出シテ 源平盛衰記

○御筭サキヲ二三寸ヲキテソギツギニツグ也  
御小刀柄カ子クハレアリ 諸礼集

○エビラ刀カキカキ刀三腰マテコソサイタリ  
クリ 高館舞

赤木柄

○祐経ゲンザレノ始ニ折フニ引出物コソナケ  
レ又ムナシカラレモム子レナレ是ヲトテフト  
コロヨリアカ木ノツカニドウカ子イレタル刀  
一コレ取出シハコ玉ニコソトラセケレ 曾我物語

○柳筥盛ヤキ視筆墨小刀江次第

今ハ亦も海をうらむ少カ世ふつれぬ身とを願ぬ 夫木集 公朝

小刀

エビラ刀  
カキ

わらうとまのまぶらもらぬ少刀世少くえていそ思ひ俺

新六帖

柄卷

紫柄 古語拾遺曰至<sub>テ</sub>於<sub>ニ</sub>長谷朝倉朝<sub>ニ</sub>秦氏分散<sub>テ</sub>寄<sub>ル</sub>隸<sub>ト</sub>佗族秦酒公進仕蒙寵詔聚秦氏賜於酒公仍率領<sub>シ</sub>百八十種勝部蠶織貢調充積庭中因賜<sub>テ</sub>姓<sub>ヲ</sub>宇豆麻佐註仍以秦氏所貢紵纒祭神<sub>ヲ</sub>劍首<sub>ヲ</sub>今俗猶然<sub>リ</sub>

服指刀

○淵邊シタ、カナル者ナリケレバ刀ヲ奪ハレ進ラセシト引合ヒケル間刀ノ鋒一寸餘リ折レテ失ニケリ淵邊其刀ヲ投捨服差ノ刀ヲ抜テ先ッ御心モトノ邊ヲニタ刀刺ス 太平記 兵部御宮慶御

見附考  
少刀

○堂上ニハ直垂ニ少刀ノ直ナシ但シ陽明家ニハ代々御例トシテ少刀用ヒ給フ武家ニハ供奉ノ時少刀鞘卷、太刀帶セラレ殿中出仕ニハ少刀ノミ用ヒラル、也イニシヘ白太刀黒太刀ナト云太刀帶セラレ、例粗武家ノ記ニ見ヘリ陽明家トハ近衛殿御家也昔大内裏ノ時近衛殿御家陽明門ノ前ニアタリタリ故ニ陽明ノ御家ト申テラハセリ

○尊氏將軍己未代々御在京ノ間近衛殿へ紅直

垂少刀被進 御例トシテ用ヒ給 裝束要領抄

○或見附考曰萬松院殿 叟晴公 御時惠雲院殿へ 植家公

被進紅直垂少刀之例也

下緒緒下 御刀鞘卷下緒 東鑑

○刀ハサヤマキ下緒ヲハヒキメ下緒ヒウチ袋

サグヘカラス 諸礼集非也 宗五記

○公方様御打刀何モ鞘袋入候赤銅装束カナ鐔

柄頭コシリ又粟形焼付御目貫前ノ如シ丸桐焼

付御下緒モ半下緒ウチヤウモ前ノコトク巻糸

茶絆浅黄定マラス 諸礼集

鐔 分銅鐔

見附考 葵鐔

見附考 染鐔

見附考 練鐔

愚按深見道周宗種日向國諸懸郡霧島嶽 タカ

ノ嶽凡云地神弟三瓊々杵尊降臨ノ 二國ノ御柱 ミ

アリト聞テ肥州長崎神人青木主計頭永弘同伴

シテ元禄五年壬申七月中旬登山ス絶頂ニ小石

ヲナラヘ丈四方形丸形石ガキノエトク見ユル

中央ニ長サ二尺許幅二寸許ノ銚アリ銅鐵ニモ

アラサルカ子色ナリムカシハ何程アリケル先

ハ折レニ鉢ナリ銚ノ本ニ鼻高キモノアリ岐神ノ

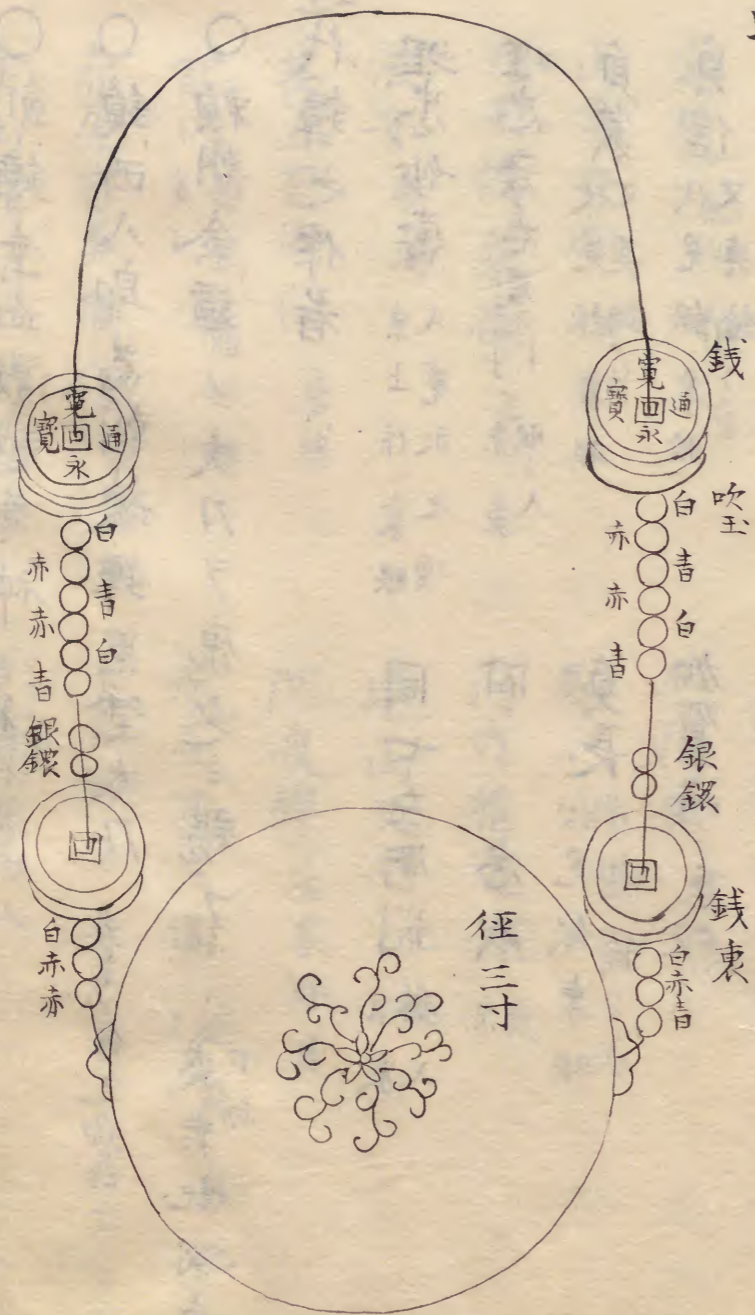
百斤云ヘレ兩方ニアリ 猿田彦 扱嶺ノ銚ノソハ



ニ坐シテ四方ヲ詠シ此大藪大松原ナトニ大風  
雨ノ吹下ルコトク四方鳴動シテ霧幕ノコトク  
ウチカコム三人同志身躰見ヘス互ニ手ト手ヲ  
取組鉾ヲ中ニシテ觀念シ絞ヲ讀ム声モカレク  
ナリ手モ冷ケリ永弘懐中ヨリ新穀ヲ取出シ昔  
稻穂ノ所謂ヲ以フリ絞シ時忽霧暗帰リシト也  
按スルニ鐺ノアルヘキ所ニ猿田彦ノ面アルハ  
順カ和名抄ニ和名都美波劔鼻也ト云ニ合タル  
ナリ細太刀ノ鐺此制ニ似タリ今ハ分銅鐺ト云  
劔ノ鼻<sup>ト</sup>云ヘキモノナリ分銅ニ似タレハ今世

俗言ニ云也都美波トムカシハイヒシヲ中畧シ  
テツバトイフ上下ヨリツバヲセムレハセメツ  
ハトイヒシヲ言葉ノ長ケレハ是又中畧シテセ  
ツハト云也<sup>ト</sup>葉鐺未詳<sup>ト</sup>云モノハ米ヲ水ニ浸  
シツキツク子ニ餅也神ヲ祭ニ用ユ見ニヨラハ  
銀鐺ニ石目打シヲヤ云ヘキ歟蝦夷ニシトキト  
云モノアリ其形三寸斗丸鏡ノコトニ或ハ銀或  
ハシロメナカシ中ニハ唐草毛ホリアリ左右ニ  
紐ヲ付青赤白ノ吹玉ノ緒留片ニ九ツ左右十八  
銀環左右四ツ吾國ノ寛永錢是ハ何錢モ定メナク

蝦夷シトギ



通シテ女ノ頸ニカクル飾也此鏡ヲ鐔トセシ歟  
 シトキニ似タル故ニ染鐔ト云歟近世鑿直シト  
 テ古キ響ノ鏡ニ相紋アルヲ鐔トセシアリ野太刀  
 ノ鐔制是ニ似タリ是則シトキ鐔也細太刀ノ鐔  
 ナハ俗分銅鐔鞘卷太刀鐔ハ葵鐔野太刀ノ鐔  
 ハ九ク染鐔也當代ノ九鐔ハ染鐔ノ残ル形也  
 ○練鐔ノ太刀佩テ鎌倉殿ヨリ給ケル磨墨ニ乘  
 リ源平盛衰記  
 ○黒又リノ太刀ノ三尺五寸アルニ練鐔入同記  
 ○太刀者兵庫鎖鳥頸皆彫物染鐔庭訓往来

夫木集 信實

○劍鐔 血激越為神神代卷

○鎮西八郎為朝練鐔 黒塗太刀参考保元物語

○頼朝金鐔ノ太刀ヲ康定ニ賜フ盛衰記 関東 下向

近代鐔之作者

埋忠妙壽京上作象眼 入寛永之頃 同七左衛門京象眼入

埋忠彦右衛門京象眼入 同 忠次京

貞家伏見銀象眼 又真鍮 貞長伏見銀象眼 真鍮

貞信伏見銀象眼 又真鍮 加賀守大坂

久兵衛大坂 鉄人青木尉右衛門江戸

大隅江戸 戸田彦左衛門尾州

定長紀列代々有 正阿弥會津

山吉兵衛尾州 駿河備前代々有

九里傳兵衛長門 河内權之丞長

法安廣嶋 遠山又七肥後

甚五右衛門唐津 阿波鐔金象眼多

記内越前龍彫物 多シ 赤尾甚左衛門越前 燕地ス

赤尾吉兵衛越前 燕地ス テレホウ奈良タガエス力

金山鐔イッレモ古シ 漢南象眼入

古キ鐔ハ赤小豆ノ色ナリ又鐔ニ上作下作アリ

厚キ鐔ノミハノ一文字成カヨシ後スカレ有古  
キツハノ耳ノスリテ一文字ニシタルモ有古キ  
ハ必耳ニモクメ出ルモノ也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

目貫 峯 脛巾金

愚按近世ノ刀作りハ中<sup>ナカ</sup>子ノマ子際ヨリ三伏置  
テ目釘穴ヲウカナ別ニ目釘ヲモフク上古ノ太  
刀作ハ皆目貫穴中程ニアリ 刀銘ハ又ヲ上ニシ  
テ指表ニアリ太刀  
銘ハ又ヲ下ニシ  
テサレ表ニアリ 目貫ノシレニテ目釘ニスル故  
ニ相對スルナリ今モ古キ目貫ニハ古ヘテ存シ  
タルアリ是ヲ陰陽ノ謂ナリト云ハ誤レリ曹ノ  
鋒ヲ打破喉笛マテ打サカント打タリケレハ太  
刀モコラヘスレテ目貫穴ヨリ折ニケリタノム  
所ハ腰刀許也太平記等皆々目貫穴ニ作ル也目

貫ヲ打ニ式アリ生出トテ草木ハ梢ヲ鋒ノ方ヘ  
ナス追込トテ畜類鳥類ハ頭ヲ柄先ヘムクル也  
○夜打ニハ太刀ヨリ柄長物ヨカルヘシトテ小  
長刀ヲ給フ是ハ故左馬頭義朝ノ秘藏ノ物也銀  
ノ小蛭巻ニ目貫ニハ螺ヲ透シテ義朝身ヲ不放  
持レタリ 源平盛衰記

○明春是ヲ見テ東門五色ノ熟瓜ソヤトテ曹ノ  
鋒ヲ打破喉フヘマテ打サカレト打タリケレハ  
太刀モコラヘズシテ目貫宛ヨリ折テケリ 盛衰  
記

○曹ノ鋒ニアマリツヨク打アテ、目貫ノモト

ヨリ下トアレクツトヌケテ川ヘヨツフト入ケ  
ル 平家物語

○此間ノ御謀叛早顯レタリト覺ユ早面々太刀  
ノ目貫ノ堪<sup>ミ</sup>裡ハ切合テ腹切レト呼 太平記

刀峯 近世ハ刀ノ棟トイフ也 丸峯 菴峯 三峯等品  
アルナリ

○太刀ミ子ニテ左ノ肩ヲ頸カケテシタ、カニ  
打タリ 源平盛衰記

○長刀ヲ持レタリケルカ峯ハ編木子ノ如ク被  
切テ又ハ鋸ノ様ニソ折タリケリ 太平記

鉏金

○一時カ程戦ヒケルニ景高脛金ヨリ太刀打折

源平盛衰記平家

落上ル所々軍

マフタキ

○肥前守景家水干装束ノ取ハ無双布衣ノ取似

田舎五位束帯之時ハ諸人笑之云常ハ鳥扣ノ水

干無文袴紅衣ヲ著テ赤ツカノ刀ノマフタギニ

貝摺タル差テ家中ニハ居タリケル

愚按マフタキハ今ノ目貫ナリ

目貫

○身ハ一尺二寸有ケルテホコノヒルマキシ口

クシタルヲラカホソカイヲメヌキニシタルヲ持テ

参ル土佐カ膝ノ上ニヲケトソノ給ヒケル

白糸の目貫此太刀と云はるる所なり此おとあるハたうそ

義経記 鮎遣

見附考  
算

永禄六年秋

景侯陳取ニ

福留平左三門

カ金龍ノ首指

失ヒシ云云

首指ハカウ

カイノ更也

愚按上古ハ馬ノ上ニテ一具ユカケヲサシ、也

馬ノ上ニテ弓ヲモタヌ人ヲハヲカシキトニイ

ヘリ弓モタヌ時モ人ニ持スル間ユガケヲ馬ノ

上ニテ寸スハ何時モ弓ヲトリテ射ヘキタメ也

サレハユガケノ緒トメニカモサキナト云テ式

ノアレハユガケサシテハユビモキ、カヌル故

ニ算ニテサシ入シ程ニ腰刀ニサシ腰ヲハナタ

ス持シクヅリ也今ハユガケノ式モ取失ヒタレ

ハ無用ノ物ニナリテ故實モナクカサリノミニ

行成御カウ  
カイノ更盛  
衰記日本國  
廣披ノ下ニ  
右ト同シ

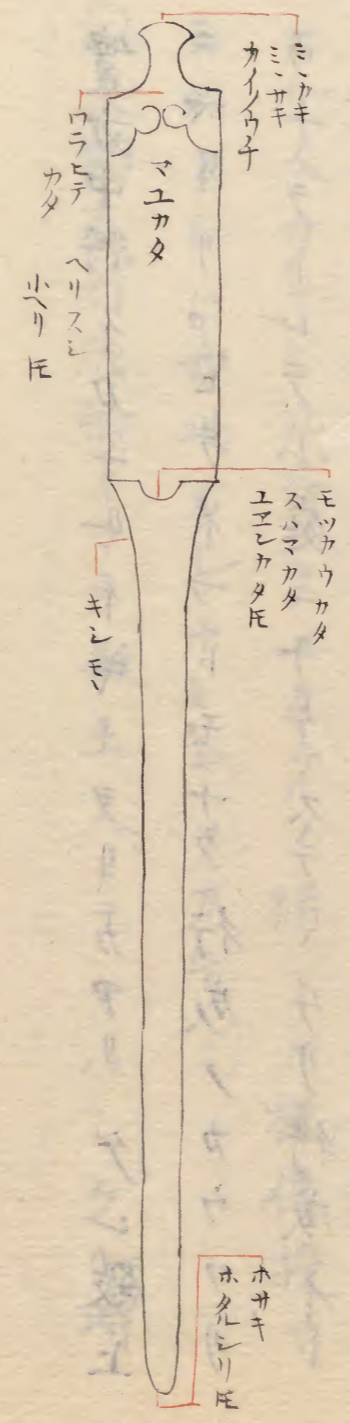
ナリテ犬追物換見ノ時矢印ニ用ル秘更アリ美  
經朝臣ノ算ノ枕道中ナトニテカウガイヲ疊ニ  
テ其上ニ枕ヲス トテ大更アルナトイフ皆是枝  
葉ノ更ナリ三方テ原御合戦ノ時石川伯耆守尾張  
へ使ニ行シカ今度打死モハカリカタシ死後軍  
陳ノユガケノ緒トメ様不知トテ人々ニアナヅ  
ラレレモ口惜トテソノ頃美濃ノ土岐殿古實知  
レル人ナレハ立竒テユガケノ緒トメ様傳授セ  
シムカシハ如此タシナシソカシ

○大納言行成卿イマタ殿上人ニテオハシケル時

行成御カウ  
カイノ更盛  
衰記日本國  
廣披ノ下ニ  
右ト同シ

實方中將イカナルイキトヲリカアリケレ殿上  
ニマイリアヒテイフトモナク行成ノカウフリ  
ウチヲトシテ小庭ニナケステ、ケリ行成イト  
サハガスシテトノモヅカサラメシテカウフリ  
トリテコヨトテカウフリシテマモリ刀ヨリカ  
ウカイヌキイデヒレツクロヒ井ナヨリテイカ  
ナラレ更ニテ侍ラレタキマテカウホド乱罰ニ  
アヅカルベキ更コソオホヘ侍ラ子云子サメノ記  
○馬ノ上ニテイツモユガケサスベキ也弓モタ  
ストモサスベシムカシハイツモ馬ノ上ニテ弓

ヲモタヌ人ヲハオカシキ度ニ去也サレバ弓ヲ  
 我モタヌ時ハ人ニ持スル間エカケヲ馬ノ上ニ  
 テサスハ何時モ弓ヲトリテ射ヘキタメ也 美人草  
 ○捻シテユガケノ緒トムル色ハカキタチ犬追  
 物笠懸具足著テト流鎬馬ノ時四色十ヲテハア  
 ルマシキ也犬笠懸ノ時トムル様ハ常ニ一具ユ  
 カケノ緒トノ也 美人草



○今ハ昔右近ノ陣ニ春近トイフ舎人在ケリ鞠  
 ヲナシキハメテイミジク蹴ケルアル時春近ガ  
 後町ノ井ノ簀ニカレカ、リ立ラ若キ女ナトヲ  
 オホク在ケルニ見セトオモヒテ鞘ヨリ カウガイ 勁扇  
 取出シ手ノ爪ノ上ニタテ、井ノウヘニサシ出シ  
 四五十度ハカリカヘシケルヲ人アツマリ奥シ  
 感シケル 今昔物語

○觶 シクリ 唐韻云觶 許規反和 角錐童子佩觶 テラ 説人云  
 角銳端可以解結者也 和名抄





燧  
付竹  
硫黄

ケル也今ノ世マテモ人ノ腰刀ニ錦ノ赤皮ヲ下  
 ケテ火打袋ト云フハ是故也我祖母縫シ火打袋  
カ、リヲ付シ袋也舞樂ノ採束老ニ藥盛衰記  
袋トテ鞘ニ付テサクル同キモノナリ神鏡神玺都入  
 ○圓滿院太輔燧付タケ硫黄ナト用意シテ燧袋ニ  
 シツラヒ入形ヲ修行者法師ニ造リ成テ山門へ  
 コソ忍ヒ登シ源平盛衰記曰滿院太輔登山  
 ○ヒウチブクロハ四十已後サグルタ、シソレ  
 トモハシメ時ハシレシヤク在ヘシコトニ大キ  
 ナルハワロシ去ナカラ宿老人道ハクルシカラ  
 ス諸礼集非也  
宗五記

○柄鞘皆金ニテ打ク、ミタル刀ニ虎ノ皮ノ火  
 打袋サテ太平記公家武家栄枯

○愚按付竹ト云ハ今世イフホクチト云夏ナリ  
 硫黄ハ今世云フ付木ト云夏也ホクチニハ竹ノ  
 コノ自然ニ朽タルラムカシハ用ヒシト云田舎  
 ニテハ今モ用ル也職人尽ノ繪ニワラノミゴ箆  
 付木高フ躰ヲ繪書ソノ言葉書ニユワウハ、キ  
 ノトアリ古諺ニ山伏ノ腰ニ火打付竹宝螺貝  
 付シト云フ

○解開其姨倭比賣命之所給囊ヲハヤマトヒメノミソト口ヲ而見者夫ハ火打有

其裏於是先以其御刀ヲ薙撥<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>其火打<sup>ヲ</sup>而打出<sup>シ</sup>火<sup>ヲ</sup>  
著<sup>テ</sup>向<sup>テ</sup>火<sup>ヲ</sup>而燒退<sup>テ</sup>還<sup>リ</sup>出<sup>テ</sup>皆切<sup>リ</sup>滅<sup>ス</sup>其国<sup>ヲ</sup>造<sup>ル</sup>等<sup>ノ</sup> 古史記

○昔砥左尉門夜ニ入テ出仕シケルニイツモ燧  
袋ニ入テ持タル錢ヲ十文取ハツシ滑河へ落シ  
ケル 太平記北野通夜物語

○心も<sup>カ</sup>ぬ<sup>ル</sup>ぬ<sup>ル</sup>出<sup>ル</sup>家<sup>ノ</sup>ノ<sup>ク</sup>呼<sup>ビ</sup>入<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>常<sup>ノ</sup>師<sup>ヲ</sup>悉<sup>ク</sup>入<sup>テ</sup>道<sup>ヲ</sup>勝<sup>ル</sup>ニ  
蒙<sup>リ</sup>テ<sup>ハ</sup>名<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>提<sup>テ</sup>執<sup>リ</sup>さ<sup>シ</sup>け<sup>ル</sup>人<sup>ノ</sup>少<sup>ク</sup>ぬ<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>出<sup>ル</sup>也<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>毎<sup>ニ</sup>  
以<sup>テ</sup>強<sup>ク</sup>し<sup>ル</sup>ぬ 太平記師冬自害史 按<sup>キ</sup>小<sup>ノ</sup>採<sup>ル</sup>桑<sup>ノ</sup>老<sup>シ</sup>柴<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>袋<sup>ニ</sup>  
と<sup>テ</sup>ま<sup>け</sup>ば<sup>や</sup>あ<sup>け</sup>る<sup>氣</sup>也<sup>ナリ</sup>出<sup>ル</sup>也<sup>ノ</sup>孩<sup>ノ</sup>芽<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>巾<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>す<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>  
さ<sup>し</sup>げ<sup>り</sup>や<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>

見附考  
銀劔

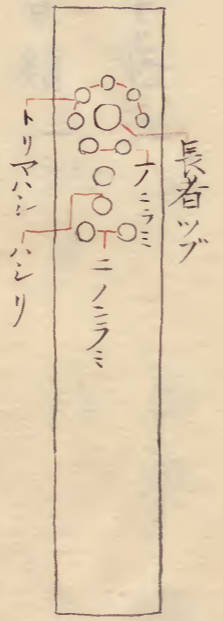
愚按今世ニ銀馬代ニ太刀ナリト云ハ誤レリ將  
軍家御代替之時上古例トシテ和列多武峯惣代  
銀劔一振献之ソノ制ヲ見ルニ今イフ白鞘ノ刀  
一尺八九寸斗銘有刀袋ニ入箱ニ入タリ太刀ト  
イフハ拵ノ刀ニテ銀劔ハ白鞘ノ刀ナリ

- 塔供養無為ノ夏賀ニ申サレ沙金十兩銀劔一  
腰深緒五十端ヲクリ物トス 東鑑
- 銀劔一腰入錦袋砂金百兩 東鑑
- 寛治五年八月十四日美家朝臣許ニ有<sup>リ</sup>山鳩居

於渡殿、欄上義家成、恐於郡嶋、更入寢屋、居中長押、上自口中落掠實三粒而死、去早義家云、是八幡、御使、欲近、無可有慶賀之、莫定凶、莫、仍以銀劔一腰、駿馬一疋、十五日曉、使助道、惟定奉八幡云、古史談

○天下靜謐の、奇蹟あり、ハ引あむせ、ハ限、劔三、振、物十を、回成ふ、うもて、室、劔と、前、裁、小、堂、あり、は、う、ま、り、け、物、あり、細、り、は、り、太、平、記、自、伊、勢、進、室、劔

柄鮫



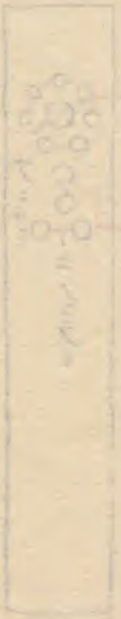
- |        |     |      |       |
|--------|-----|------|-------|
| チヤレハ   | 上品  | サレトメ | カスタ   |
| 谷サメ    |     | アイノ物 | ハヒロ   |
| 海子アイ   |     | チリメン | 背チリメン |
| 刻チリメン  |     | ハツハ  | カイラギ  |
| カレセキ   |     | シモフリ | 背カイラギ |
| 地ナシ    | ウミ子 | 川サメ  | 海子    |
| ヒハラ    |     | エノ尾  | ナレハン  |
| 替リガレセキ |     | カノ子  | スキサメ  |
|        |     |      | 虎サメ   |
|        |     |      | 下品    |

アユサメ 日本ニモアリ 駿州  
キクトク 日本物

ヒタチノコロ 日本物

○<sup>カイヤキ</sup> 刀鞘用之日本俗所作也又云梅華皮也<sup>下</sup>  
<sup>集</sup> 鮫皮為刀鞘又名淵客泣淚成珠者也<sup>下</sup> 字集

二終



愚得隨筆卷三

甲曹類一

目錄

甲服立 甲古訓 甲近訓 曹訓 白糸

耳糸 畦目 啄木 横縫 小札

蝙蝠付 交装 四方出緒 胴 高紐

立場 猿手結

総角 母衣付緒

威毛 勝色威 卯花威 小櫻威 小櫻黄近

黄返 櫻威 火威 糸緋威

赤威 赤草威 紅末濃 紫末濃 藤威

裙繩 澤泻威 逆沃泻 呂草威 大荒目

敷目 肩白鎧 洗草鎧 唐綾威 列鳥威

威鎧 薰草威

鎧之名 月敷 日敷 源太産衣 八龍

沃泻 薄金 楯無 膝丸 唐皮

室丸 平石 小袖

札

三枚曹 五枚曹 綴 忍緒 四方白

八方白 白星 龍頭 獅子頭 鳩曹

小泉曹

鍬形

半首 面頰 目下頰 半頰 空頰 越中頰

猿頰

針 産針 小田針 筒小手 鎬小手 針袋

毘沙門針 楊梅桃李針

臙當 大立拳 篠臙當 毘沙門臙當 臙病金

脛楯 因幡脛楯 宝幢脛楯 義經脛楯 膝鎧

尾脛楯 踏込 伊豫脛楯 板脛楯 屈脛楯

袖

愚得隨筆卷三

日下部景衡集

甲曹類一

甲服立 甲古訓 甲近訓 曹訓 威 白糸

耳糸 畦目 啄木 横縫 小札

蝙蝠付 交装 四方手結 胴 高紐 立場

猿手結

見附考

○愚按和俗甲ヲ訓シテ曹カゲトトス誤レリ韻書ニ甲

物ノ鱗 甲アリテ自禦ニ似タリ甲介函鱧皆堅

重ノ名也ト注セリ今モ亀甲ヲカメノカウヲト

云上古ハヨロヒヲカワラト云フ日本書紀崇神

天皇紀ニ号テ其脱<sup>レ</sup>甲<sup>カ</sup>處<sup>チ</sup>曰<sup>ク</sup>伽<sup>カ</sup>和<sup>ワ</sup>羅<sup>ト</sup>則今ノ川原也屋室ノ瓦  
ノ顛加之良乃加波良膝削  
北佐乃加波良ト云皆此詔也神功皇后新羅ヲ攻メ給フ取御  
暇姓ニテ御カワラノアハサリケレハ武内ノ臣  
ハカラヒテ草摺ヲ切テアテラレケリ服立ハ是  
ヨリ始ルト八幡愚童訓ニ見ユ武内宿祢ヲ高良  
大明神ト云モ此縁也皇后御カワラノアハサリ  
ケレハ右ヲハサミシヨリ服立ハ始ルト云ハ不  
可也万葉集ニ鎮懐石トテ懐胎ヲシツメオサム  
ル石也ト見ヘタリ今ニ肥前國伊都郡ニアルト  
カヤヨロヒト云ハ軍装ノコ、ロニテヨソホフ

ト云フ也曹ヲカフト、云ハ高麗言葉也吾国ニ  
高麗音多クアル也源氏重代ノ鎧月数日数源太  
産衣八龍沢泻薄金栴無膝凡ナト云フ上古ノ代  
代子孫ニ傳ハレサレハ人ニ肥瘦ノアルハ服立  
ヲ入テ肥タル人ハ伸シ瘦タル人ハ縮メ服立ニ  
テ伸縮自由ナラシメレ為也應仁ノ後打續タル  
乱ニ上古ノ鎧腹卷腹當筒凡ナト云モノ磨テ筒  
丸ノ制ニ習ラヒテ今世ノ具豆ト云モノ出未人  
人ノ乳繩ヲ取テ威ス故ニ親ノ具足ハ子ノタメニ  
ナラヌヤウニハ成タリ上古ノ鎧ノ制ノカハレ



ルハ服立逆板障子板梅檀板小手輪鳩尾板弦走  
草太刀掛此七八當世ノ具豆ニハ十キ物也草摺  
ノ様子モ替レル也鏡ヲ作ヲオトスト云ニ威字  
ヲ書ハ日ノ神太夫マエウガノ武キ備ナシ給收稜威イヅノ高  
鞆カテヲ負給ト云トヨリ始レリ稜威ハ餘所ニ可畏  
故也ト吉田ノ兼俱ノ抄ニ見ヘタリ  
見附考  
句ノ糸遣フトタトヘハ萌黄糸ニテ威レ耳糸ウナ  
メ綴ニ啄木ノ組ヲ遣テ萌黄句ト云上古ハ父祖  
ノ鏡ヲ受テ傳テ永ク子孫ノ寶トセシニ五行ノ  
色ニ配スルニ人人ノ性ニヨリテ相尅ノ禁忌ア

ルナトイヘハ或ハ三色或ハ五色ノ啄木ヲ遣ヒ  
テソノ主ヲ嫌フマシキタメ也又ニ毛ノ詞ヲ忌  
ムノ心モアリ耳糸ト云ハ立ニ端ニツカヒウナ  
メトチトテ横ニ一如此糸ヲ遣フト也五色ノ組  
ヲタクホクト云ハ組ノ色斑々トシテ如鳥啄木ツツハ  
痕故ニ啄木ト云ヨシ塩囊抄下学集等ニ見ヘタ  
リ横縫ト云ハ小札ノ下地ヲハ鐵草タテマセニ  
シテ細クタチニ草ニテトヂツクルヲ横縫ト云  
フ太刀掛ノ草坪板ノ草揺糸ノ噴輪ノヨクカ  
子ノ草ニテ付ルヲハ蝙蝠付ト云フ毛引カス

テカハホリノ羽節ニ似タレハ也袖ノ冠板ノ次  
ヲ紐如板ト云ハ誤レリカナラズ白赤黒ノ水列  
アル故ニ交装ノ板トハ云也袖ノ掛緒諸緒ヲ胡  
頰ニ或ハ袖付付ルヲ四方出結ト云フ水吞ノ緒  
ヲアケマキニ付結ヲ猿手結トイフ胴ト云ハ前  
三枚後ハ四枚也此外ハ立揚ト云高紐近世ハ引  
合ノ紐ヲ高紐高紐ヲ相引ノ緒ト誤レリ弘安礼節  
ニ神道札慈牟動乃佐称兩肩ノアタル所也神道ノ札ハ  
今ノ綿嚙也高紐他賀比母神道札之下ニ寸ノ穴也ト  
アレハ今ノ相引ノ緒ナリ

引合

○鎧ノ引合ヲ切自害シ給フ

盛衰記 保元平治等

高紐

○御曹司ハ件ノ大鎬ヲ以テヒヤウト射給フカ

高紐ニ弦ヤセカレケレ思フ矢坪ニ下リツハ平

野平太カ臈當ヲ射切 保元平治

高紐

○高紐カケ 太平記 ○オドリアカツテ高紐

上帯

カケユツテ上帯テフトシメ 高館舞

太刀懸

○虎皮 尻鞘カケタルヲ太刀懸ノ半結フサケ

太平記

坪板

○和田カ中間ニノ矢ヲ番テ悪五郎カ服立ノツ  
ホノ板クツ卷セメテ射コウダル 太平記 八幡合戦

服立

○皇后新羅へ向ハシトシ給フニ胎内ニ宿リ給  
フ八幡大菩薩己ニ五月ニ成セ給ヒシカハ母后  
ノ御腹大ニ成テ御鎧ヲ召ルニ御膚アキタリ  
此為ニ高良明神ノ計トシテ鎧ノ服立ヲハ仕立  
ケル 太平記神功皇后攻新羅給

高紐

○腹卷ノ高紐切テ推ノケ直垂ノ紐トキクツ口  
ケ赤木ノ柄ノ刀指タルヲ拔テ柄ヲ取直シ  
同 兼久記

同

○塗篋藤ノ弓持兜ヲ高紐ニカケ烏帽子引立  
○真白内兜ハ恐モ候障子板カ梅檀弦走カ胸板  
ノ真中カ草摺ナラハ一ノ板片二ノ板片矢坪ヲ

真白内兜  
障子板  
梅檀  
弦走  
胸板

鉢付板  
小手覆

慥ニ兼ニ保元平治参考

○鉢付板 保元平治 ○小手覆 同記

天邊

○兜ノテヘシ熊手ヲ打懸ント續テ走 保元平治

真白  
ツケイ  
弦走  
障子板  
服立

○真白御頸ノ骨ハ恐モ候クツケイ弦走障子板  
服立ノ上爰ヲ射ヨト兼ニ 保元平治参考

菱縫板

○鎧ノ菱縫板ノ浸ルマテ打入タレ 盛衰記

内兜  
鉢付板  
服立

○源八兵衛尉廣綱ハ内曹ヲ鉢付ノ板ニ射シ 同記

引敷板

○美朝赤地錦直垂ニ折烏帽子  
○道口カ郎等落重テ陶山カヒツシキノ板夕ハ  
之上ケサマニ三刀サシタリ  
太平紀越後守自石  
見引返

引立テ服指斗ニ  
太刀ハキタリ 保元物語

小手袋  
四幅袴

上帶  
曹緒

押付板

服立

草甲

○先陣平一揆三万余騎小手ノ袋四幅袴笠符ニ  
至マラ一色ニ皆赤カリケリ 太平記武藏合戦

○鎧ノ上帶シツノト結ヒカタメ曹ノ緒ヲシメ

盛衰 木森ノ城後攻取利家利長モ一死一生ニ究メ給フ氣象見シ  
託 驗ハ具足ノ上帶トトシメ餘ル所ヲカシテ切テ捨立出タマフ大岡記

○鎧ノ押付板ヲツカマヘ 盛衰記 眞盛被討

○赤地錦直垂ニ折烏帽子引立テ服立計ニ太刀  
帶 保元平治参考

○造草短申曹一具料織大二斤牛草三張 並牛差  
大六二張

馬草虎草各一張 並頸牒料帛一條 長一尺五寸 廣一尺三寸 調

布一條 長三尺二寸 廣一尺五寸 綿一斤縫頭牒料絲一分草二

天慶ニ純友追討ノ御前ニ太  
神宮申曹ヲ  
奉リシ例トテ

今度頼朝誅討ノ御前ニ鉄  
鎧ヲ太神宮  
奉ラル

盛衰記奉幣  
使定隆死云

兩懸緒料鹿草五張漆四升紋綿二面高布一尺 喜  
上式主稅

○小野石雄牛羊ノ草ヲ以鎧ニ作ル 五代一覽 嵯峨天皇

○當家ニ傳テ可發音律ヲ習之事先第一口傳將軍

鎧ヲ着給次第十八色一一有音取

一番 午細 二番 小袖 練貫 三番 大口 精

四番 髮乱 五番 白布 八尺五寸 六番 弓懸

七番 鎧直垂 八番 脛巾 九番 給

十番 髓當 十一番 頰貫 十二番 服立

十三番 手蓋 十四番 鎧 十五番 力

十六番 太刀 十七番 征箭 十八番 弓 度々

スル 右 九十 以上如此是ハ八幡太郎殿陸奥

合戦之時着給フ 體源抄

弦走板

○伊賀國住人森小平太利宗ト名乗テ懸ケルカ

源次加ニ弦走板ヲ筋違様ニ射ヌカレラ馬ノ前

ニ落ニケリ 盛衰記宇治合戦

○宿所へ帰り武具ヲ帶シ勢ヲ卒セハ時刻遷リ

テ追ツク莫ヲ得カタレト思ヒケルニヤ或藏守

カ若黨ニキセタリケル物具取テ肩ニ打掛馬ノ

上ニテ高紐カケ門前ヨリ懸足ヲ出メ 太平記

高紐

物具

同

○一矢仕リ候ハン受テ御覧候へト云終ニ且ク

鎧ノ高紐ヲハズシ十三束三伏前ヨリモ尚引シ

ホリ 太平記

脇立

○弓ヲ強ク引シ為ニ着タル鎧ヲ脱置テ脇立斗

ニ大童ニナリ 日記

鉢付板横縫

○曹ノ真向ヨリ眉間ノ腦ヲ碎テ鉢着ノ板横縫

キレテ矢シリノ見ル計ニ射籠タリ 太平記

鉢卷

○十六人カ鉢卷ト上帶トヲ解テ青竹ノ末ニ結

付テ旗ノ様ニミセラ此ノ木ノ梢彼ノ陰ニ立置

テ明ルヲ避シトノ待レケル

太平記十六騎勢入金崎

綿罽  
様札

見附考

太平記

○鎧ノ綿罽ヲツカシテ引着タリ  
○菊地カ着タル鎧ハ此合戦ノ為ニ三人張ノ精  
兵ニ草摺ヲ一枚ツ、射サセテ通ラヌサ子ヲ一  
枚マゼニ拵テ威タレハ何ナル強弓カ射ケレハ  
裏カク矢一モ無リケリ  
太平記菊地合戦

頬當

○鎧計ヲ取テ肩ニ抛懸テ馬上ニテ上帯縮テ只  
一騎懸出給ヘハ相順フ兵三十余騎モ或ハホウ  
アテヲノ末曹ヲモ不着或ハ龜子ヲ差メ未鎧ヲ  
不着敵千餘騎カ中へ破テ入ル  
太平記  
○義治ハ太刀カケ草摺ノ横縫皆突切レテ威毛

計續タルニ鍬形両方切折ラレ星モ少々削ラ  
レタリ  
太平記武藏合戦

坪板

○ツ市板ニ射立ラレタル矢ヲハ脇立ナカラ引  
切テ投棄  
太平記八幡合戦

袖菱縫  
吹返

○我身モ痛手ヲ負サレハ袖ノ菱縫吹返シニ立  
處ノ矢少々折カケ  
同記  
○曹吹返  
盛衰記屋島合戦

見附考  
古年童鎧

也諺ニコレ子レトウノ鎧ト云フハ代々持傳ヘ  
シ鎧ト云也コレ子レトウハ古年童也  
興福寺東金堂七日ノ行ヒノ取手水湯ヲワカス

者也此役者ニナレハ諸ノ公更ヲユルカル、故  
ニ望テ此衆ニ入然間奈良中ニ古年童ト云者ア  
マタアルナリ見是興福寺ニ不限諸寺ニ有之古  
年ハ代々ノ義童ハ下僕ヲイヘリ此役人今興福  
寺ニ一人有之下行米ヲトリニ季ノ神更其外諸  
更ヲ觸レナガス役也大方仕下ト相似タリ南都傳説  
又西金堂修二月ノ取新堂童子ト号ス上湯ノ薪  
ノ餘残ヲ篝火トシ午水屋ノ内ニ於テ四坐藝能  
ノ盡故ニ薪猿樂ト号ス修二月ノ寄人ヨリウド並ニ猿樂  
ハ古年童ヲモテ相觸シム春日若宮并殿神樂錢

配分一口古年童取之今ニ至テ毎年霜月祭礼ニ  
猿樂江戸ヨリ誰々罷上候旨ヲ衆徒中集會所ハ  
古年童来リ專當ヲ以テ披露スル也サテ衆徒中  
下行米ノ狀ヲ古年童ニ遣ストソ衆徒筆記舊記云今  
般修二月依邇迨明德之頃不依修二月有無一七  
日於南天門薪能令沙汰之上下等可任意云々

高紐  
○覺明ハ曹テ脱テ高紐ニ懸ケ平家物語  
○始ク鏡ノ高紐ヲ弛ニテ十三束三伏並ヨリモ  
尚引シホリ参考太平記  
同  
○磯邊相從フ即從三人腹卷着テ馬午ノ高紐弛





○たりの四部つと海島のそつ免いへる溪の神乃之北板めての  
オクリノ坂  
そつてたくり北板きまのたそめをすうりしと海りあひ引け  
てうとてつてくつとめけてあまの矢さく  
ま依年

錦直垂

○新田左平右衛門貞房の赤代流の赤衣の服をそりし  
遠侍の座とあやう  
ねんハ程むたつ依ハ緋代流乃由  
太平記義貞馬  
属強

小具足

○溪をさるふ梅遠を合おし握遠し  
とうさてハ女子細  
太平記四糸繩手合戦

表帯

○相撲ハカふ上の人綴ハ  
甲の表帯引きて内搦ゆ  
はめてえとらとひさし  
少坪合戦  
盛衰記

見附考  
総角

母衣付緒

神代卷一乃結髪為髻ト部家ノ説ニ素戔嗚尊陰  
神ナレハ一戦スヘシトテヨロヒ玉ヘル躰ナリ  
上古ハ冠ナシ人皇三十代推古天皇御宇ヨリ始  
レリ其以前ハ男子ハ両方へ髪ヲワケテピンツ  
ラニユフ也ヒレツラトハ総角トカケリ髪ヲニ  
ツニワケテイヘルハ角ニ似タリ其アマリヲサ  
ゲルハ総ニ似タリ是ヲアケ卷ト云ユレヨリ後  
神功皇后異國御退治ノ收糧日ノ浦ニ至リ給ヒ  
テミグシヲトキ海ニ臨給ヒ新羅ヲ征サレト思

フレシラシアラレニハ髪ヲノツカラ分テ西ニナ  
 レトノ玉ヒ海ニ入テ洗給ヒシニ髪自分又皇后  
 則ニツラニアケタマヒ男形ヲカリツ井ニ彼國  
 ヲ打給フ是ニヨリカノ髪ニナラヒテ鏡ノ飾ト  
 ハナシタル也是等ノ説ニヨリテ書ニ付ルヲ本  
 トスト云今ハ曹ニ付ルヲハ母衣付ノ緒トイフ  
 ナリシカレ氏上古ノ鏡コトクク後ニ總角ハア  
 ル也大神ノ水吞ノ緒ヲハ此總角ニトムルナリ  
 函人ノ云總角ノ長サ三尺八寸是ヲ蜻蛉結ニハ  
 スルナリ愚按吾國神國ナレハ鏡ニ付ルハ木綿

袴ヲ表シ付シニヤ

○快實臆テ海東ガ上卷ニ乘懸リ鬢ノ髪ヲ削テ  
 引懸テ首カキ切テ長カニ貫キ

太平記

○大高ニ押双テムスト組大高河野七郎カ總角  
 ヲ削テ中ニ提ケ

同記

○為久カ鎧ノ上卷ツカレテ投ケ弓杖五杖計リ  
 安々ト投渡ス

同記

○セルタレノ板ヨリ後ノ總角着ノ金物迄裏表  
 二重徹テ矢前二寸計リ出タリ

同記

○鎧ノ弦走ヨリ總角付ノ板マテ裏面五重ヲ懸

千且板  
 總角  
 弦走

不射徹ノ矢サキ三寸計ナシホニ深テ出 太平記

藤原

七五

○高天原御魂ノ事ニテ  
○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

○高天原御魂ノ事ニテ

威毛

或人云毛色三十二岳アリ世ニ傳フ所或説多シ  
テ未詳古記ニ見シ所ノ色目考證ノタメ記シ又

勝色威

愚按近世緝糸ヲ以テ威ヲ云上古藍草威緝糸威  
ト云狄古記ニ直垂ニハカチトイフ色アリ鑑ニ  
ハ所見ナシ播平国饒磨郡藍深ノ名産也カチハ  
緝染也緝地ト書テカチト訓スヘシソメテツヨ  
ク其上言兼ノ武器ニ目出度ケレハナリ俊成ノ  
歌ニたのすはちよのちのちの色と云よひをめでしやと云ふ

○明春ソノ日ノ装束ニシカマノカチノ鎧直垂  
ニ紺ノ頭巾ニ黒糸威ノ甲著 盛衰記

○大将出陣ノ時ハ勝色ノ手綱ヲ用ヘシ勝色ト  
ハクロキ色ヲイフナリ 大諸礼

○或記云勝色威以紺糸威之

○紺地ノ錦ノ直垂虎ノ皮ノ尻鞆入 源平盛衰記

○褐カ目結カ見ヘ分ズ黒バミタル直垂 保元平治  
参考

*源平盛衰記*  
未詳古語一見ハテハ直垂ノカチノ鎧  
直垂ノカチノ鎧ニシテ直垂ノカチノ鎧  
直垂ノカチノ鎧ニシテ直垂ノカチノ鎧

見附考  
卯花威 未詳或説多シ何レヲ能ト云ヘキ歟

○或説ニ白糸ニ廻リ萌黄ノ糸ニテ威シタルナ  
リ又白糸ハカリヲモイフ ○又銀札ヲ白糸ニ  
テ威耳糸浅黄ナルヲモ云フ

○肩二段ハ浅黄ニシテ懸テ白糸ニテ威タル卯  
花威 老談書

○卯花ノ妻取タル鎧 太平記

称并大跡太  
鎧

○卯花威鎧ニ星白ノ兎ヲ着佐目成馬ニ乘

保元  
物語

○愚按衣ノ色ノ卯花ハ表白ク裏青キヲ云ナレ  
ハ白糸威ニテ耳畦目菱縫十ト萌黄ハ卯花威ナ

ルヘキ歟

○或記白糸威ハ白糸ニテ威耳糸畦目糸啄水ヲ組也卯花威ハ以白糸威耳糸畦目浅黄糸ヲ以テ威スナリ

○土岐悪土郎卯の花威の淺小形おて水色乃益符  
吟流させ 太平記八幡合戦

○又白糸ハ...

見附考  
小櫻威

愚按小櫻威ト云ハ草威也草ニ小キ櫻花ヲ白ク

草蒲草トトノ如クニ深ニ草ヲ裁テヲトセル也

古畫 惟久後三 年ノ繪ニソノ躰見ヘタリ東鑑ニ廣常カ

甲ヲ相具シテ上總國一宮ヨリ鎮倉ニ歸參即御前ニ召カノ甲ヲ見給ニ小櫻草威ト云ク

○或書云紅白組交系ヲ以威ヲ小櫻威ト云

○肩一段ヲ濃紅ニシテ總ヲ薄紅梅ニ威タル小

小櫻威 老談書

○小笠原次郎長治小櫻威 東鑑

○小櫻威ノ腹巻ニ洗草ノ大鎧重テ 盛衰記  
小櫻黄返 黄返

愚按櫻花ヲ黄ニソメシ也 古画ニモ見ヘタリ 唯  
後ニ繪ニ黄ニ紋ヲ添ルヲキチレカヘシト云スナハ  
千麴塵ナリ

○唱ハ小櫻ヲ黄ニ返シタル鎧著 盛衰記

○旗指ハキチレノ直垂ニ小櫻ヲ黄ニ返シタル  
鎧 平家物語

○黄返鎧 盛衰記

<sup>見附考</sup>  
櫻威 未詳

愚按小櫻ハ花少ク櫻威ト云ハ花大キナル欵櫻  
色トイヘハ糸ノ色ナル欵外ニ見所ナケレハ若  
シ小字落欵

○備前守行家櫻威甲 東鑑

○<sup>見附考</sup>藍白地ノ黄ニ返シタル鎧キラ 保元物語

○或書ニ云以櫻花ヲ添付タル草ヲ威之小櫻威ト  
云ナリ

見附考

黄白地鎧

未詳

○片圍白キヒタ、レニキシラ地ノヨロヒキテ  
ワサト曹ハキサリケリ折正ホシニ正ホシカケ  
シ 義經記

見附考

白幅輪鎧

白幅輪ノ鎧十領金作太刀一副ヲ被  
引タリケリ 太平記 足利殿御上洛

○白幅輪ノ糾絲ノ鎧一領引給フ

太平記 瓜生判官  
心啓

金幅輪鎧

○金幅輪鎧

吳本 太平記

見附考

火威

見附考

糸緋威

○近世氷魚頭威トテ銀小札ヲ赤糸ニテ威セル  
ヲ云 愚按不可也宇治川ニ氷魚ト云モノアリ  
ソノ形白赤ノ色アリ伊勢武者ハ皆氷魚威ノ鎧  
著テ宇治ノアシロニカ、リケルカナノ哥ヨリ  
附會ノ説ナリ

○又総ヲ紅ノ糸ニテ威タル緋威日威赤綴火威  
何モ同シ 老談書

○愚按火威ハアケノ草ニテ威セル也大内記保  
胤江ノ匡衡ノ文評シタリケル詞ニ見ヘタリ

○匡衡がヤウハモノ、フノアケノカワシテヒ  
ヲトシトカハシタルキラアラ坂ノセキヲコユ  
ルケシキナリトソ申ケハ 今鏡九

○義朝幼少ノ弟共ノコロサレシ時兵共皆神ヲ  
ヌラス中ニモ波多野十郎カ緋威ノ鎧ノ袖洗草  
ニナリヌ 保元平治

○愚按系緋威ト云フハ茜ノ系ヲ以テ威セル也凡  
火威ト云ハ札モ赤ク系ニテモ草ニテモ赤シ

○緋威ノ鎧着テ赤鬼ノヤウナル云々 増鏡

○重代ノキセナガヒヲトシノ鎧キラ星白ノ曹

ノ緒ヲシメ 平家物語

○金<sup>カ</sup>胴ノ上ニ火威ノ甲<sup>ヨロ</sup>ノ敷目ニ捨タルヲ草摺  
長ニ着 太平記烟六郎在門事

<sup>見附考</sup>  
赤威 赤草威

愚案札ハ赤カラス火威系威ト云モノ、別レ也

○頼朝赤威ノ鎧金物ニハ銀ノ蝶ノ丸ヲキヒシ

ク打タリ 盛衰記 ○赤皮威鎧 同記

○カカカワラトシノ鎧着テ高角打タル曹ノ緒  
ヲシメ 平家物語

○赤皮威ノ鎧白星ノ曹熊ノ皮尾鞘カケ 盛衰記

赤草威



赤系威

○赤系威或記云紅系ヲ以テ威シ啄木系ヲ以テ飾ニ其耳

火威

○火威ノ鎧ノ裾金物ニ牡丹ノ陰ニ獅子ノ戯テ前後左右ニ追合タルヲ草摺長ニ被召 太平記

○金札ニ紅ノ糸火ヲトシト云ナリ 信玄全書末書

紅末濃 紫末濃

○或人云裾絆ト書ヘレ上ハ皆紅或ハ皆紫ニテスソノ板ヲ絆ニ威也故ニ裾絆ト書又一説ニ皆紅ニテ末マテコマヤカナルト云フ也ト西説不可ナル歟

○上ヲ紅下ヲ紫又其下ヲ絆系ニテ威タル紅裳濃ト云ナリ 老談書

○上ヲ紫下ヲ紅又其下ヲ絆系ニテ威タル紫裳濃ト云此外ハ何系ニテ肩ヲ取何系ニテ威トイフナリ 老談書

○愚按左右袖草摺或ハ薄紅或ハ薄紫エシテス  
ソヲ濃キ紅濃紫ニシトセル也紫末濃ノ鞞紫村  
濃ノ鞞ナト云類ナリ

越中次郎兵衛  
盛綱滋目結  
直垂ニ耳坐濃  
言ヲ着多

○義經其日ノ装束ニハ赤地ノ錦ノ直垂ニ紫ス  
ソコノ鎧着テ

平家物語

○三河守知度ハ赤地ノ錦ノ直垂ニ紫スソコノ

鎧着テ 盛衰記 ○紅下濃鎧 保元平治参考

○紫坐滋人鎧ニ鍬形打タル白星ノ曹 盛衰記屋  
鳴合戦

○判官其日ノ装束ハ赤地ノ錦ノヒタ、レニ紅ス  
ソコノ鎧着テ白星ノ曹ノヲ、レメ 義經記

見附考  
藤威 未詳

或書ニ紫ト黄色ト組交タルヲ云又一書ニ濃紫  
薄紫組交系ヲ以テ威之

○総サウヲ紅紫黄ノ三色組交タル系ニテ威タル藤  
色威ト云羽武者ハ不着之ト也 老談書

○大須賀太郎道信甲藤威 東鑑

○紫系摺赤系両色組交綴之 是非凡人之用物  
帝王之可成御着背長キヒナカ岩井之書是ヲ藤威ト云亦  
異本ニモ是ヲ藤威ト有リ

見附考  
梶繩目

未詳

愚按伏繩目節繩目ニ作ル保元物語盛衰記平家

物語等ニ見ヘタリ繩目ノ草ト盛衰記云モノ古ハ

アレハ草威歟馬工傳ニフニナハメハ毛ヲフニ色ニレテゴフニスミテ  
啄木ノゴトク彩トルト云

○カチレノヒタレニフニナハメノ腹巻着テ

赤銅作ノ太刀ハキ義経記

○藤繩目或記云以紅緋組交之系威之

○以紅緋組交系威岩井傳

○重忠ハ木蘭地直垂搦繩目ノ鏡着盛衰記屋  
島合戦

○金子十郎シゲ目結ノ直垂ニフニナハメ鏡保元  
物語

フニ繩目ノ鏡ニ  
ニ枚甲ノ緒ヲ  
ニ萌黄ノ腹  
巻チカツキ  
櫓ノ木マデ  
貢ツケタリ  
盛衰記盛  
合戦

見附考  
澤浮威

逆沢浮

源家重代ノ鏡ニ沢浮ト云ハ沢浮威ナルヨシ見  
ヘタリ

○愚按古画ニ鷹ノ羽ノヲモタカ切生ノヤウニ

胴袖威セル見ヘタリ是ノ類ナルヘシ源太カ産

衣ハ神ニ藤花ヲアドシタルナレバヲモタカハ

安カリナレ歟

○萌黄ニ沢浮威タル鏡盛衰記忠度道盛最後

○逆沢浮ハ澤浮ヲサカシマニ威セルナリ古画

ニモ見ヘ古記ニモ多ク見ヘタリ

源三位入道  
薄墨深ノ  
長給ノ直垂  
三品草威ノ  
鎧着熊ト  
甲八不着ケ  
盛衰記宇  
治合戦

見附考  
品草威

未詳函人云四色ニ品ヲ替威也今云八重深ナリ

○紫草威トハ藍皮ニ文ニシタヲソ付タリケル

盛衰記 品草威品ノ字タルヘキヲ紫ニ作ル子細ア  
宇治合戦 ルヘキ故可考假名ハシナトアリ

○源三位入道頼政ハケフヲ最後トヤ思ハレケ

ン長給ノ鎧直垂ニシナカワヲドシノ鎧着歩ワ

サト曹ハキ給ハズ 平家物語

○品草威ト云ハ唐草威ナリ支那草威ト云フ支

ナリト云 春田播广説

○品草威ハ草品集ヲ綴之傳也 譬ハ紫草青草黒

源三位入道  
薄墨深ノ  
長給ノ直垂  
三品草威ノ  
鎧着熊ト  
甲八不着ケ  
盛衰記宇  
治合戦

曆年ヲ考ルニ此春田播ハ平カ高祖父也 實曾世説世言フ  
所ナリ家説ト云ハアラス 寛政甲寅十二月 春田永年附言

草白草菖蒲草五面草等色々ノ草ヲ細ク裁切テ綴之。又藍草ノ上面齒朶カスガ為文以草綴之也云々トハハ藍草ノ上ニシテ深付テ糸ノ幅程ニ細クシテ切レバ所々ニ齒ニ齒朶ノ文見ユルゾソレモタシカニ齒朶ト云々ハ中々不見白ク深付レハ其白ス少ク見ユル也

見附考  
大荒目  
○三枚皮威ノ大荒目ノ鏡 盛衰記  
○黒皮威ノ大荒目ノ鏡 盛衰記  
○唐綾ヲフトク々、ミテ威シタル大荒目ノ鏡  
獅子丸ノ裾金物白覆輪ナルヲ着タリ 保元物語  
○八幡太郎義家貞任追討時將軍三郎武則カ勸修カカナマセ、鏡三領ヲ木枝カケテ射徹シタリ 参考保元平治

見附考  
大荒目

愚按近世云碁石札サマト云モノニシテスカケ威也

大荒目一枚交見附考 ○一枚交ナルヲ草摺長ニユ

三枚皮大荒目見附考 リナシ 盛衰記 ○三枚皮威ノ大荒目ノ鏡 盛衰記

黒皮威大荒目見附考 ○黒皮威ノ大アラメニ見附考 コカ子マセタルヲ草

摺長ニ著ナシ 平家物語

○唐綾ヲフトク々、ミテ威シタル大荒目ノ鏡

獅子丸ノ裾金物白覆輪ナルヲ着タリ 保元物語

カナマセ、鏡三領ヲ木枝カケテ射徹シタリ 参考保元平治

カナマセ、鏡三領ヲ木枝カケテ射徹シタリ 参考保元平治

○長尾ハ黒絲威の大わりのる 澤子同毛乃 宵に緒をき  
ゆる人守の太刀 異本太平記笛吹峠軍

○赤筋切もイサキノ...

○...

○...

大荒目

見附考  
敷目

愚按鍛治言葉ニ敷目センツキトテ楯目ノマ、

ナルヲ敷目トイフカナシキノ上ニテ折エヘ也

センツキトハセシニテケヅリシマ、ニテヤス

リヲカケヌ也

○火威ノ甲ノ敷目ニ拵ハタル 太平記畑大郎左衛門

○鎧ハアマタサセタルトテシキメニマキタル

アカイトヲトシノ究竟ノ鎧取出シ御馬ソヘテ

下サル 義経記

肩白鎧 (見附考)

古画ニ肩ヲ白ク威セル鎧多ク見ヘタリ

○伊勢三郎能盛肩白ノ赤威鎧著 東鑑

○赤威肩白鎧 盛衰記

○薰肩 或記云肩二段白糸或ハ浅黄糸ヲ以威

彩肩 シ其下別色ノ糸ニテ威之又云彩肩白糸浅黄ノ

二色ヲ除キ別ノ色糸ヲ以テ肩二段ヲ威ス也

白肩 ○鍛袖胴下散鳩尾板各上板或ハ二段白糸或ハ

浅黄ノ糸ヲ以テ綴之其下何ニテモ別色ノ糸ニ

テ綴タルハ押ナヘテ白肩ト云也

彩肩 同上 ○鍛袖胴下散鳩尾各上板或ハ二段白糸浅黄糸

両色ヲ除キ何色ノ糸ニテモ取合テ綴タルヲ彩

肩ト云ナリ







見附考  
烈鳥威

未詳

○或書ニ烈鳥ノ羽ニ似タル故云黒札ニ淺黄系

ヲ以テ威ス也

○白葛新左衛門毛ナル馬ニカシ鳥威ノ鎧着太平記

○或記云鴉威ハ啄木ノ系ニテ威ナリ

○内......

○八......

○何色ニテ...

...

...

見附考  
勲草威

○称津小二郎フス草ノ鎧着異本太平記

黒系威盛衰記 黒草威盛衰記 紺系威盛衰記

白系威明德記 紫草威保元物語 黄系腹卷庭訓往来

紫系威盛衰記 紅威東鑑 萌黄系威東鑑

萌黄白 手家物語 櫛白 保元物語 繩目鎧盛衰記

○黒草ヲ二寸ニ切テ一寸ニタ、ニテ威シタル

鏡ニ五枚曹ヲ井夕ビニ著

美經記

白系威  
萌黃威

○或記云白系威以白系威之以啄木系飾其耳也  
○或記云萌黃威ハ萌黃ノ系ニテ威シ以啄木組  
飾其耳見附考萌黃白ハ萌黃系ニテ威シ白系ヲ以テ飾  
其耳

黃系鏡太平記

○淺黃系鏡

保元物語  
安藝判官元盛鏡

御天色威ミソライロ

以淺黃系綴之貞文云近年ノ名也

間色威

以紫系綴之

貞文云同斷

見附考  
檀旬鏡ニ蝶ノスノ金物ウツラ

平治物語重盛甲

檀旬の澤子危紫乃両衣創け

太平記六段羅攻

鏡之名

月敷

源義家  
朝臣

月敷ト云鏡ノ朽葉色ノ唐綾ニテ威夕

ルヲ着保元平治

日敷

源太產衣

○八幡殿幼名源太ト被申ケルニ歳ノ時院ヨリ

進ラセヨ御覽セント仰テ蒙リ給ヒテ態ト鏡ヲ

威シ袖ニ居テソ見参ニ入ラレケルサテコソ源

八幡大菩薩ト鑄付進ラセ左右ノ袖ニハ藤ノ花

太力產衣トハツケラレケル胸板ニ天照大神正

ノ咲カ、リタル様ヲ威セルナリ 保元平治参考  
八龍

○八龍トハ祖父義家後三年ノ戦ノ時八幡大菩薩ノ神八神守護ノ為八大龍王ノ形ヲ金ヲ以内兜ノ真向鎧胸板ヲ付付々ニ附ケル間八龍トソ名付タル八領ノ鎧ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重宝ナリ 保元平治参考

○銀ニテ鍬形打タル龍頭ノ曹ヲ賜ル此曹ト云ハ源氏重代ノ重宝也銀ニテ龍ヲ前ニ三後ニ三左右ニ一ツ宛打タルハ八龍ト名付タリ保元ノ

軍ニ鎮西八郎為朝ノ著タリ 盛衰記

○八龍トテ胸板ニ龍ヲ八ツ打テ付タル鎧 保元平治

澤瀉

○沢瀉トテ沢瀉威シタル鎧 保元平治参考

薄金

○重代赤威鎧薄金 梅松論

○張絹ノ直垂ニ薄金トイフ緋威鎧 保元平治参考 又保元物語

楯魚

○楯ナシトテ黒系威ノ鎧ニ獅子ノ裾金物打タ

ル甲 保元平治参考

○天喜二年甲午源頼義奥州へ下向被成康平五年在寅安倍貞任高宗任ヲ誅之被成候頼義三人ノ御子ヲツレテノ御陣也一男八幡太郎義家公二男加茂二郎義綱公三男新羅三郎義光公御三人就中三番目義光公へ御旗鎧被下此御旗ハ夕テサシト申也新羅ノ四番目ノ御子刑部三郎義清公へ右ノ旗具足渡ル甲陽軍鑑朱書

八龍 ○八龍ト云鎧ヲニセテシロキ唐綾ヲモテヲトシタル大アラメノ鎧 保元物語八郎為朝鎧

膝丸

○膝丸ト申ハ牛子頭ノ皮ヲ取威シタリケレハ牛ノ精ヤ入ケシ常ニ現シテ主ヲ嫌ケル也去レハ塵ナトヲ拂ハントテモ精進潔斎シテ取出シケル 保元物語

唐皮

平忠盛 唐皮ト云淺小鳥ト云カ忠盛より清盛より被授り

○櫛ノ白ニ白ク黄ナル兩蝶ヲスソ金物ニ步子糸威ニハアテスシテ皮威ナリ裏ヲ返シテ見ルニ實ノアイクニ虎ノ毛アリ圖知ヌ虎ノ皮ニテ威シタリト故ニ其名ヲ唐皮トノ申ケル 盛衰記

唐皮小鳥拔九事

室丸 藤原秀卿 平石 同

野別佐野村ノ土人云乃ロライシトイフテユス  
ルノ観音堂ニ今ニアレ見シ人ナケレハイカ  
ナル物トモレラス文字ハ避来矢ト書ヨシ云傳  
フトナリ

小袖 定利

柳今度御小袖ヲ不被召シテ薰皮ノ御腹卷ヲ被  
召ケル莫ヲ如何ト申ニ御小袖ハ朝家ノ怨敵御  
退治ノ時メ寸ル佳例ノ御着背長ナリ 明德記  
○昔氏乃年流俗也 唐之為く天下の响ふ身を習く何れせん

とくは少神と云 後を記 徳をけしハ 太平記御所田更

札

左傳成公十六年傳云養由基蹲甲而射之徹ニ七札  
焉戰國策注ニ札ハ木簡牒之薄者甲用草緣之ヲ

○射池力着タル鎧ハ三人張ノ精兵一草摺ヲ一  
枚宛射サセテ通ラス札ヲ一枚マゼニ拵テ威シ  
タレバ何ナル強弓力射ケレドモ裏カク矢一ツ  
モナシ 太平記 今世云様札也  
射池合戦

様

三枚曹 白五枚曹 鍬 忍緒 四方白 片白  
 八方白 白星 龍頭 獅子頭 鳴曹  
 小泉曹  
 愚按三枚曹五枚曹ト云ハシコロノ数ニテ云也  
 シコロ三枚下リナレハ三枚曹五枚サカリナレ  
 ハ五枚曹ト云也綴大饅頭小饅頭ナト云今世日  
 根野綴等アリ曹緒ヲ或忍緒或勝緒ト云近來ノ変  
 也上古ハ曹ノ緒トコソ見ヘタレ片白ト云ハ篠  
 弁ノ前一方ニ有ラ云四方白ハ四方ニアリ八方  
 白ト云ハ八方ニハアラデ左右ニ有ラ云八文字

平石  
 今世ハ篠  
 一外マコ  
 一草  
 一

三枚曹  
曹緒

五枚曹  
曹緒

三枚曹

五枚曹  
曹緒

同

表帶  
曹緒

片白曹  
鷹角曹

ノ心欲是ヲ二方白ト云ハ不可也ト云

○黒糸威ノ大荒目ノ甲ノ一枚交ナルヲ單摺長

ニユリ下ニ三枚曹ノ緒ヲツヨクシメ盛衰記

○萌黄系威ノ腹卷ニ袖付ヲ五枚曹ノ緒シメ同記

○萌黄系威ノ腹卷ニ射鞆サシテ三枚曹居首ニ

着ナシ盛衰記

○同毛ノ五枚曹ノ緒ヲシメ太平記

○黒草威ノ鎧キテ五枚カフトノ緒ヲシメ物綴

○鎧ノ表帶シツクト結カタメ曹ノ緒シメ盛衰記

○片白曹盛衰記 ○鷹角曹盛衰記  
屋島合戦

小泉曹

星白曹

高角

鴉曹

竜頭曹

獅子頭曹

○黒皮威腹卷ニ口袖付小泉曹ノ緒ヲシメ應仁記

○ヒラトシノ鎧キテ星白ノ曹ノ緒ヲシメ平家物語

○高角打タル曹ノ緒ヲシメ平家物語

○或ハ鴉曹ニ鎧着タリ盛衰記 ○銀ニテ鍬形

打タル見附考 龍頭ノ曹ヲ賜ル同記

○大鎧スキマモナク着ナシ見附考 獅子頭ノ曹ニ目ノ

下ノ頬當シテ太平記將軍御進発大渡山崎合戦

○獅シカミ 愚按シカミハカキクケコマミムメモ

通音ニテシコメト云夏也アツ 醜ウツ 女ト云魂魄ヲ喰

フ神ナルエハニ前立ニスト一説ニハ云也万葉



○惡七別當黒  
草威ノ鎧ニ  
タカツノ子  
タル冒ヲ着  
保元物語

日本紀云醜女知  
悉古或説云黄  
泉の鬼乃り世  
人小兒をわす世  
之久々あ詩  
女と稱さるハ  
此語の事マ  
多し和名抄

集ニ鬼ノ字ヲシコト讀タレハ鬼面ト云夏秋龍  
頭曹獅子頭曹トイヘ凡シカミノ曹ハ古記所見  
ナレ獅頭ヲシカミト云秋頭ノ字カミト訓スレ  
ハ湯桶ヨミナレト獅頭トヨミシ秋吾國此例ハ  
多カルヘシ

○毘沙門ノ鎧ノ前ニ鬼面アリ是ヲ河伯面ト云  
大國ノ鎧ノ具也毘沙門ニ限ベカラズ佛師ハ是  
ヲカハヌト云河伯面ヲ畧スル詞歟又云誤ル歟  
又ハ崇皇ノ装束ニ是アリヲビクヒト云帶食ト  
書或ハ帶頭トカク則河伯面也河伯面トハ何ノ

カミノ面ヲ模造レハナルヘシ 枹朴子ニ叙テ云  
馮夷人名溺死テ河伯ト成ルト云云 璫囊抄

簾懸  
毛引  
○或書云所々緘トキタルヲ簾懸ト云繁ヲ毛引ト云  
毛トハ糸ヲ呼也人身ハ毛ノ意也何枚曹ト云ハ  
鋼ノ枚ノ数ニテ云也 鉾付ノ板ハ数ノ外ナリ

竜頭曹  
○火威ノ鎧ノマダ己ノ射ナルヲ透間モナクメ  
サレ龍頭ノ曹ノ緒ヲシメ 太平記

白星  
○白星ノ五枚曹ノ吹返ニ日光月光ノ二天子ヲ  
金ト銀トニテ堀透テ打タルヲ猪頭ニ著 太平記

四方白  
○伯耆卷ヲ引テ四方白兎著多  
田所五郎左衛門  
種直ト云モノナリ

参考太平記  
船上合戦

四方白

○阿保肥前守忠實唐綾威鎧

龍頭ニ。四方白兜参考太平記  
將軍上洛

纒付

○右工門佐ノ内兜両眼ノ間ヲ後ノ纒ナ附ノ本へ

矢先白クゾ射タリケル

天正本太平記  
神南合戦

忍緒

○曹緒ヲ忍緒トイフヲ記録ニ見エズ舞曲八島

堀川夜討ニ忍緒ヲシメテ

高懸高

○兜ノ高紐ニカクルト云ハ兜ヲ後ノ領筋へ下ケ

忍ノ緒ヲ左右高紐ノ中ヨリ外へ引出シ胸板ノ上

ニテ結フ但前ノ方ハ上ニナル頬當ハカケ紐ヲ頭

カケ胸板ノ上ニ下ケヲクナリ

### 鍬形

礼家ニハ鍬形ハ沃浮也沃浮ヲ勝軍草ト云故ニ

前立ニ用エトイヘト鍬形ト云字理ニ聞ヘズ愚

按蝦夷人三種神宝アリ。エモシツホ。太カ。蝦夷太

刀。クハサキ。是也此鍬ガキト云モノ真鍬ニテ作

リカラスキ犁ノ先ニ似タリ上古ノクワノ形ナル欣蝦夷

ニテ病ヌル取ハ昔國ノ札守ノ如ク枕ニ立ツ矢

石ヲフセカレタメニ曹ノ前立ニセル欣鍬形ハ

鍬ガキノ形ナルベシ見附考彼國へ源九郎美經朝臣ノ

持渡リ給ヒテ残リシヤ美經朝臣ヲ。ヲキタルニ



蝦夷

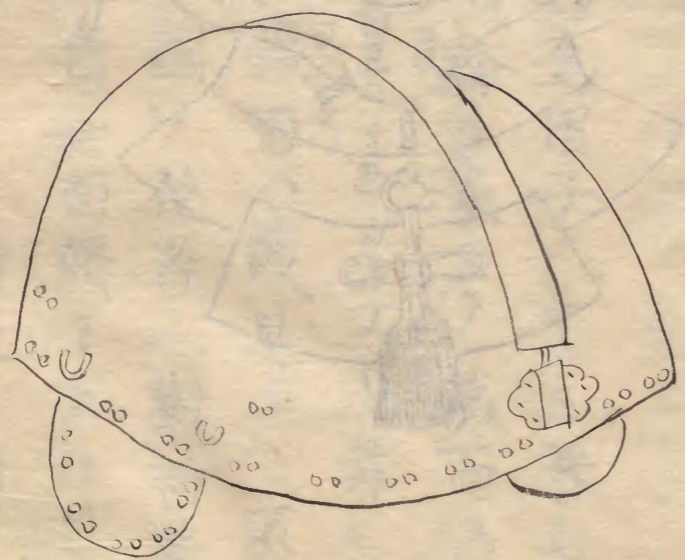
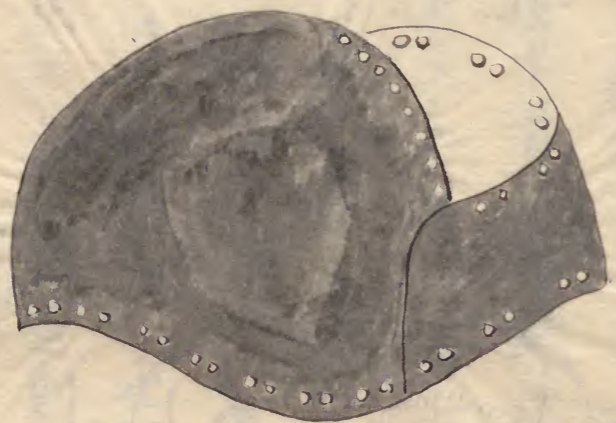
クハガキノ圖

クハガキノ圖

地カ子鐵置物真鍮

ト申テ吾國ノ天照太神ノヤウニ敬ヒ奉ル鍬ガ  
 キハ日本ノ鍬形ト云モノニ似タリ  
 鍬形  
 ○紫坐滋<sup>スッゴ</sup>ノ鍬ニ鍬形打タル白星ノ曹ニ濃紅ノ  
 母衣カケテ盛衰記  
 同  
 ○銀ニテ鍬形打タル龍頭ノ曹  
 盛衰記  
 屋島合戦  
 同  
 ○扇一揆秋山新藏人五枚曹ノ緒ヲシメ鍬形ノ  
 間ニ紅ノ月日出シタルヲ不残開テ夕陽ニ耀シ  
 太平記  
 ○五枚曹ニ五尺二寸ノ銀ノ鍬形打テ猪頭ニ著  
 明德記

半首



見附考

○<sup>見附考</sup> 鋏形平人不著ト云ヘトモ不若夏也

○<sup>見附考</sup> 或人云龍頭ニ鋏形ノ首ハ首ニテ鋏形ノ立物

ハ尾ニテ首尾ノ曹也然ル故鋏形ハ誤リニテ火

形也 火炎ヲ表シテ龍ニ火也ト云 <sup>見附考</sup> 愚案ルニ火

形ト云モ誤リナルヘシシカラハ <sup>見附考</sup> 鋏形ハ戈形カ

戈ノ鋒先也今モ鬼ヲ畫クニ持シ太刀ノ先ホコ

ノ形也クハをくつとさうて <sup>見附考</sup> 漆の玉島の刻を

あまは <sup>見附考</sup> 漆をせし <sup>見附考</sup> 玉島の刻を

面頰

半首



半首ハツブ

面頰

目下頰當

半頰

空頰

越中頰

猿頰

愚按半首ハ鉢鐵也梨子打鳥帽子ノ下ニ著之曹  
 ノ下ニモ重子着セシ也明珍カ家ニテ鐵面ヲ半  
 首ト云ハ誤レ也前ハ半首ヨダレガ子ト舞ニマ  
 へバ鉄面ト取子カヘシ也見附考鐵面ハ戦具ニハ不自  
 由ニテ難用モノ也是ハ敵國ノ使者へ對面等ノ  
 時用ユル具也見附考是則面頰也當世面頰ト云ハ目ノ  
 下ノ頰當也見附考鼻サキラ半頰ト云猿頰越中頰ナト  
 今云頰ハアダボウト云モノニテ緒夕ヨリノ夕

メニヲトガロニバカリ當ルモノ也

○伊勢國愛曾ト云大カノ者只一騎後ヨリ来ケルヲ前ノ戰ノ隙ナキニ知給ハス故殿ノ御跡ニヒカヘラレタル安藝入道殿ノ頭カブト盛ノ銀ヲ切落シケレハ落馬也並テ掟ヘタル範氏ノ三十六指タル大征矢ヲ拂切ニシテケリ其時故殿馬ヲ立直シ先太カヲセラレシニ愛曾兜整ノ鉢ヲ割レテ馬ノ平首ニヒラニテ太カニテ拂ケルニ左ノ御籠手ノ二ノ板ヲ切テ前ナル敵ノ中ニ分入ニケリ其時此戰モ止ケル也後故殿ノ家人殿村平

七ト云モノ愛曾カ知音ニテ此曹ノ鉢ト平首ヲ取出シテ見セテ今川殿ハ如何成 釵ヲ持給ヒテカ隨分某カ試タシタル曹ト半首ト割給ヒテ鉢卷切テ頭ニ少シ創キズヲ被リキ眼暗成シカハ引退シト語キソレヨリ此太カヲ八王ト名付玉ヘシ也ハヲニツ童子タルカ故也 今川難太平記

日下類

熊野類

半類

○獅子頭ノ曹ニ目ノ下類當シテ 太平記  
○五枚曹ニ鋏形打テ緒ヲ縮熊野打ノ類當 太平記烟 六郎左門史  
○義朝只今半類カケ黒馬ニ黒鞍置手打カケテ  
向候 参考保元平治 宣旨

半首

半首

半首

半首

○正清ハ副將軍ノ宣旨ヲ蒙リタソ 相傳ノ主ニ  
郎等ノ矢立ヤ立スヤ試タマヘトニ我詞果ナハ  
射テレトオモヒ一ノ矢ヲ発チケレハ左ノ頰  
サキ半頭ノ間ヲ射削リ兎ノ手サキニ射ツケタ  
リ 保元平治半井本

半頰

○五枚曹ノ緒ヲ縮<sup>シメ</sup>半頰ノ面ニ朱ヲサレテ 太平記  
山門攻

半首

○是モ熊野人ト見ヘテ長七尺計ナルカ大鎧ニ

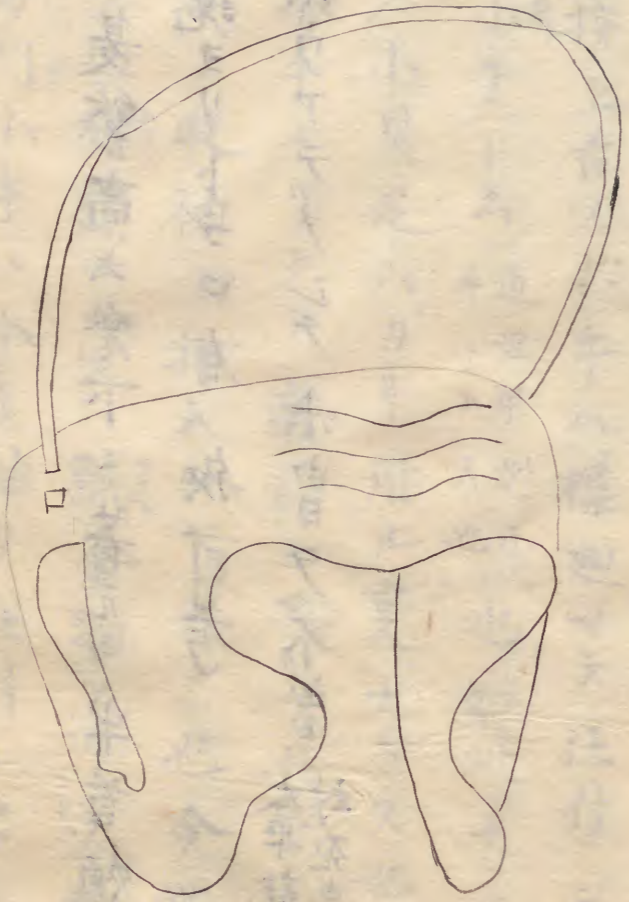
半首掛テ帽子兎ノ上ニ五枚兎ヲ重着 異本太  
平記

半頰

○鎌田發<sup>ツ</sup>矢御曹子ノ半頰ニカラリト中テ兎ノ

シコロニ射附タリ 保元物語

松平因幡守殿家藏半首圖



○松平因幡守殿家藏半首圖  
○口長七尺計ナルカ大鎧ニ  
○是モ熊野人ト見ヘテ長七尺計ナルカ大鎧ニ  
○鎌田發<sup>ツ</sup>矢御曹子ノ半頰ニカラリト中テ兎ノ  
シコロニ射附タリ 保元物語

○熊野人ト見ヘテ長七尺斗ナルカ半首カケ 鬚

太平記

○日夏繁高云兜下ニ著ルヲ半首類ヲ半類ト云

此説ヨリトコロ有ル歟可考

○ホウアテヲシテ未曽ラ不著

太平記細川相模守討死



太平記細川相模守討死

針コテ 産針ウカ 小田針 筒小手 鎬コ小手 毘沙門針

針袋 楊梅桃李針

愚按上古ノ小手ハ襟廻マテ仕付ニセシ也是ヲ

見附考産小手ト云 近世甲州小也如此ナケレハ急ニ臨

ミテ小手具足ハカリ用ル夏ナラヌ也源義経朝臣

ノ小手ナリトテ南都ニアリ小手袋付シ是ハ鎧

直垂ノ取袖ヲ押入ル、夕メ也今世小田小手ト

イフハ総鎖ニシテカサ瓢金物アリテ袖モ付ケ又也

毘沙門小手ハ小キ袖ヲ仕付ニセシ也藤小手筒

小手等品類猶多シ



小手袋 ○先陣平一揆三万余騎小手ノ袋四幅袴笠印ニ

至マテ一色ニ皆赤カリケリ 太平記武藏合戦

楊梅桃李 ○見附考楊梅桃李小手 ヨロヒシ 函人岩井善六云楊梅桃李ハ文

字誤レリ鶯梅通籬ト書ヘシ南都勸修坊ニ源美

経朝臣小手アリ手甲ニ梅ノ立木菊花蝶ノ羽ノ

上ニ鶯ヤトレリ左右へ鶯ノ通フコ、口也ト云

又或人云加賀小手ノ花ヤカニサウガレ入タル

小手也愚按楊梅桃李ノ小手ト云モノアルニハ

アラデ結構成夏ライハレトテノ言葉也盛衰記

ニ御船其敷漕ナラベ屋形ノ前後ニハ御簾モ

机帳モサ、メキケリ袴アケマキ温卷ノ坐マテモ楊梅桃

李トカザラレメリ、又褒言桃李粧芙蓉ニシリ眸ニシリ云也

鏢小手 ○黒糸ノ甲冑ニ指エヒノサキマテ鏢リタル篠手鏢隨

膝鎧 ○當半頬膝鎧無透處ヌキトコロ一様ツツミ 太平記山門攻

小手手覆 ○小手ノ手覆ツツミヲ切ナガサル、太刀ニテ手網ノ

マカリヲツレト切ラレ 太平記

○神功皇后針ヲサ、セ給ヒシ所ヲ針ノ浦ト云備

本記 ○籠手ヲ差テイマタ鎧ヲ着ス 太平記

脛楯 因幡脛楯 宝幢脛楯 美經脛楯 膝鎧

踏込 瓦脛楯 伊与脛楯 屈脛楯

因幡脛楯 ○因幡脛楯ノサ子トモニ切テオトシケル明德記

膝鎧 ○半頬膝鎧太平記 宝幢脛楯一物二名也

○愚按上古ニハ脛楯ハアリシヤ舊記所見ナシ

太平記明德記等ニハ見ヘタリ

オメリ草 ○オメリ草ト云ハ佩楯ノカ草ノ下一文字ノ草

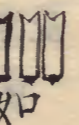
カ草 也 豎ナル草ヲカ草横ナルヲオメリ草ト云也

踏込 板佩楯 ○或書ニ板佩楯踏込佩楯アリ鏢ニテスルニハ

膝金アリ又摺アリ一寸程ナル金ヲ條ニテ緘付

伊与佩楯 タルヲ伊豫佩楯ト云サカ 鏢ニシテ小形ニシタ

越中 ルヲ越中佩楯ト云

瓦脛楯 ○或人云瓦脛楯ト云ハ丸瓦ノコトク作り  如

此イクツモナラヘイエ地ニ付ルナリ屈脛楯ト

云ハ  如此イクツモイヘ地ニ付シ物ナリ幽人

ノ言葉ニハ子ブカ脛楯トイフ葱ニ似タル故也

トゾ

○頼宮又二郎熊野八庄司膝鎧透間ナクツ、

タル太平記 四月三日各戦

○黒糸の隈曾小柄のまきよて深クもろき糸を頼宮は頼膝鎧

与透る一糸よつて 太平記山門攻

袖 八幡殿ヲ産衣ノ袖ニスヘテ見参ニ入ラレケ  
ル 平治物語

○新田美助射向ノ袖ニサシタル金作ノ太刀ヲ  
今左淨慶ニゾアタヘラル 又袖ノ冠板ヨリ菱  
縫ノ板マデ片筋カイニ懸バ切テ落ス 太平記

○宇野親治ハ矢並頻ニ撥繕ヒキ兜ノ緒ヲシメ射向  
ノ袖ヲユリ合銀ヲカタムケ 保元物語

○洗草ノ腹巻ニ射向ノ袖ヲソ付タリケル 盛衰  
○義興曹の潑袖の三の板印落ス 太平記 武藏野  
合戦

見附考  
義經脛楯

前



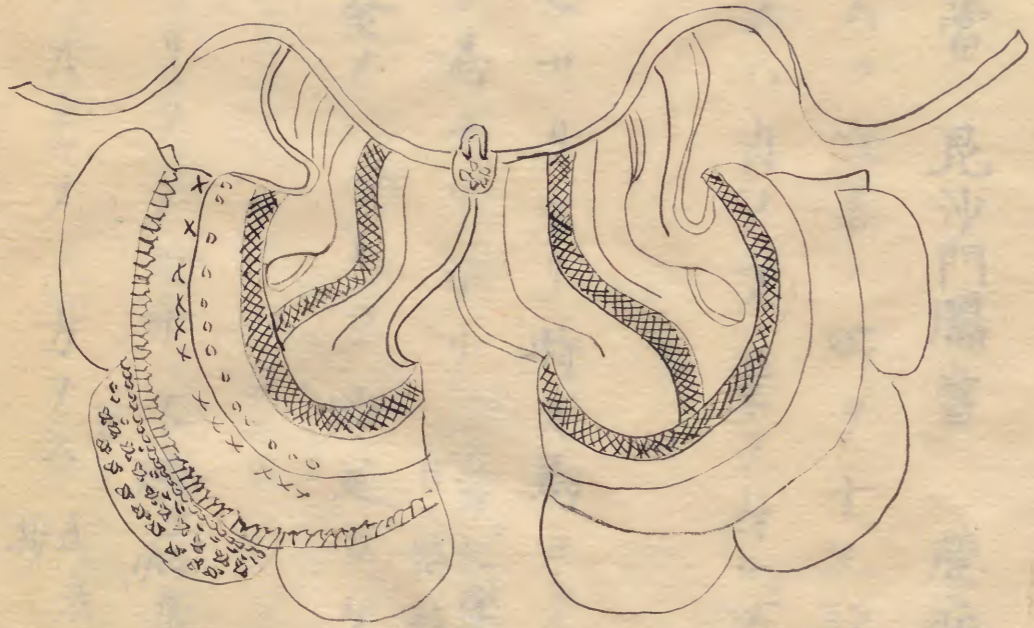
義経脛楯

後



義経脛楯  
夏前式

寶幢脛楯



寶壽堂



臙當 大立拳 篠臙當 毘沙門臙當 臙病金

愚按毘沙門臙當ト云ハ立拳ノ所ヲ十五頭ニセ  
シヲ云也 鉸具摺ト云ハ内ノ方ノ草ヲ付シ所ヲ云  
ナリ

○ワサト臙當ヲバセサリケリ時々馬ヨリ飛下

リテ深田ヲ歩マレガ為ナリケリ 太平記隆賢御  
自八幡被寄

○後へ走寄テ臙病金ノハヅレヲ兩足カケテ切

タリケリ 太平記  
明德記

○臙病カ子ノコトハリヲシルサズ臙病カ子ト

云ハ右ノス子アテノオモテノ方ヲ云 武者物語  
抄

同

大立拳

○銀ノ磨著ノ臈當ニ金作ノ太刀

太平記 關東大勢上洛支

○鏢ノ上ニ小鎧ヲ重テ著大立拳ノ臈當ニ膝鎧

懸テ龍頭ノ曹猪頭ニ著成シ

太平記四月三日合戦 毒麿孫三郎勇力支

○獅子頭ノ曹ニ目ノ下ノ頬當ノ四尺三寸ノイ

カモノ作ノ太刀ハキ大夕テ場ノ臈當服楯ノ下

へ引コウテ太平記

愚得隨筆卷四

甲冑類二

目錄

腹卷 背板

筒丸 杏葉 具足

腹當 同圖

金胴 札帷子 鎖帷子 帽子曹

小具足 著背長

甲著

鎧唐櫃

前字

鎧直垂上下

脚半

同圖

梨子打鳥帽子

首張頭巾

革

天平革

正平革

表革

錦革

鴨革

高山皮

紀伊國皮

丹後目結

蓼目皮

菖蒲革

杉立菖蒲

八幡黒革

鹿ノ丸革

繩目革

小文藍革

薰革

愚得隨筆卷四

愚得隨筆卷四

日下部景衡集

甲曹類二

見附考  
腹卷

見附考  
背板

愚按左右ヨリ引廻シ背ニテアハセ上下引アハ

セノ紐アリ近世背板ト云モノアリムカシハ十

キモノナリ腹卷ヲハ上ニモ着シ裝束ノ下ニモ

著セシ也上ニ著スル時ハ袖小キヲモ付ルナリ

○博士判官兼成力下部ニ金武ト云放免アリ究

竟ノ大力大腹卷ニ左右ノ小手指打刀ヲ抜テ向

會タリ成裏記

大腹卷

○慶秀ハ白帷子ノ服カキタルニ黄大口著テ萌

黄ノ腹巻 袖付タリ 盛衰記

上腹巻 ○兼隆紆ノ小袖ニ上腹巻著テ太刀ヲ額ニ當膝

付居テ敵ヲ待ツ 盛衰記

下腹巻 ○院参布衣侍十二人御供ニアリ各布衣ノ下腹

巻著 東鑑

○市夜又龍夜又トテ大ノ童ノミメヨキラ三人

滋目結ノ直岳ニ菊閑シテ下腹巻ニ矢負 盛衰記

○昔狩衣ノ下ニ萌黄系威ノ腹巻著テ烏帽子ノ

尻盆ノ窪ニ狎入テ狩衣ノ小袂ヨリ手ヲ出シ 盛衰記

玉代一覽云  
兼久元年正月廿七  
夜寶朝大臣拜賀  
為ニ鶴岳ハ参宮  
其出ル時ニノゾニテ  
廣元入道覺阿参  
テ東帯ノ下ニ腹  
巻ヲ著セラルベシ  
ト申ヌ云々  
吾妻鏡卷二十四曰 正月廿七日戊子入夜雪降積ニ尺余今日將軍家右大臣拜賀云々前大腰大夫入道覺阿  
参進申曰云々東大寺供養之日任右大將軍御出之例御東帯之下可令著腹巻給上云々  
仲章朝臣申云昇外大臣大将之人未有其式云々仍被止之

○衆圓坊阿闍梨慶秀ハ下腹巻ニ衣装束長縮袈

裟ニテ頭ヲツ、之打刀前岳ニ指 盛衰記

○土肥次郎ハ木蘭地直岳ニ層腹巻ヲ著タリ 同記

○下腹巻ニ烏帽子カケシテ太刀ハカリ帯 同記

○信連其夜ノ裝束ニハウスアラノ狩衣ノ下ニ

萌黄白ノ腹巻著テ衛府ノ太刀ヲヒタリ 平家物語

○玉田宿祢甲服ニ襖中ニ参赴甲端自衣中出 日本書記

○北面諸司恪勒ハ大略狩衣ノ下ニ腹巻ヲ著映

シタルモアリ 太平記

○妙法院宮ハ生給ノ御衣ノ下ニ萌黄ノ御腹巻



トカヤ着給ヘリ 増鏡

後平板

腹当起

伊与腹卷

腹卷乃一の板盛裏  
戦記空笠合

○腹卷ハ背ワリニテ背ノ合タル所ニ後平板有

或書ニ源頼義奥州陣ノ時鎧ノ押付一通引キレ

レテ腹ニテ給是腹當ノ起也背ノアキタル所

へ背板ヲ入是ニケサレ一枚付ル是ヲ伊与腹卷

ト云トアレハ當時腹卷ハ頼義ニ起ルニヤ然氏

其説古書ニ不見 日復繁高説

○モクラレ地ノ直岳ニ紫葦腹卷 保元物語タカ

○平治合戦之時六波羅入道共人四人皆布衣下  
腹卷 古事談

筒丸 杏葉 具足

愚按胴丸ト云ハニルキコサ子揺小札或ハ大荒目ニレテ蝶ツ

カヒナツ引廻レテ馬手ノ脇ニテ引合セシ物也

杏葉ヲ付ル是ハ鳩尾梅檀ノ畧制也又鎧ノ下ニ

モ重子着セシ欵弓強ノ射レ者ハ胴丸腹卷ヲ用

ヒレ近代ノ具足ハ此胴丸ニナラヒレモノナリ

○下学集曰日本俗ノ所也但筒或ハ同ニ作ル

無体也是人ノ身ヲ以テ竹ノ筒ニタトフル也同

ノ字無体今用之事何哉

○弓能射者ハフツ曾ヲ着サレ腹卷腹當筒丸ナトヲ

著テ矢倉ニ上シ 盛衰記衣笠合戦

○射手ノ兵ハ同丸腹當帽子曹ニテ楯ヲ左右ヘ  
流シテ雨ノ降ルコトク射タリケリ 明德記

○野木与一兵衛入道頼玄同丸ノ上ニフシナワ  
メノ大鎧スキマモナク著ナシ 太平記

○大荒目胴丸 庭訓往來

○年十五六計ナル小兒ノ髮唐輪ニ上タルカ麴  
塵ノ筒丸ニ大吟ノソバ高く取り金作ノ太刀ヲ  
拔テ 太平記

○海東幸若丸麴塵ノ筒丸ヲ著ス萌黄ノ筒丸ハ

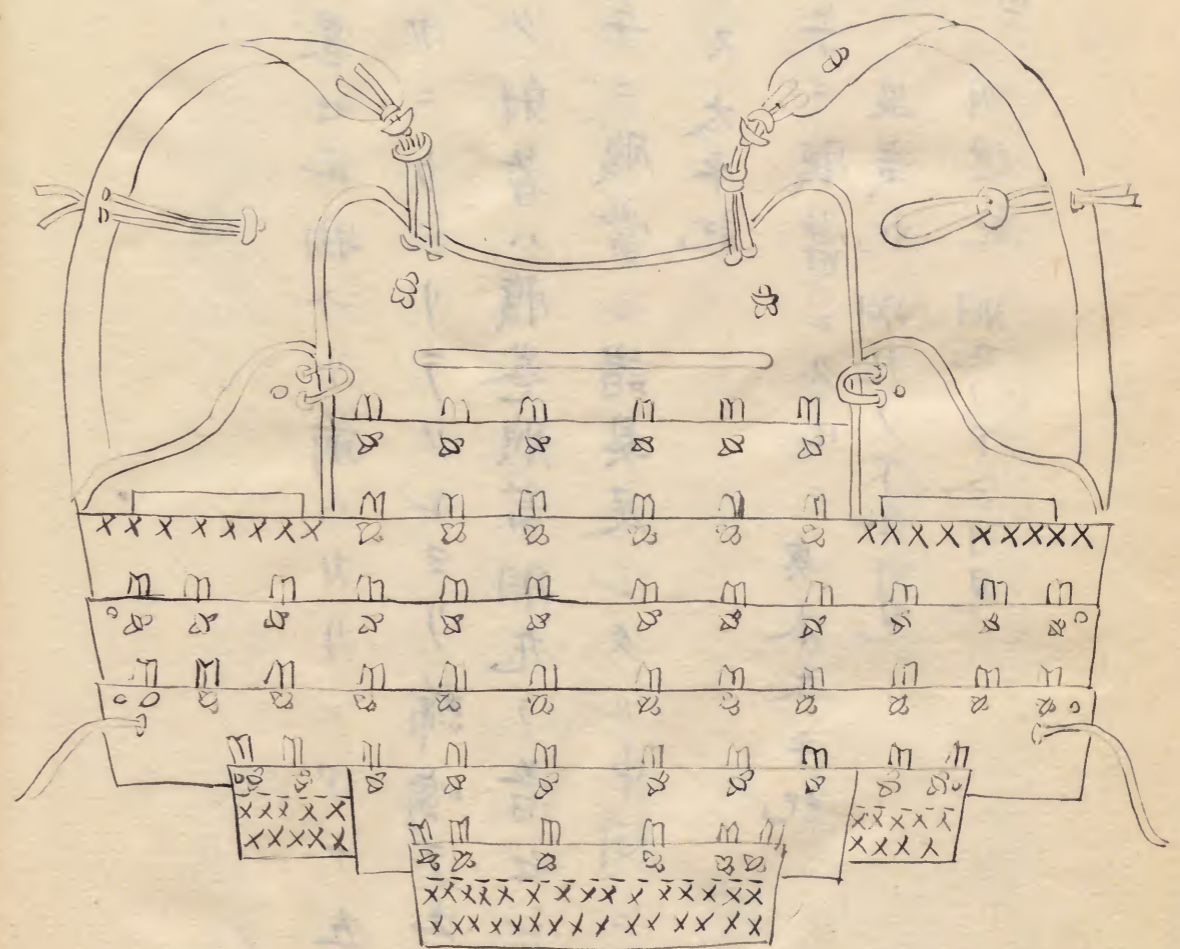
大炊御門冬信卿水干ノ下ニ著シ給フ 太平記

○<sup>見附考</sup>口碑云陸奥守源義家奥州陣ノ時伴資兼胴丸  
ヲ制シ奉ル是胴丸ノ權輿ナリ

○松下加兵衛或時尾刈信長公御家中ニハイカ  
ヤウノ具足ハヤルソト尋シニ秀吉<sup>ウツクハ</sup>奉リ尾張國  
ニハ桶皮筒ニハ事変リ胴丸トテ右ノ服ニテ合  
セ伸縮自由ナルヲ以テヲシテ是ヲ用ユル  
由申サレケレハサラハ其具足曹カフテ參レト  
テ黄金五六兩渡レツカハレケリ 太閤記



腹當之圖



金胴規附考

札帷子

鏢帷子

帽子曹

愚接近世俗ニ著籠ト云モノ也金胴ハ桶カワ胴

ノゴトク作りテ一段ツ、包直懸ニオトス也。箆

鐵入ガキタルヲサシバ札帷子。鏢ハカリニヲ作タルハ鏢

帷子ト云也見附考帽子曹ハ今云クサリ頭巾也金胴鏢

ヲハ鎧ノ下ニ重テ着タリシナリ

○畑六郎左衛門金胴ノ上ニ火威ノ甲ノ敷目ニ

拵ヘタルヲ草摺長ニ著 太平記畑六郎左衛門事

○一色左京大夫ノ装束ニハ赤地ノ純子ニテ包

タル金胴ノ上ニ白糸ノ鎧ノツマ取りタルヲニ

領着童子給テ同毛ノ五枚曹ニ五尺二寸ノ銀ノ  
鍬形打テ猪頸ニ着或人云曹ヲ猪頸ニ着ト云ハ  
矢石ヲ恐レスト云賞券ノコ

トハ 明德記

鏢

○帽見附考子曹ニ鏢ヲ着テ足輕ニ出立時モアリ太平記相  
六郎在門事

同

○妙觀院ノ因幡堅者全村トテ三搭名譽ノ悪僧

同

アリ鏢ノ上ニ大荒目ノ鎧ヲ重テ着 太平記

○弦走敲テソ立タリケル足助是ヲ聞テ此者ノ

云様ハ如何様鎧ノ下ニ腹巻カ鏢カヲ重テ着タ

レハコソ前ノ矢ヲ見ナカラ此ヲ射ヨトハ敲ク

ラレ 太平記

著籠

○鎖ノ上ニ鎧ヲ重テ着 太平記

○熊野人ト見ヘテ長七尺計ナルカ大鎧ニ半首

掛テ帽子兜ノ上ニ五枚兜ヲ重著 異本太平記

○中原章信シラアヲ白襖ニ著籠ニ帶釵シテ参考太平記

○坂四郎永覚帽子兜ニ五枚兜ヲ着ル 平家物語

著長 物具 出羽國ノ住人吉彦秀武ト云者アリ

モ千來ル飯酒ヲ皆從者共ニクレテ長櫃ナトヲ

ハカドノマヘニウキステ著長トリ著テ即等尾

物具

ニ皆物具サセテ出羽へ送テイニケリ 後三年記

○新院左府モ御著長ヲ脱タマフ 参考保元物語

○本曾殿今井四郎只主從二騎ニ成テノ給ケル

ハ日比ハ何氏覺ヘヌ鎧カ今日ハ才モフナツタ

ルツヤトノ給ヘハ今井ノ四郎申ケルハ御身モ

イマタツカレサセ給ヒ候ハス御馬モヨハリ候

ハス何ニヨツテ一領ノ御著長ヲ俄ニヲモウハ

思召レ候ヘキソレハ味方ニツ、ク勢カ候ハ子

ハオクビヤウニテコソ思召候ラメ 平家物語

○師直著長ノ料ニ同毛ノ鎧ヲ一領マテ置タリ

ケルヲ上山走寄テ唐櫃ノ緒ヲ引切テ鎧ヲ取テ

肩ニ打懸ケルヲ武藏守カ若黨鎧ノ袖ヲ扣テ是

ハ何ナル御事候ソ執事ノ御著長ニテ候者ヲ案

内ヲモ申サレ候ハテト云テ奪止レト引合ケル

時師直是ヲ聞テ馬ヨリ飛テ下リ若黨ヲハタト

睨テ無云甲斐者ノ振舞哉只今師直カ命ニ代ラン

人ニ縦千両万兩ノ鎧ナリ何カ惜カルヘキゾ

コ、ノケト制テイシウメサレテ候者哉ト還テ  
上山ヲ被感 太平記四條繩ヲ合戰上山討死

○或記云御著背長將軍ノニ限タル事ナリ但シ

御鎧凡申候御成ナドノ目錄ニハ心ズ御鎧トア

リ如此ツ子ニ申來候愚按下ヨリ上ヲ敬ヒ云言

葉ナリ

○重代著長唐草ヲ唐櫃ニ入テカ、セラル  
平家物語

見附考  
小具足

小具足ト云ハ小道具ト云エ、口也事急ニ臨テ

ハ小手ニ曹ヲ著ルヲ小具足著テト云也

○毛利冠者頼隆紺村濃直岳ニ小具足加ヘ常胤

ノ傍ニ跪ク 東鑑

○御甲著一人御曹持一人御小具足持一人 東鑑

○入道ハ小具足取付腹巻著 盛衰記入道院参企

○赤地錦直岳ニ鎧ハ態ト著サリケリ小具足ハ

カリニ長覆輪ノ太刀帶キ 盛衰記

○將軍サテハ今夜ヲカギリコサレナレ面々其

用意スヘシトテ鎧ヲハ脱テ推除ケ小具足計ニ  
ナリタマフ 太平記

○急ケ殿原ト下知シ鎧小具足取出シ盛衰記

○新田左中將義貞朝臣ハ赤地ノ錦ノ直垂ニ服  
立ハカリシテ遠侍ノ座上ニ坐シ給ヘハ服屋右

衛門佐ハ緋地ノ錦ノ直垂ニ小具足ハカリニテ  
左ノ一坐ニ着給フ 太平記

○村田ノ一族六騎小具足許ニテ誰カ馬匠ナク  
セタクト打乗 太平記藤井寺合戦

○平三郎兵衛盛綱鎧ハ脱テ小具足ニ太刀バカ

リ帯テ白母衣カケ 兼久記

○土肥次郎實平ハムクラン地ノ直垂ニ小具足  
許シテ隨兵廿余騎ヒキリシテ 平家物語

○義朝赤地錦鎧直垂ニ服立小具足許ニ太刀  
帯烏帽子引立庭上ニ跪 保元平治京師本

○村上又太郎長高褌直垂ニ小具足計ニ折烏帽  
子引立テ参考太平記

○左右ノ城戸口ノ弱カラシ時軍セシトテ鎧物  
具脱置テ小具足ハカリニテ居タリ 盛衰記 義経  
落鴨越

○腹卷ニ小グソクサシカクメマツサキニス



ミタリケリ 平治物語

○馬ヨリ物ノ具ヌキステ鎧ヒク、レ小具足太  
刀刀馬クラマテヤカキヒテ命ハカリタスケ給  
ヘトテ手ヲ合ス 平治物語信賴降参

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

甲著

愚按上古ハ遠所他行ノ時ハ主君ノ御鎧ヲ著シ  
供奉セシ也是ヲ御鎧著ト云其時ハ甲ヲ著テ上  
ニ脇立ヲスル故實ナリ

○小山五郎宗政持御劔佐々木四郎左衛門尉高  
綱著御鎧愛甲三郎季隆懸御調度 東鑑

○高綱御鎧ヲ著レ前庭ニ候ス見ルモノ難<sup>ナシ</sup>之<sup>シ</sup>服  
立ヲ以テ甲ノ上ニ著スル失トスコ、ニ高綱カ  
小舎人童此事ヲ聞テ高綱ニ告ク高綱怒リテ  
云主君ノ御鎧ヲ著スル日若事アル時先ツ脇立

ヲトツテコレヲ進ルモノ也巨難ヲ加フルモノ  
イマ夕勇士ノ故實ヲワキマヘスト云 東鑑

御曹持 ○御甲著大井次郎實久次ニ御曹持中野五郎能

成 東鑑

御曹持 ○御甲著一人次御曹持一人次御小具足持一人 東鑑

御小具足持

○堀口美流守貞満先内裏(糸々)幸の極子足等(り)ん

○即(り)被(り)て(り)陰(り)を(り)肩(り)に(り)披(り)け(り)鳥(り)の上(り)上

帯(り)を(り)編(り)め(り)法(り)純(り)令(り)奉(り)了(り)也 太平記自山門還幸

○武蔵守(り)義(り)重(り)山(り)之(り)七(り)等(り) 爲(り)物(り)具(り)多(り)て(り)肩(り)に(り)打

包(り)け(り)鳥(り)に(り)上(り)て(り)支(り)紐(り)ナ 太平記陰謀判官謀死

唐櫃

鎧唐櫃ノ底ニ持タリケル唐綾ノ白小袖一重取

出シテ女院ニ進タリ 平家物語

○重代ノ著長唐草ヲ唐櫃ニ入テカ、セ 平家物語

○千葉今常胤持參御甲納櫃ヲ子息胤正師常胤(東鑑)

○師直(り)も(り)せ(り)た(り)此(り)料(り)ノ(り)白(り)糸(り)乃(り)陰(り)と(り)二(り)頭(り)も(り)て(り)爲(り)り

け(り)と(り)上(り)山(り)走(り)去(り)て(り)唐(り)櫃(り)に(り)依(り)と(り)引(り)切(り)陰(り)と(り)取(り)て(り)肩

に(り)打(り)包(り)け(り) 太平記四糸繩多金銭

○長唐櫃ノ底小穴とありて糸とあり其櫃の中り

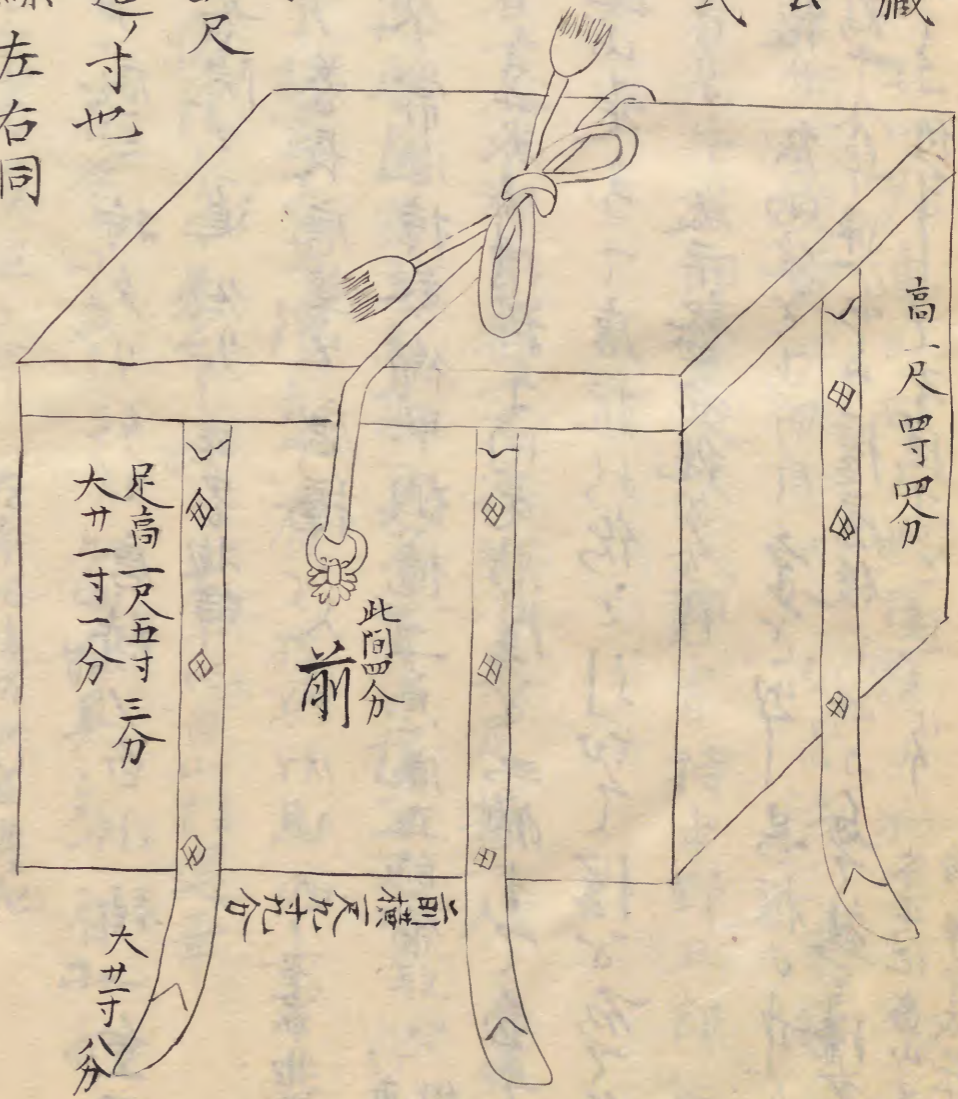
あ(り)て(り)糸(り)中(り)糸(り)連(り)ぬ(り)糸(り)陰(り)唐(り)櫃(り)に(り)結(り)小(り)糸(り)毎(り)て(り)結(り)と(り)陰(り)糸(り)及

の(り)中(り)に(り)也(り)不(り)付(り)一(り)て(り)尾(り)結(り)守(り)と(り)送(り)り(り) 太平記高山兄弟  
修禪寺城籠草

八幡寶藏  
源義家公  
鎧唐櫃式

蓋高一寸七分

搥黒塗  
板厚四分  
緒一寸二分  
廻長五尺  
一寸廂迄寸也  
色紫練縹左右同



前字

鎧櫃ニ前ノ字書ハ字畫九ツアルユヘニ九字文  
ヲ表シテ書ト云ク或人云中庸十九章ニ言前定則  
不踏事前定則不困行前定則不疚道前定則不窮  
ト云前字也ト云後世附會ノ説ナルヘシ愚按急  
ニ臨テ櫃ヨリ取出スニ前後取子カヘマシキタ  
メニテ何ノ心モナキ也ソノ上兵ノ押付ヲ見  
セヌヲ本意トス礼家ニテ人ノ鎧ヲ見ルニ前ヲ  
トクト見後口ヲ見ル時ハソノ挨拶ヲシテ見ル  
ヲ故實ト云フ也字畫ノ不切續クヤウニ調ヲ習

トス八幡山宝藏ニ源義家朝臣ノ鎧櫃一分アリ  
此箱字ハ直鍬ノ金具也左ノコトシ

# 前

文字大サ如此但シ真鍬ニ  
テ入ル起上ケ高サ五六厘  
程也

## 鎧直鍬

錦ノ直鍬ニ石打征前御免ヲ蒙リ候ハシ且ハ最  
後ノ御思ナリト所望申盛衰記トアレハ平士ハ  
免許ナク錦ノ直鍬ハ着用禁セシト見ヘタリ  
○實盛モトハ越前ノ國ノ者ニテ候シカ近年御  
領ニ付ラレテ武藏ノ國長井ニ居住仕リ候キ事  
ノタトヘノ候ノカシ古御ヘハ錦ヲ著テ歸ト申  
事ノ候ヘハ何ノケルレウ候ヘキ錦ノヒタ、レ  
ヲ御免候ヘカシト申ケレハ大臣殿ヤサシウモ  
申タリケルモノ哉トテ錦ノヒタ、レヲ御免有

錦直垂之  
禁

ケルト聞シ 平家物語

○見附考大刀刀金作ヲ除鞍鐙等ノ馬具蒔繪ノ紋金幅  
輪錦直垂紫威ノ鎧國司官人欽大将ノ外ハ不用  
之 太平記理盡抄

○見附考上古ハ將ヲ任スル時此服ヲ賜テ其國へ行ト  
也然ルニ此服ヲ得タル士見易キカ故ニ無礼ノ  
失ナシ麾時ハ令ニ應ス用ヒスレハ有ヘカラス  
地ハ錦ヲ用ユ裏ハ朽葉薄衣ノ板ノ物クルヘシ  
ト云リ長サハ頼義記ニ三尺五分ト云ク但シ人  
ニ因ルヘシ袖長サ一尺六寸 俎談

○或抄ニ將軍家ハ赤地錦也人ニヨリキヌニテ  
モスルナリ其外ノ侍ハ布ニテ家ノ紋ヲ顯シ用  
之干戈ノ時ハ直垂ノ上ニ鎧ノ著スル也 隨兵モ  
其家々ノ紋ヲ付タル直垂ヲ著セシナリ 諡抄

○赤地錦鎧直垂

○青地錦直垂

○緋地錦直垂

○赤地錦直垂ニ大頸端カハタ

袖緋地ノ錦ニテタレタル

○褐ノ直垂ニ袖ヲハ緋地ノ錦ヲ付タリ

○褐直垂ニ大衿クハタ耳袖ヲ赤地錦ニテタチ入タル

○重目結直垂

○滋目結直垂菊刈シテ

朝敵鎮  
直岳

- 褐鎧直岳
- 木蘭地直岳
- 菊内直岳
- 三日結直岳
- 大文字三宛書直岳
- 秋之野摺タル直岳
- 蘭袴著テ
- 白糸ニテ群子鳥縫夕
- 紫隔子ヲ織付クル直
- 兼隆緝小袖上腹卷著
- 朝敵ヲ鎮ル形ニソ出立ケル彼直岳ニハ左ノ
- 緋村緝直岳
- 縫摺直岳
- 蝶丸直岳
- 藍摺直岳
- 練貫ニ沢浮摺直岳
- 紐ク、リノ直岳ニ絲

不着直岳  
鏡子小袖

- 肩ニハ八幡大菩薩右ノ肩ニハ山鳩ヲノ縫タリケル以上源平盛衰記
- 麴塵直岳
- 朽葉綾直岳
- 能登殿舟軍ヤウアル物トテ鎧直岳ハ著給
- 長絹鎧直岳
- 沢浮ヲ入摺タル直岳
- 狂文ノ狩衣ニキクトナ大キラカニシ
- 魚綾直岳以上平家物語魚綾ハ山鳩色胡曹抄見
- 高橋判官長綱練色ノ魚綾ノ直岳ニ黒糸威ノ
- 鎧著テ盛衰記俣野五郎長綱七

○金剛左衛門俊行力士兵衛俊宗ト侍二人烏黒  
ナル馬ニ白覆輪ノ鞍置テ魚絞ノ直岳ノ下ニ火  
威ノ腹巻 盛衰記

○鈴木三郎重家ギヨリヤウシマズリノ直岳ニ  
小櫻威ノ鎧着 高館舞

○褐直岳ニ獅子丸ノ縫タル黒キ直岳 保元平治 鎌倉本

○下河邊庄司行平御甲ヲ調ハ献ル今日持参櫃  
ノ蓋ヲ関キ御前ニ置ク緋地錦ノ鎧直岳上下ヲ

相副フ 東鑑

○大河原次郎兼任錦ノ脚半着シ金作太刀ヲ帶

脚半

間見附考撫夫アヤシミヲナスト云

東鑑

○加州之田中左源太云鎧直岳キクトチ常ノ長

絹等ニ同シユリノ菊トチ上方九ツ下ノ方八ツ

是余ノ装束ニナキ所ナリ是九万八千ノ軍神ヲ

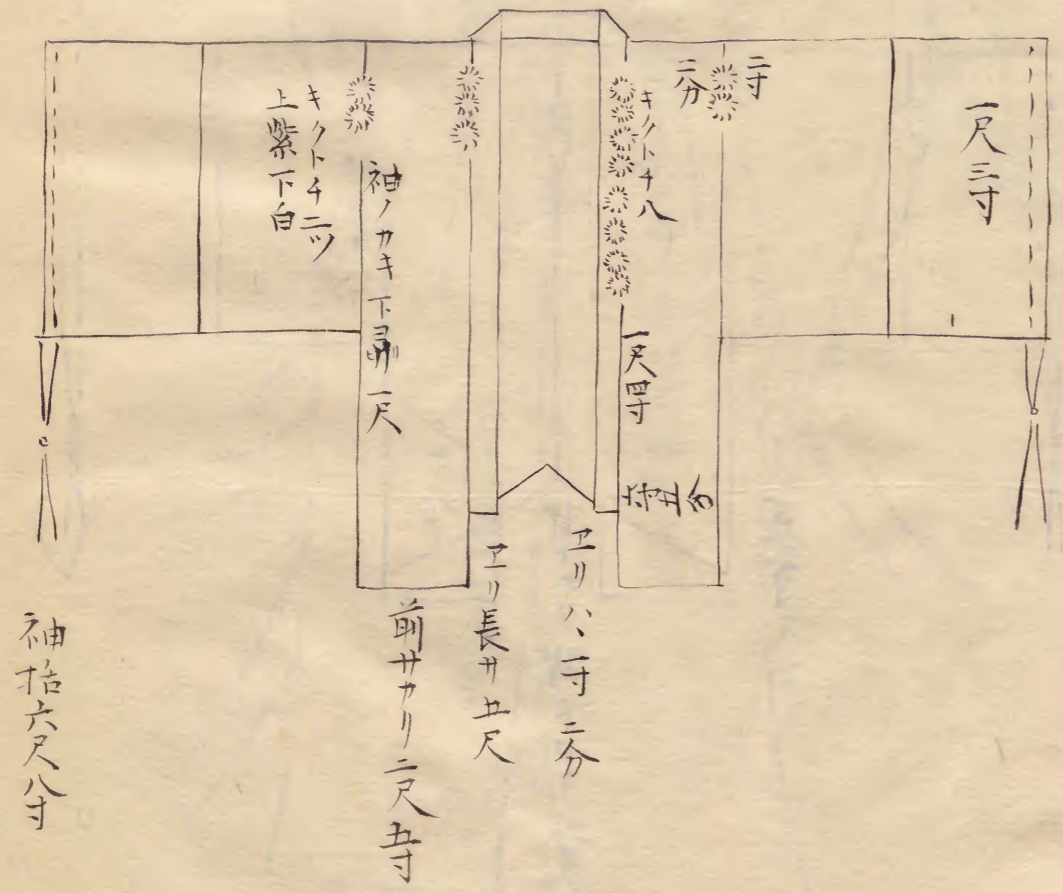
朏ノ間ニ勸請スル所也ト云

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○弘治元年將軍義輝公ヨリ毛利元就ニ下レ給  
 フ錦直垂上下脚半其子孫傳ヘラ今ニアリ後ニ  
 圖<sup>ス</sup>之<sup>ラ</sup>着用ノ次弟神ノ紐ヲ中指ニカケシメテ其  
 アマリニテ袖ヲレボメ結ブ袴ノ紐モク、リシ  
 メテ脚半ヲスルナリ

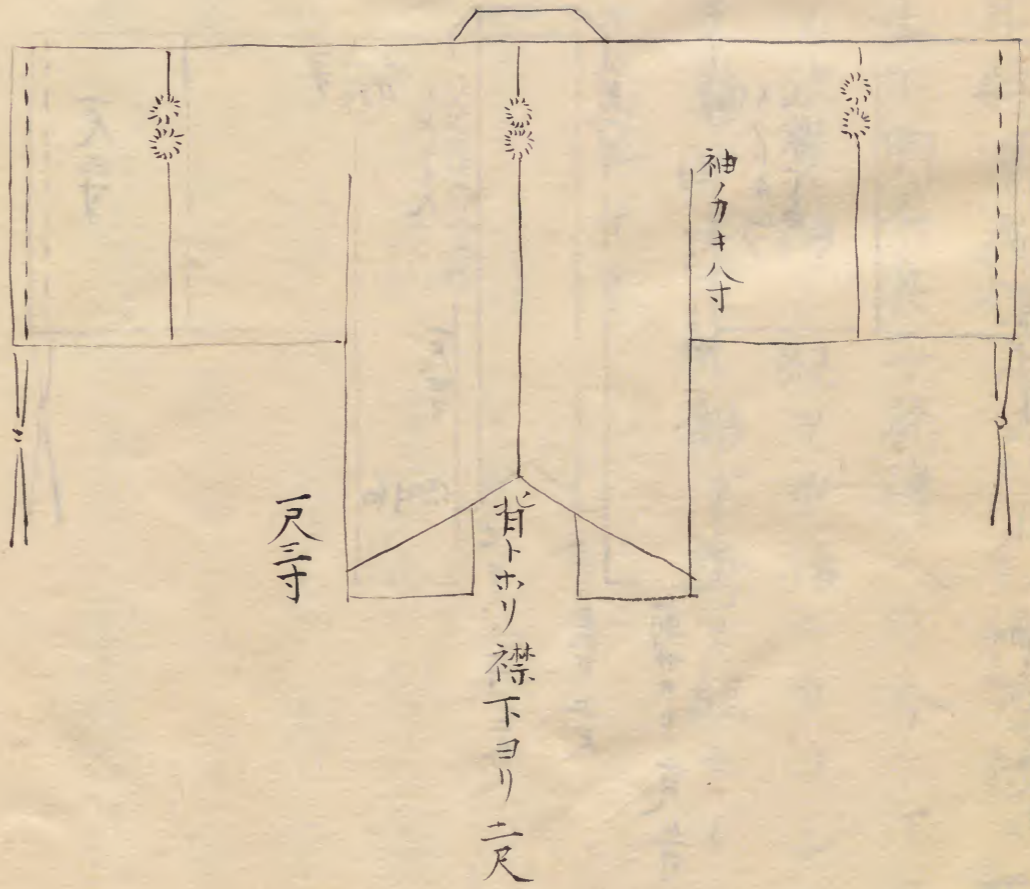
（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 同、白、右、左、等）

左右袖ヨリ 神口ニ六尺

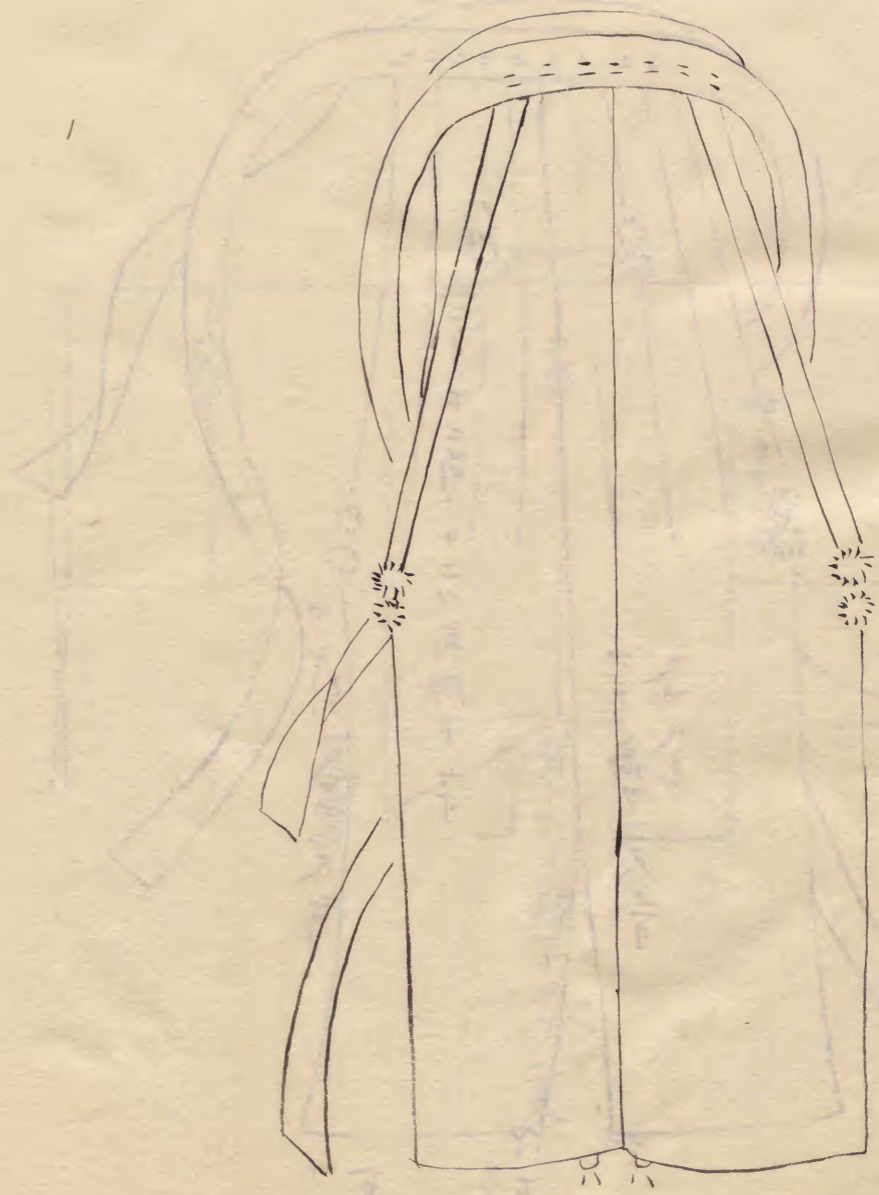




衾ノ下ノ  
ノ下ノ



後  
山  
川  
山



脚半直垂ニ

地同シ

上下共ニ裏打片色也

袴前紐長左右一丈四寸

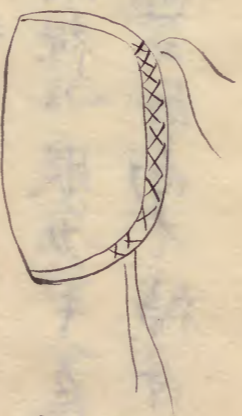
後紐左右合八尺二寸腰ノ内ニイタメ紙入紐ノ

地練ナリ

括ノ緒長二尺八寸餘

○或人云袖ノタリ同色ノ糸ニテ胸紐アリト

云此圖本ニハナシ



モロカマリ紐長二尺六寸ツ、二筋

大口

○纈纈ノ鎧直垂ニ精好ノ大口ヲ張セ紫下濃ノ

鎧ニ白星ノ五枚曾ニ八龍ヲ金ニテ打ラツケ猪

頸ニ著成シ 太平記

直垂上

○鎧直垂ノ上ヲハ取テ抛除ケ袴計ニ撒羅懸テ

將軍御自害アラハ御供申サレト腰ノ刀ニ手ヲ

懸テ静リ返テ居タリ 太平記

白帷子

○圓滿院大夫慶秀ハ白帷子ノワキカキタルニ

黄大口

黄大口著テ萌黄腹巻袖付タリ 盛衰記

褐帷子

○矢切但馬朋禪ハ服カキタルテリ褐帷子ニ白

白大口

大口洗草腹巻ニ射向ノ袖付タリ 盛衰記

四幅袴

○平一揆小午袋四幅袴笠符ニ至ルマテ一色ニ

赤カリケル 太平記 武藏野合戦

長絹

○伊賀判官光季サテハ治部次郎アノ壽王ニ物

小袴

具セサセヨト云ケレハヤカテ長絹直垂小袴ニ

萌黄匂小腹巻ニ十五サレタル深羽矢重藤弓ヲ

ソモタセケル 兼久記

同

○伊賀判官ハ重目結直垂小袴ニ鎧一領前ニ置

弓矢ニ腰ナラベ至敵今ヤト待カケタリ 兼久記

錦直垂  
之禁

○義経百騎許ニテ白旗サ、ケ参タリ何者ソ左

右ナク錦直垂ヲ着白旗ヲサ、ケタルヲ不心得

ト宜ハ源九郎義経ト名ノル参考平治物語頼朝

○尊氏公錦甲直垂ヲ少貳頼尚ヘ賜フ参考太平記

○將軍義輝公賜錦甲直垂于毛利元就京都將軍家譜

小袴 ○木曾院宣ノ御使ニ小袴ニ懸直垂烏帽子ニ于

細ウタセテ鬚鬚モカ、スレテ 盛衰記

次第脛巾 ○下臈男一人出シ立テ次第脛巾キ裏笠ニ旅籠持

テ先達テ伊与國ヘ越 盛衰記港増同意源氏

同 ○馬モナキ次第脛巾ニ編笠ヲ着腰刀ニ太刀カ

ツキ 盛衰記佐々木取馬下向

壺脛巾

藁脛巾

物具裝束抄ニ備前國多シ麻糸ノ如シノレヲ編テ用脛半深泥ニハ殊有便事ニ候

○公方様御小者モ、ハバキキヤハレ十月五日

内野ノ経ノ御成ヨリ三月三日マデモナヒラレ候

雨フリミナワロク候ヘバ走リ衆モ御コモノモ脚

絆ヲバトラレ候大名内衆同前大吟ヒタ、レヲ

キ候時ハタレモキヤハレヲレ候サウシテアカ

ス子ノ見エ候夏ヒラウナリ夏ニ候 大双紙

小袴 ○小袴ノ事モトクハフトキカホソキニテニリ

候ヘスレナラテハツケ候ハズ長サハアシノツ

ブ、レノヘレマデト、キ候ニク、リヲ入テ犬

ナトノ時ニハク、リラレメテ其ウヘニムカ  
キヲハキ候ナリ當時ハナガバカマノ代ニモチ  
ヒラレ候間チトナガク候テ然ルヘク候御通ヒ  
ナドノ時足ノ見ヘ候ハゴラフニ候 大刃紙

○行纏附唐式云諸府衛士人別行纏一具纏者、真

本朝式云脛巾俗云、股新抄本草云茵領井反和名

編茵為行纏波岐故名抄

次第行纏 ○年老タル雑色三人召寄次第行纏ニ蓑笠具シ

糧料ミラフ篋ミラフ負テ京上リノ夫ニ作り盛衰記墨俣川

錦直垂 ○佐殿スデニ義兵ヲアゲタマフト聞エシカバ

ウツ立給フニ秀衡糾地ノ錦ノ直垂ニ紅スソゴ  
ノヨロヒ金作ノ太刀ソヘテ奉ル馬ハ御用ニシ  
タカツテ召ルヘシ平治物語頼朝

同 ○左衛門佐重盛生年卅三今日ノ軍ノ大將ナレ

ハ赤地ノ錦直垂ニ摺シノ白、鎧ニ蝶ノ又ソ金物ウ

ツタルニ竜頭ノ曹ノ緒ヲシメ平治物語

木蘭地 ○木蘭地直垂梅染ヲ云故實也楚辭ニ梅ト云物

無キト云イカバアルベキ木蘭ト云モノ梅也花

木ノ香シキニ梅ニシクハ無ク草花ノ香シキハ蘭

ナレハ木蘭ハタシテ梅也

曇子直舄

○大将名越尾張守平日の子物具並符小物等ありてを耀  
して被出立り花曇子の濃紅イ置物小深多る淺赤色小糸線  
の淺金物重く折 太平記山崎攻

帷子

○長崎次郎甲と脱袴筋帷の月日推多る雨粒好の大口  
乃上赤糸此腹巻等々小多とハ不居 太平記長崎次郎  
重最後

直舄上

○各迄天小燈帯一淺赤色の上とそ此物除袴斗子  
掛置りけて將軍此自穿ありハ此供りさんと腰の刀了  
よとけり 太平記松島城用幸

梨子打鳥帽子

愚見附考按梨打鳥帽子見附考引立鳥帽子一物也曹

ノ下ニモ著スレハモ之鳥帽子ト云曹ヲ又キ引

立レハ立ユヘニ引立鳥帽子ト云梨子打ト云ハ

スヘテ装束ノ糊強キヲハ板引ト云柔ナルハ梨

子打トイハハヤハラカ成鳥帽子ニハ梨子打ト

云歛縁厚ク重子又ル故ニ縁塗トイフ歛縁塗ヲ

山科殿ハ片塗ト被仰シト也カキアハセニスル

ヲ梨子ヲ打トイハハ地ナリスル故ニカタヌリ

ト云歛無地打ノコ、口成ヘシ古キ蓑鳥帽子一

條殿御家藏ヲ見レニ自由ニタ、ナハリ引立レ  
ハ立也士烏帽子郎是也折形アリテ今ノ士烏帽  
子ノ如クナルナリ弓馬ノ時ハ折テカケヲセシ  
也中古ヨリ別ノ物ニナリテ昔折京極折ナト云  
出來タリ當世ノ士烏帽子ハ觀世折トテ猿樂ノ  
烏帽子ニテイヤシキモノナレト故實ヲ矢ヒシ  
也梨打ヲ折カカタアリテ風折ニモ士烏帽子ニモ  
折レ也如無僧都ノ御幸ニ召具サレタリケルニ  
定國烏帽子ヲ河へ吹入ラレ髻ヲカ、ヘシニ杓  
炉箱ヨリ烏帽子取出シケルニ人々目ヲ驚シタ

ル高名トアレハ當世ノ烏帽子ニテ杓炉箱ニ入  
ルヘキ欵督殿ノ旅宿ニテ大太郎カ烏帽子箱ヲ  
取出シ中生ニ候テ七頭八頭當坐ニ折レニテモ  
可考事也烏帽子兼テ作り置所望ノ時ヤウカヒ  
ヲアテ折タメシナリ

○ムカシハエボウシコハクスルヲモナカリケ  
ルナルヘレ此比コソサビエホウレキラメキエ  
ホウシ折々カハリテ侍ルメレ 續世純物語

○小スアフ以下ニ三日マヘヨリアモンヲトリ  
テ又オシテカケテタウ日シナクトレテヨク候

サシホウシ  
キラメキエ  
ホウシ

柔ウシタメ 丑ホウシテ 二三日マヘヨリヒタ井ニ能タメア

ハセ候へ 諸礼集 當世ノ烏帽子ノコトクナク具

時ニ折タメシ證ナルヘシ

保生串 ○鳥帽子ノ後ノ串ヲ保生串ト云ハ猿樂ノ保生

付始メシナリ

委烏帽子 ○白キ直垂ニ袖ノセハキニ委烏帽子引立盛衰記

引立烏帽子 ○行家ハ縫物ノ直垂ニ同毛鎧引立烏帽子ヲ着テ

即等三人相具 盛衰記

折烏帽子 ○魚綾ノ直垂ニ折烏帽子引立テ 同記

烏帽子上境 ○烏帽子上ニ境ノ緒ヲシメ 同記

烏帽子尾

○萌黄糸威ノ腹巻ニ烏帽子ノ尾盆ノ窪ニ押入盛衰記

採烏帽子 鉢巻

○曹ヲハ腕童一本ニ持セ採烏帽子引立薄紅梅鉢巻

シテ 右源平盛衰記屋島合戦

上折 ○上オリシタル烏帽子 保元平治参考

左折 ○公方様左折ノ御縁塗金襴ノ御肩衣小袴御小

手御脛楯御臍當御丹皮鏝御ヒツレキ虎皮鎌倉年中

行 事

○白キ小袖ニ黄ナル大口ケヒタレノ袖ヲムス

烏帽子引立

ビテ肩ニ打コシキノフミダシタル髪ヲイマダ

ケヅリモセストリアゲ一所ニユヒエホシヒキ



タラオレモウデボンノクボニヒキイレテエボ  
レカケヲモツテヒタイニムストユヒテ太刀ヲ  
トリ義経記

オラヌ烏帽子○一チヤウノ笈ニハオラヌエホシ十頭ヒタ、  
レ大口ナト入タリ 義経記

平礼 ○平礼ニ風折ヲ結テ鎧ヲ着タルモアリ 参考太  
平記

○武藏法師ナレ厄ツ子ニ首カレラヲソラサリケレハ

三寸ハカリ生ヒタルカレラニモエエボレユヒ  
ガレラレテ四尺ニ寸ノコクシツノ太刀 義経記

○烏帽子ハモト帽子ニラヤハラカナルヘク候

烏帽子ノ  
ユヒカレラ

昔ハ緋ヲ用タルモ候今ハ紙ヲ漆ニテカタメ申  
候フルキハヤハラカニ候ヘハ自由ニ成申候野  
行幸時四位以下鷹飼者着烏帽子候事見西宮記  
候故内府令申聞候ハ野行幸ノ鷹飼着烏帽子野  
中狩獵ノ時烏帽子ヤハラカニテ自然ニ風ニ吹  
レテソノカシテ折候ヲ後世風流ニ斜ニオリ候  
折烏帽子ニ候風折ノ名コレヨリ出来候由申候  
キ平礼ハ折烏帽子ノ類ニ候コレモカシラフト  
見附考  
リヒラメテ折申候ユヘ平礼ノ名ヲ得候故 野宮定  
基御説  
引立烏帽子事永仁正安等布衣始記大納言以下

平礼

風折烏帽子

引立烏帽子

細ホレ

至殿上人用之事所見候件記中細烏帽子着用之人モ相交テ見へ申候慥形様ハ不見得候但推量候所引立烏帽子ト申候ハ歌仙ノ繪ニウレロサマニソハタ千テオリタル烏帽子見へ候ユレニテモヤ候ハレ尤推量ニ候テ分明ニ所見ヲ工六候見附考細烏帽子ハ一白ニ無覚悟候モ之烏帽子ハ杉本美作ト申烏帽子師圓成寺故殿下へ調進候今ニ候下官儀彼故殿下ニハ十餘年親矣候ヘ左一言不及此更此比一條更相語ニ候キ其許ヨリ尋ラレ候ニ付被取出候コレハ先年故一位大納言清閑寺

シテヌリアホレ

取次テマイラセ候被美作力家ニ傳來ス説候テ調進候由昨今承候キ猶イマク其形ハ見ス候ヤハテカナルヨレハ更相物語ニ候キ淡塗烏帽子ト申ハ不及管見候但重服人墨塗烏帽子ヲ用候ニ淡ニテ墨ヲトク申候此更ニテモヤ候ハレ佐

セホレ

比烏帽子事凡烏帽子ゴトニサビナキハ無之候別ニ佐比烏帽子ト申候ハ不審ニ存候野宮宰相定基郷答書

ウハカリ

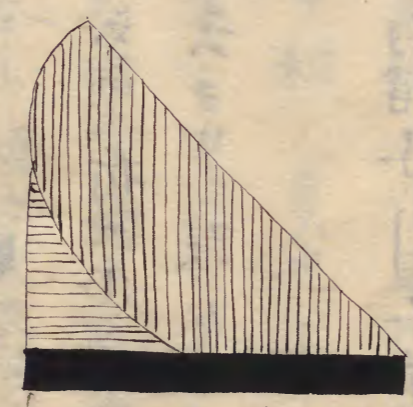
○安藝判官元盛ニラアヲノカリキヌニアサギ糸ノ鏡ニウハオリレタルエボウレノ上ニ曹ヲ著保元物語

烏帽入懐中

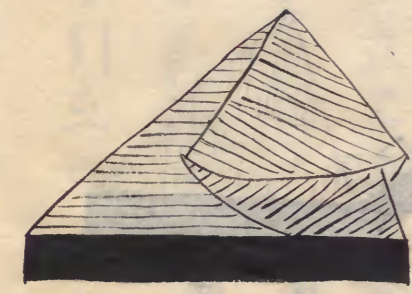
○美安四年三月三日ノ曙鞍馬ヲ出テ東路ハルカ  
ニ思立心ノ程コソカナレケレ其夜カミミノ宿  
ニツキ夜フケテ後午ツカラ髪取上テフトコロ  
ヨリエホウシ取ホシヒタトキテ打出給へハオ  
カノ介ハヤゲレフク候ヒケルヤ御名ハイカニ  
ト問ヒケレハ烏帽子親モナケレハ源九郎義經  
トコソ名ノリ侍へレ平治物語

折エホシ  
○云も習いぬ坂を登るとみ著るなをぬ折烏帽子  
小顔とわたりて我々の人々御まんとしけれと立旅  
舞へる折さすくふたのまのそ額付乃師の外ささく

たまた公家ゆを不付武家も不似  
太平記天下時勢概



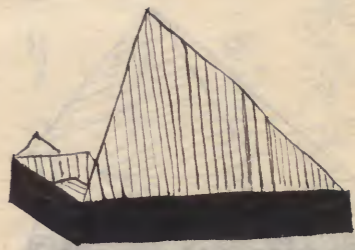
第一 左へ 折ル



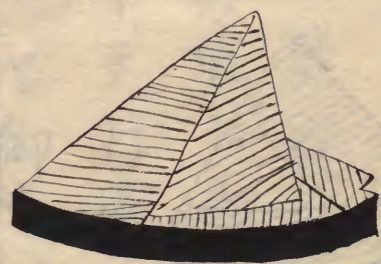
第二 右へ 折



第三 前 三角ニ 折ル



第四左ヨリ  
見ル形



第五右  
ヨリ見  
ル形

右ハ昔様トモ又ハ京極様凡云フ折エホウレノ  
折カタ也圖ノコトク第一ト云ヨリ段々ニ折ヘ  
キ也

子一曹ヲハ脱童ニ持セ揉烏帽子引立薄紅梅  
ノ鉢巻メ手綱搔繻扇ノ方ヘ打向  
盛衰記玉虫  
扇ヲ立

子折

○ヤ、太郎人ハ七八人アリ皆大童ナレバ民百  
姓マテモ落人トヤ見ルラム其憚アリ烏帽子所  
テ進ラセナシヤトイヘハ安キ程ノ夏也トテ宿  
所ニ請シ入奉テ白瓶子ニ口裏ミサマノ着  
ニテモテナシ奉リ酒宴半ニ烏帽子箱ヲ取出シ  
中座ニ候テ折テ人々ニ賤リ奉ル盛衰記衣笠合戦  
○立エホレヲカガ折リ狩衣ノ袖ヲウチカツイ  
テ 通小町ノ誼

立エホレヲ  
風折

折烏帽子  
引立

○義朝ヲ御前ニ召ル赤地ノ錦ノ直垂ニ折烏帽  
子引立ワイタテ計ニ太刀ハイタリ  
保元物語上皇  
三條殿御前



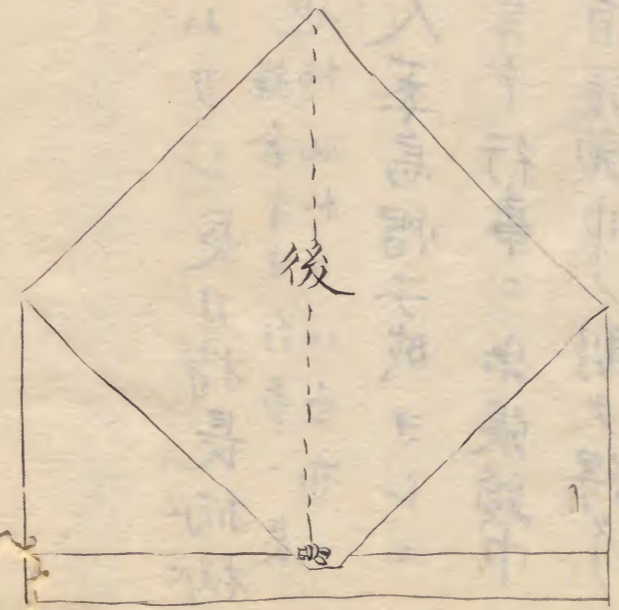
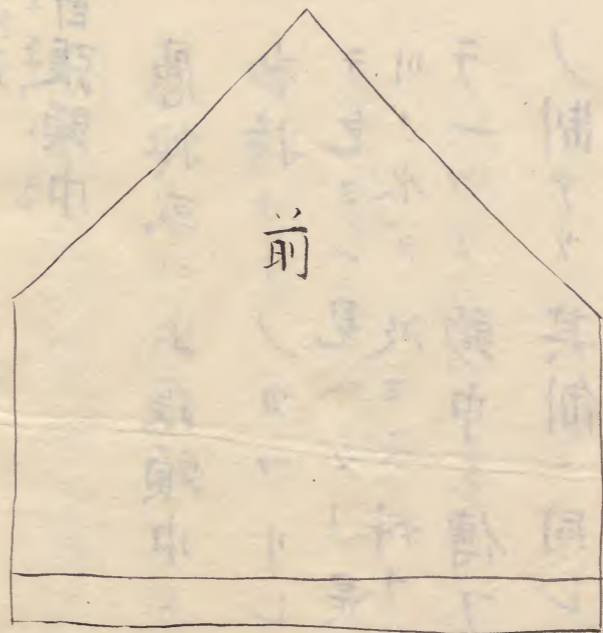
部ハ御長刀ヲ持ニ番ノカ者ハ柄長柄杓ヲ持

行中

絆頭巾

○シカマノ裾鎧直岳ニ絆頭巾ニ黒糸威ノ大荒  
目甲ノ一枚交ナルヲ草摺長ニユリ下

盛衰記  
宇治合戦



○或ハ柳ノ衣ニ不動袈裟カケタリ或ハ鴝甲ニ鎧  
着タリ或ハ首丁頭巾ニ腹巻着

盛衰記教盛夢  
忠正為義事

○太夫坊覚明ハ首丁頭巾フレナハメノ鎧ヲ着

盛衰記新八幡願書

○土佐房昌俊ハ黒革鎧着テ首丁頭巾ヲ着タリ

平家  
物語

○柳ノ御衣ノス、ビタルニ長頭巾ヲマキテ

元保

平革ノ版ハ中ニ天平十二年八月日ト有之不動ノ  
像及八幡二字并梵字等アリ右神佛ノ形アルニ  
ヘニ高買ヲ忌憚ケリ 佐々軍記

正平革

貞史云猿十レ  
猿獅子牡丹唐草梅バチアリテ小短尺ノ内ニ正  
平六年六月一日トアリ肥後ノ熊本ニテ最初リ  
メレヲ上品トス後ニソメレハ悪シ

○征西將軍懷良親王八代高田ニマシケル時  
南朝正平年中別板ヲ彫シメ給フ此版ハ中ニ正  
平六年六月一日トアリ諸國正平深權輿也 土人説

表革

錦革 鴨革

上古染革甚多レ染革ヲハ表革ト云シナリ  
○ユガケニヌフマジキ革ノ事ニシキ革又何革  
ニテモアレ無文ノ革ニテヌフマジキナリタト  
ヒコト革ニテユビヲツグトモソレハ畧儀也  
シキ革トハオモテカワノ変也 美人草

○或人云俗ニ御免革ト云モノ赤キハ錦革青キハ  
カモカワト云モノ也 高山  
○今ノ世ニテモ人ノ腰刀ニ錦ノ赤革ヲ下ケテ  
高火打袋トイフ是也 盛衰記

春日永年呂猿獅子ト云人ノ早言ナリ  
正平革ノ獅子ノ面猿ニ似タレハナリ

高山皮

ユガケノ上ハムラサキノトモ草中ハ指ヲムラ  
サキ草ニテツギ下ハ高山皮ノ丸文等ナルヘシ

諸礼集非也  
三儀一統

紀伊國皮

丹後目結

墓目皮

スワウノヒホカワノ夏クロムメコモシノツキ  
タル紀伊國草シカルヘキヨシ被申候金仙寺ハ  
クロムメモチヒラレシムラサキガワウチマカ  
セテハツケ候マデキヨシフルキ人申サレ候ヒ  
去ナガラ近年アツカヒモ候ハズ候夕ウセイ

丹後目結  
墓目皮

見及候ハタシゴメエヒヒキメカワナトヲヒモ  
ニ付ラル候サモアルベク候

諸礼集非也  
宗五記

苜蓿羊

杉立苜蓿

藍汁ニテ染苜蓿ノ狀ヲ白地ニ  
立苜蓿トイフアリ如此ソムル今ハハブキテ  
白點ヲ△如此深ルノ也

八幡黒草

上古ノ褐草也近世八幡山下大谷村ニ住スル神  
人十八家トスルユヘニ八幡黒ト云也

鹿丸草  
見附考



鹿ノ丸草鞭ノ取柄ニセ又ヨシ美人草ニ見ヘク  
リ丸ノ皮トハ鹿ノハラコモリノ皮ナリ

繩目色革 盛衰記

小文藍革

汝カ旗ノ餘リトリカヘモナク似タルニ是ヲ押  
トテ藍皮一文ヲ賜下シ紛ヘリ其ヨリ畠山カ旗  
注ニ小紋藍皮ヲ押ケル也 盛衰

勳<sup>フス</sup>革<sup>ニ</sup>  
見附考

二條三品著<sup>フス</sup>燻白地鞆<sup>ヲ</sup> 東鑑

○ユガケノ上ハムラサキ革中ハ指ムラサキガ

表革

ワニテツギ下ハ高山皮ノ丸文等ナルヘシ 異本  
フスベカワ白革ニアヒカワハ人ニヨルヘシ 諸礼集卷之三  
一統

○或書云表革又錦革ト云

○皴<sup>シホ</sup>皮ト云字ハ何ノ染カハ毛ガハ文字替レル  
欽俗引<sup>ヒキ</sup>膚<sup>カ</sup>ト書リ當字欽延喜式ニハ皴<sup>シホ</sup>文ト書キ

又波文ト書テヒキハタトヨム皴<sup>シホ</sup>ノ字ハシワ也  
彼ハシワヲモレトスレハ心叶ヘリ波モ又ハシ

ワ也同シ心ナルベシ皮ヲ毛ガワニ用フ依テア  
ラカワト云也革ヲ染カワニ用フ是ヲツクリカ

ワト云字注ニモ皮ノ去<sup>ル</sup>毛<sup>ヲ</sup>ナシト云リ 盛衰抄

○牛皮一張長六尺五寸除毛一人除膚肉一人浸水潤釋一人曝涼踏柔四人染皺文革一張長廣採楳皮一人合和麴鹽漆造四人鹿皮一張長四尺五寸除毛曝涼一人除層穴浸釋一人削暴和腦槎乾一人半

深皂革一張長廣燒柔熏烟一人深造二人延喜式内藏寮

○洗革延喜式

○皮又梳皮イタノカハト訓ス又革ツクカハ假名字例

繩見色革  
○白河院ノ近習者ニ坊門中納言親信ト云人御



座ケリ右京大夫信輔朝臣ノ子也彼信輔武藏守タリシ時當國ニ下リテ儲タリケルカ元服シテ叙爵シ給ヒタリケレハ異名ニ坂東大夫ト申ケルカ兵衛佐ニ成タリケルニモ猶坂東兵衛トノ申ケル新大納言法皇ノ御前ニテ戲テヤ、イカニ親信坂東ニハ何事共カアルト申サレタリケルニ兵衛佐取敢マ繩目ノ色革コソ多ク候ヘト答タリケレバ大納言顔ノケレキ少替テ又物モ宣ガリケリ此大納言ハ平治ノ乱逆ノ時信賴御ニ同心トテ六波羅ハ召レシニ嶋摺ノ直岳著テ



四終



高子小字ニ縛ラレテ耻ラサラシケル夏ヲ思出  
テ繩目ニソヘテ申ケリ平盛裏記小松殿教訓

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '高子', '小字', '縛', '耻', '夏', '思出', '繩目', '申ケリ', '平盛', '裏記', '小松', '殿', '教訓']*

